2018年度
授業要覧

理工学部
履修ガイド

青山学院大学

教育方針・理念

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人とに仕え社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学のすべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのおのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

青山学院大学

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

本学は、教養教育である「青山スタンダード」を基礎とし、各学部学科の専門教育によって教育課程を編成する。

共通教育の性質上、扱う分野は多岐にわたる。カリキュラム体系として、分野を 9 領域に分け、加えて初年次教育のカテゴリーを用意する 。また、さまざまな学問分野に触れる機会を多くするため、基礎的技能および本学の建学の精神にかかわる一部の科目を除き、多くを選択必修科目として配置する。各領域および初年次教育の内容は以下のとおり編成する。

・キリスト教理解関連領域（領域 A）
キリスト教の使信、起源、および発展を理解することにより、世界史におけるキリスト教の宗教的、社会的、道徳的、学術的、経済的、政治的、また狭義の文化的影響と意義をキリスト教の立場から考察する。

・人間理解関連領域（領域 B）
哲学、倫理学、心理学、教育学、文化論、芸術論、文学、言語学、人類学など人文諸科学を通じて、人間とは何かを学ぶ。

・社会理解関連領域（領域 C）
社会がどのようなしくみとシステムによって成り立っているのか、また、どのような社会的課題があるのかを理解する。

・自然理解関連領域（領域 D）
自然現象を探求する行為、及びそれによってもたらされる科学的・合理的思考と応用とを理解し、科学的発見と技術開発が人間生活や社会に与える影響や変化を多面的に考える。

・歴史理解関連領域（領域 E）
歴史の中で政治や経済、法、学問、文化、言語などがどのように構成されてきたのかを理解し、人類史、文化史、自然史といったマクロな歴史的洞察を深める。

・言葉の技能（領域 F）
日本語はもとより英語をはじめとする諸外国語についてのスキルアップをめざす。

・身体の技能（領域 G）
自分の身体についての基礎知識や身体技法に関する知識を獲得し、生涯にわたってスポーツに親しむことの出来る能力や健康な生活をマネジメントする能力の修得をめざす。

・情報の技能（領域 H）
情報化社会を生き抜く上で必要な IT（Information Technology）に関する技法やメディアリテラシーの修得をめざす。

・キャリアの技能（領域 I）
将来、社会人として活躍するために、様々な職業の実態を具体的な事例を通して学び、また職業人に必要なスキルを身につける。

・初年次教育
大学で学問を学ぶ意義や個々の学問の目的、手法について学習し、さらに職業観、勤労観などを育成する。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

本学を卒業する人材は、教養教育である「青山スタンダード」および学部・学科ごとの専門教育を学修し、正課外活動を通じて、以下の能力等を有している。

・十分な知識・技能
・それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力
・これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲・関心・態度

「青山スタンダード」による学修は、およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、以下の一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けることを到達目標とする。

①知識・技能

・学問的なものの考え方、基本的な調査・分析・表現方法、現代社会で活躍するための基本的な情報スキルを身につけている。

②思考力・判断力・表現力

・さまざまな学問分野 の視点・手法・成果を理解し、物事について多面的、多角的に考えることができる。

③意欲・関心・態度

・異なる文化・社会や異なる歴史観への関心、および他者への豊かな共感をもち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

理　工　学　部

物理・数理学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

基礎だけにとどまらず、種々の分野への応用にも目を配った物理科学・数理サイエンスの教育を通して、創造的かつ人、社会および自然環境に対して責任を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

１年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析および物理科学・数理サイエンス学習の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。また、物理学・数学の共通基礎である力学、解析学、線形代数の講義と演習は必修科目として配置する。

２年次の授業では、物理科学コースと数理サイエンスコースに分け、物理学と数学分野としてそれぞれの分野で最も重要な電磁気学、量子力学、および代数学、幾何学、集合論、確率論等を必修科目として配置する。これらの科目は演習と組み合わされ授業を行う。これによって、集中的に基礎的な学力を習得させる。また、「物理計測実験」を物理科学コースの学生を対象に実施する。

３年次では、やや専門的な講義科目を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「多様な分野への応用」が達成できるように配置する。同時に、数理サイエンスコース学生向けに「数理専門実験」を、物理科学コースの学生には「物理専門実験」を必修科目として配する。

４年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

物理・数理学科を次の２つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

物理科学コース：力学、電磁気学、量子力学、統計力学、相対性理論等の基礎物理学から、固体物理学、宇宙物理学、生物物理学など対象が絞られた分野、さらには、超伝導、ナノテクノロジー、量子エレクトロニクス等の最先端応用分野まで、さまざまな階層・スケールサイズにおよぶ物理学を学ぶ。

数理サイエンスコース：代数学、解析学、幾何学、集合論、確率論といった純粋数学から、数値解析学、数理生物学、ファイナンス数学、可積分系といった応用数学まで幅広く数理科学について学ぶ。

上記に平行して、物理学実験、物理学演習、数学演習、数理サイエンス演習など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、物理科学コースにおいては、原則として結果の知られていない新たな問題にあたる。実際の実験装置作り、新たな発想による実験のデザインと実行、新規データの解析、新たな着眼点からの数値シミュレーション等を行う。数理サイエンスコースにおいては、基礎的な数学に立脚した身近な問題へのアプローチ、非線形数学への応用、新しいアルゴリズムに基づく数値解析やファイナンス数学・数理生物学の研究テーマから問題に正対する。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

物理・数理学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（理学）」を授与する。

①知識・技能

・専門能力として、基礎および応用の物理学・数学に基づき、種々の対象を分析し、問題点を理解し解決できる能力を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち多様な問題に対しその解決に向けたアプローチ方法の基礎を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

・基礎知識に基づく対象の観察と問題把握、分析と解析の訓練に基づく洞察力と判断力、およびこれらを客観的かつ論理的に再構築し、あるいは本質的な点を抽出しモデル化することによって、対象の問題点とその解決案を他者に伝える能力を身につけている。

③意欲・関心・態度

・現実世界で遭遇する未知の問題を理解する探究心を身につけている。
・難しい問題にも関心を持ち、真摯な態度で問題に向かい合い、解決するために創造力を発揮できる技術者・研究者となる意欲を持っている。

化学・生命科学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

化学及び生命科学教育を通して、人と社会と自然に対して責任を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、化学及び生命科学の基礎としての物理学・数学に加えて、化学及び生命科学自体の基礎、さらに基礎的な実験・実習技術の習得を重視する。

2年次と3年次では、主に、化学及び生命科学分野の重要な4系列、すなわち、「物理化学」、「無機・分析化学」、「有機化学」、「生命科学」の専門コア授業科目を選択必修科目として配置する。これらの4系列の科目に関連した専門実験も必修科目として配置する。これによって、集中的に専門知識とその実践能力を習得させる。

4年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究及び輪講を行う。

化学及び生命科学を、「物理化学」、「無機・分析化学」、「有機化学」、「生命科学」の4つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

これに並行して、化学・生命科学輪講Ⅰ（輪講科目）や、無機化学実験、物質分析化学実験、物理化学実験、有機化学実験、生命科学実験Ⅰ、生命科学実験Ⅱ、情報処理実習などの専門実験・実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を習得できるように十分な指導を行い、「化学及び生命科学分野の発展及び変化する社会のニーズに対応できる技術者・研究者の育成」を目指す。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

化学・生命科学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（理学）」を授与する。

①知識・技能

・化学及び生命科学分野の基礎知識と、「物理化学」、「無機・分析化学」、「有機化学」、「生命科学」の専門知識を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

・基礎知識に基づく専門知識の実践に関する能力、および研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を身につけている。

③意欲・関心・態度

・化学及び生命科学分野の基礎知識と専門知識を理解する探究心を身につけている。
・難しい問題にも関心を持ち、それを解決するための実践的な能力を発揮できる技術者・研究者となる意欲を持っている。

電気電子工学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

基礎から応用に関する講義群と実践的な演習と実験を通して、社会のインフラとなっている電気電子工学を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

１年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析および数理思考の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。

２年次の授業では、電気電子工学として最も重要な電気回路、電気磁気、電気物性、電気電子計測を必修科目として配置する。これらの科目は適宜演習を行う。これによって、電気電子工学分野に共通する基礎的な学力を習得させる。

３年次では、電気電子工学実験を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「現代生活になくてはならない電気・電子工学に対して責任を担いうる技術者の育成」が達成できるように配置する。

４年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

電気電子工学を次の４つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

分野１：材料～デバイス
分野２：電磁波～情報・通信
分野３：電子回路～電子応用
分野４：パワーエレクトロニクス

上記に平行して、電気電子工学基礎実験、電気電子工学実験、電気機械設計及び製図など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、電気電子工学および周辺分野における具体的な課題を研究テーマとして、研究背景の理解、文献調査、研究計画の立案、研究に係る実験を遂行する。そして、３年次までに学んだ電気電子工学の専門知識の工学的意義を理解し、実践的活用を通じて、問題解決手法を身につけることを目指す。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

電気電子工学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（工学）」を授与する。

①知識・技能

・専門能力として、「材料～デバイス」、「電磁波～情報・通信」、「電子回路～電子応用」、「パワーエレクトロニクス」の領域から１つ以上の系統だった知識を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、電気電子工学に携わる技術者の基礎を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

・基礎知識に基づく精密な論理展開の理解、実践的活用の鍛錬に基づく洞察力と判断力、およびこれらを他者に伝えるためのプレゼンテーション能力を身につけている。

③意欲・関心・態度

・数理思考や基礎知識の理解だけではなく、直接見ることができない電気電子現象を理解する探究心を身につけている。

・難しい問題にも関心を持ち、研究者・技術者として必要な社会性や倫理観を身につけ、チームメンバー同士の連携を深め、何事にも協調性を持ちながら積極的に取り組むことができる技術者となる意欲を持っている。

機械創造工学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

ものづくり教育を通して、創造的かつ人と社会と自然に対して責任を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析およびモデル構築の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。

2年次の授業では、機械工学として最も重要な4力学、すなわち、材料力学、機械力学、熱力学、流体力学を必修科目として配置する。これらの科目を演習と組み合わせることで、集中的に基礎的な学力を習得させる。

3年次では、機械創造工学実験および機械設計製図を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「もの創りのできるアカウンタブル・エンジニアの育成」が達成できるように配置する。

4年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

機械工学を次の3つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

分野1：材料を対象とし、材料の変形・強度・破壊など、材料の性質・挙動などについて学ぶ。

分野2：熱や流体を対象とし、熱や流れの力学、熱エネルギーの利用や熱移動、輸送システムなどについて学ぶ。

分野3：動力学・計測・制御・生産を対象とし、機械の動きとその計測・制御といったシステムに関する基礎、設計手法・生産システムなどについて学ぶ。

上記に平行して、ラボワーク、機械創造工学演習、機械創造工学実験、機械設計製図など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、実験的な研究を重視する。解析的な研究の場合にも、単なる数値シミュレーションの研究とならないように、工学的な意義、実験結果との比較、実社会への応用などについて十分な指導を行い、「もの創りのできるアカウンタブル・エンジニアの育成」を目指す。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

機械創造工学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（工学）」を授与する。

①知識・技能

・専門能力として、力学（材料、熱、流体および機械の動きに関する知識）に基づく現象の分析力と、機械構造物を設計・製作できる統合力を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、責任を持って説明できる技術者（アカウンタブル・エンジニア）の基礎を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

・基礎知識に基づくリスクの察知、観察能力の鍛錬に基づく洞察力と判断力、およびこれらをモデル化し、他者に伝える能力を身につけている。

③意欲・関心・態度

・実験技術、シミュレーション技術等を用いた、実物のリアルな世界で現象を理解する探究心を身につけている。

・難しい問題にも関心を持ち、責任を持って説明できる技術者（アカウンタブル・エンジニア)、解決するために創造力を発揮できる技術者となる意欲を持っている。

経営システム工学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

実験・演習科目、講義科目、インターンシップを通して、豊かな国際性と倫理観を有し国際社会を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析およびモデル構築の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視する。

2年次の授業では、経営システム工学として最も重要なモデル化技術、分析技術最適技術分野の科目を必修科目として配置することで、包括的に基礎的な学力を習得させる。

3年次では、経営システム工学の実験科目を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「経営システム工学の専門知識・技術を身につけ、それらを高度に発展させられるエンジニア」が達成できるように配置する。

4年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

経営システム工学を分析技術、モデル化技術、最適化技術の分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

モデル化技術分野：現実社会の客観的な理解力を養う。

分析技術分野：データに基づく思考力を養うための技術を学ぶ。

最適化技術分野：目標達成のための効果的な判断力を養う。

上記に平行して、モデル化技術実験、分析技術実験、最適化技術実験など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、経営システム工学の観点から現実社会の課題と問題を認識させながら、十分な指導を行い、「経営システム工学の専門知識・技術を身につけ、それらを高度に発展させ、論理的思考能力と判断力を発揮できる技術者」を目指す。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

経営システム工学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（工学）」を授与する。

①知識・技能

・専門能力として、モデル化技術、分析技術、最適化技術を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、論理的思考力、専門知識・専門技術を活用した、課題解決の実践能力の基礎を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

・基礎知識に基づく論理的思考能力に基づく洞察力と判断力、およびこれらを数理的な手法を使って体系的にモデル化し、コミュニケーションできる能力を身につけている。

③意欲・関心・態度

・社会や組織の仕組みを理解する探究心を身につけている。

・難しい問題にも関心を持ち、企業や社会をより良く機能させるための管理技術と、システムの開発から実際の導入までを考察して実践できる論理的思考能力と判断力を発揮できる技術者となる意欲を持っている。

情報テクノロジー学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

システム構築や、設計・開発演習による教育を通して、人の置かれた情報環境を継続的に改善する能力と責任を担いうる技術者・研究者を育成する教育プログラムを構築する。

１年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析およびプログラミングおよびシステム構築の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報基礎知識の習得を重視する。

２年次の授業では、情報基礎として最も重要な計算機概論、ロボット工学、数理モデル解析法、ソフトウェア設計を必修科目として配置する。これらの科目はプログラミングおよびシステム演習と組み合わされ、講義と演習が対応するように行う。これによって、集中的に基礎的な学力を習得させる。

３年次では、情報テクノロジー実験および総合プログラミング実習を重点的に配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標である「情報テクノロジーを活用して社会貢献のできるエンジニアの育成」が達成できるように配置する。

４年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行う。

情報テクノロジーを次の４つの分野に大別する。学生自身が自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てる。

分野１：ソフトウェアテクノロジー：人工知能や自然言語処理などの、数理モデルを基にした基礎理論、構築・設計方法や評価技法について学ぶ。

分野２：メカトロニクステクノロジー：ロボットに代表される現代的な機械システムおよび、創造的な利用技術を対象とし、生産現場や、社会生活での応用方法などについて学ぶ。

分野３：ヒューマンファクタテクノロジー：人間工学や福祉の観点からの、工学的問題解決の実践的技術と研究倫理および、セキュリティについて学ぶ。

分野４：ネットワークテクノロジー：Web や IoT などの現代の Web 関連技術の基礎からネットワークの最先端の応用技術を対象とし、社会に広く利用されている Web アプリケーションの安全な利用や効率的な運用方法などについて学ぶ。

上記に平行して、ラボワーク、情報テクノロジー体験演習、総合プログラミング演習、情報テクノロジー実験、図形情報科学演習など、演習、実験、実習科目を配置する。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる。

卒業研究では、理論と実践のバランスの取れた研究を勧め、発生事象やユーザのフィードバックを重視する。プログラミング、システム構築、Web システム開発などの実践的研究手法と、インターネット情報の大量の情報の分析、および、それらを基にした適切なシステム設計の各段階を意識できる「情報テクノロジーを活用して社会貢献のできるエンジニアの育成」を目指す。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

情報テクノロジー学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（工学）」を授与する。

①知識・技能

・専門能力として、情報数学およびプログラミングの基礎能力、および、システム設計、構築能力と、システム開発及び問題解決のための実践的統合能力を身につけ、基礎的素養として、英語、数学、情報技術を身につけている。すなわち、責任を持って説明できる技術者（アカウンタブル・エンジニア）の基礎を身につけ

ている。

②思考力・判断力・表現力

・基礎知識に基づくシステムの動作の推定や挙動の妥当性の判断、ネットワーク環境でのセキュリティの視点に基づく危機管理能力を養成するための鍛錬に基づく洞察力と判断力、およびこれらを可視化し情報共有と集合知を起動するためのコミュニケーション能力を身につけている。

③意欲・関心・態度

・情報技術を応用する他分野の技術蓄積を積極的に吸収し、それらの関連付けを積極的に実践し、実現象を理解する探究心を身につけている。
・難しい問題にも関心を持ち、責任を持って説明できる技術者（アカウンタブル・エンジニア)、解決するために創造力を発揮できる技術者となる意欲を持っている。

総目次

Ⅰ．キリスト教教育について…… 2

Ⅱ．大学での学習活動について…… 3

1　大学での学習とは（カリキュラム／履修）

2　単位（単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定）

3　授業科目の種類と配置（授業科目の種類／履修年次／履修順序）

Ⅲ．履修について…… 6

1　履修計画（履修計画の立案／履修計画上の注意）

2　履修登録（履修登録について／履修登録の方法／履修登録の確認と修正／履修取消制度について／履修取消申請方法／青山学院女子短期大学との単位互換制度について）

Ⅳ．学部履修要項…… 11

Ⅴ．授業について…… 97

1　授業（授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について）

2　大学からの伝達

3　緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について

Ⅵ．試験・レポートについて…… 99

1　試験の種別（定期試験／平常試験／レポート／追試験）

2　定期試験の受験（定期試験時間／受験上の注意）

3　追試験の受験（申請資格／申請方法／追試験時間・採点）

4　不正行為

Ⅶ．成績評価について（成績評価／G. P. A.／成績通知／成績調査）…… 103

Ⅷ．進級および卒業について（進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度）…… 105

Ⅸ．証明書について…… 106

Ⅹ．学籍について…… 107

（修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転学部・転学科）

Ⅺ．教職課程（教員免許状・各種資格）について…… 109

Ⅻ．大学院について…… 116

巻末　教務窓口について

Ⅰ．キリスト教教育について

本学のキリスト教教育

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き　真理を謙虚に追求し　愛と奉仕の精神をもって　すべての人と社会とに対する責任を　進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な学校です。したがって、その中に設置された青山学院大学においても、キリスト教教育を非常に重視しています。

本学における教育の特徴が他の国公立や私立の大学と異なる最もユニークな点は、このキリスト教による教育方針にあるといえます。

この教育方針をまっとうするために、本学には次の３つの基本的プログラムがあります。

⑴　大学礼拝　　⑵　キリスト教概論　　⑶　宗教センター活動

⑴　大学礼拝

大学では、キリスト教教育の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています（礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 18時～18時30分、相模原・月～金 10時30分～11時）。大学礼拝は、キリスト教の信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、大学礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。

⑵　キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論」があります。この講義は、本学建学の精神であるキリスト教の信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践などの問題を理解するとともに、キリスト教の現代的意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。その他数多くのキリスト教関連科目が青山スタンダード（テーマ別科目）、ソーパー・プログラム科目、各学科科目のなかに配置され、みなさんの知的好奇心にチャレンジしています。

⑶　宗教センター活動

青山学院は、プロテスタント・キリスト教信仰の上に創立された学園であり、宗教センターは、特に、メソジスト教会の創始者、ジョンおよびチャールズ・ウェスレー兄弟の信仰的伝統を重んじ、キリスト教活動を行っています。青山キャンパスは間島記念館１階に、相模原キャンパスはＣ棟（チャペル）１階にそれぞれ宗教センターがあり、学生キリスト教活動の中心になっています。

各宗教センターでは、みなさんのために「聖書に親しむ会」、「キリスト教文化に親しむ会」、青山キリスト教学生会（ACF）、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ゴスペル・クワイアまた、キリスト教図書の閲覧、講演会・コンサートの開催、研修旅行の実施などの活動が行われており、学生生活に色彩とバランスをあたえるために重要な役割を果たしています。さらに、各宗教センターには大学の専任教員でもある宗教主任（牧師）がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。この宗教センター活動は他大学とは異なる本学独特のシステムであり、みなさんの利用を待っています。活動の詳細は「キリスト教活動のしおり」ならびに宗教センターWebサイトを参照してください。

Ⅱ．大学での学習活動について

1．大学での学習とは

カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

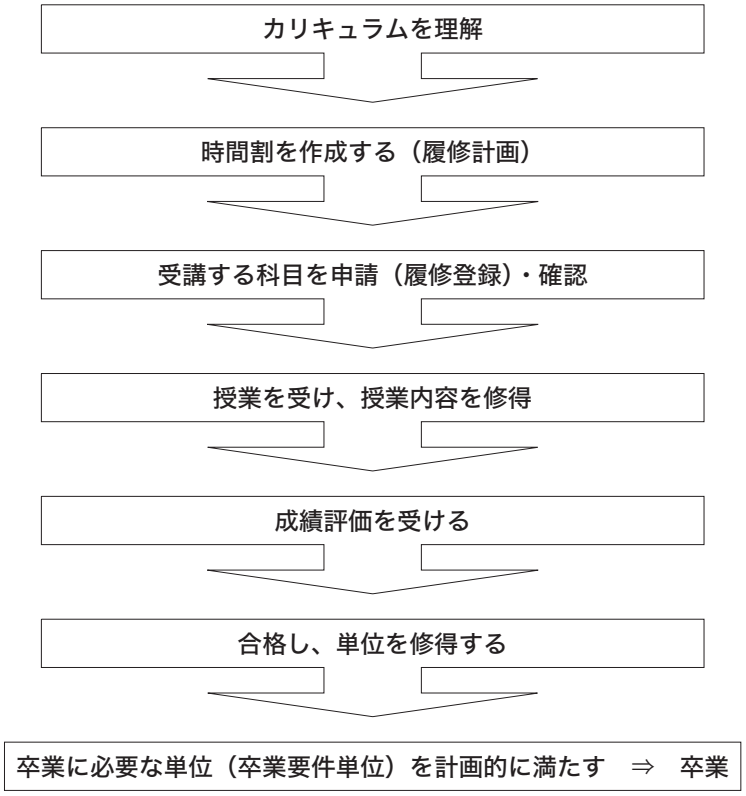
カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「Ⅳ．学部履修要項」を参照してください。

履　修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「成績評価を受ける」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下のようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

2．単　位

単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ１単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「Ⅳ．学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したものです。授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	１単位の標準＝“45時間の学修が必要な内容”

本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	１単位＝授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	１単位＝授業30～45時間分

15時間の講義科目（１単位）を例に取ると、“45時間の学修を必要とする内容”で１単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“１時間”とは、授業時間45分を表します。本学での１時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、１時限＝“２時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

15週×２時間＝30時間分＝２単位

となります。

実際の単位数

半期科目 （前期のみ、または後期のみの科目）	15週で完結 ・講義科目なら２単位 ・演習科目なら２単位または１単位 ・実験・実習・実技科目なら１単位
通年科目 （一年を通して行われる科目）	30週で完結 ・講義科目なら４単位 ・演習科目なら４単位または２単位 ・実験・実習・実技科目なら２単位

既修得単位の認定

新たに入学した１年生で、本学入学以前に他大学・短期大学ですでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間（**入学式翌日～前期授業開始日**）に書類を所属キャンパスの教務窓口に提出し申請してください。各学部・学科の基準に従って単位認定の可否が決定されます。既修得単位として認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。（大学学則第42条参照）この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

編入・転学部・転学科した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間（入学手続時配付書類に記載）に書類を所属キャンパスの教務窓口に提出し申請してください。

協定校･認定校留学による単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことで、留学先で修得した単位について、各学部・学科の基準に従って単位認定の可否が決定さ

れます。既修得単位として認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。（大学学則第42条参照）ただし、教員免許状取得希望者の場合、認定された科目の単位は、教員免許状取得に係る単位として証明されません。

3．授業科目の種類と配置

授業科目の種類

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の３つに区分されます。

授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしていく必要があります。

また、授業の開講期間によって、１年を通じて実施する「通年科目」、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、夏期・冬期休業期間などを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を**履修するのが望ましい学年**のことです。履修年次は、４年間の学習を系統的に行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「Ⅳ．学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、**現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできません**が、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「Ⅳ．学部履修要項」で確認してください。

履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、**ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない**、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、４年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「Ⅳ．学部履修要項」に記載されています。

Ⅲ．履修について

1．履修計画

履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

１年間で履修申請できる単位数が決められています。下記の⑴～⑸にそって、履修計画を立ててください。

⑴　年度末から年度初めにかけてのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。学部・学科・学年によっては、Web 配信の場合があります。

⑵　カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「Ⅳ．学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

⑶　各授業科目の講義内容を知る。

『講義内容』（「学生ポータル」の「時間割・講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。具体的な授業内容を知りたい場合は、履修登録期間中に受講してみる、受講時に担当者に確認するなどの方法でも講義内容を確認できます。（履修登録期間終了後は、履修登録をしていない科目を受講することはできません。）

「Ⅳ．学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「Ⅳ．学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

⑷　卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「Ⅳ．学部履修要項」、「Ⅹ．教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

⑸　履修したい科目を検討する。

どの曜日・時限に授業を履修するか、『授業時間割表』（「学生ポータル」の「授業時間割表（PDF 版）」よりアクセス可能）や履修ガイダンス時に配布された資料等を参照しながら検討してください。

履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

⑴　通年で１科目以上履修登録しない場合は、除籍になる可能性があります。大学側で事前に登録する科目以外に、必ず自身で１科目以上の履修登録をするようにしてください。ただし、４年生については、事前登録科目の履修のみで卒業見込みとなる場合、履修未登録の扱いにはなりません。

なお、前期に履修登録をしない場合は、後期に履修登録する意思があることを教務課まで申し出てください。

除籍に関する詳細は、授業要覧「Ⅹ．学籍について」を参照してください。

⑵　同一時限に、２科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に

許可された科目を除きます。）

⑶　各学部・学科で１年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められており、その単位数を超えて履修することはできません。
教職課程関連科目および教職課程科目については「Ⅳ．学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。

⑷　既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）

⑸　他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時間の間に実施されている授業科目の履修はできません。

⑹　他学部科目の履修を希望する場合、「Ⅳ．学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参照してください。

⑺　第一部の学生が第二部開講科目を履修することはできません。

⑻　履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目の登録が無効となります。

⑼　受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

２．履修登録

履修登録について

「履修登録」は、学期初頭に、その学期に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。一科目でも登録もれや登録間違いがあってはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。履修登録期間は「学生ポータル」で確認してください。

制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なります。また、当選した場合は、履修を取り消すことができません。

後期開講科目であっても、前期に履修登録を行う科目がありますので、注意してください。

後期の履修登録に際しては、次の４点に注意してください。

⑴　最高履修制限単位内で、後期科目のみの登録を行うことができます。

⑵　通年科目を削除しなければならない登録はできません。

⑶　前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。

⑷　⑵⑶の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修登録期間中に登録できる単位数は次のとおりです。

後期履修登録期間に登録できる単位数（後期科目のみ）＝当該年度の最高履修制限単位－（前期修得単位数＋前期に修得できなかった単位数＋履修取消科目の単位数＋通年科目の単位数）

履修登録の方法

本学の履修登録は、基本的にはWeb上のシステム「Web履修登録システム」で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。

【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字5桁で表示されている	Web履修登録システムを利用して、自分で登録できます。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
＋＋＋＋＋	Webで抽選または選考を行う科目です。Web履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いのないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。
＊＊＊＊＊	Web以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所（オリエンテーション期間中や初回授業等）で申請してください。申請方法については、『学年初頭行事』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
＃＃＃＃＃	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。
－－－－－	受講が許可された学生のみ登録できます。学部学科等の指示に従ってください。

【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週2回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

【集中講義科目】

集中講義科目とは、曜日・時間にかかわらず、一定の期間に集中して授業を行う科目です。『授業時間割表』の各学部・学科注意事項を確認のうえ登録してください。

【「健康・スポーツ演習」・「スポーツ運動実習」】

『学年初頭行事』を参照のうえ、これらの科目に関するガイダンスに出席してください。

履修登録の確認と修正

履修登録最終日は、アクセスが多く、登録に時間がかかります。「混みあってアクセスできなかった」という理由は認められませんので、余裕をもって履修登録が完了するようにしてください。

エラーが表示されたら、適切に対処してください。自分で解決できない場合は、所属キャンパス教務窓口で相談してください。

登録や修正を行った後は、必ず「履修登録画面」で誤りがないか確認してください。印刷した履修登録リストは、年度末まで保管してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

履修登録を行ったつもりで登録されていなかった科目や、誤って登録してしまった科目については、間違えたまま授業に出席し試験を受けても単位を修得することができないばかりでなく、登録していない科目の試験を受けることは不正行為とみなされ、処分の対象となります（『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条参照）ので注意してください。

期日までに履修登録をしない場合は、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

履修取消制度について

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。
詳細は以下のとおりです。

1）対象者：全学部生
2）対象科目：下記①、②を除く全科目
　① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）
　② 制限科目
※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「Ⅳ．学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。
※ 夏期集中科目（後期扱い）の取消は前期の履修取消期間に申請してください。
3）履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。
4）履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。
5）履修取消科目の成績評価の表示：
　① 成績通知書：「W」
　② 成績証明書：記載しない。
6）その他の注意事項：上記4）で説明した通り、履修取消をしても申請単位数は減りません。そのため、4年次留年生の申請単位数によって学費が計算される場合、履修取消をしても学費は減額されませんので注意してください。

履修取消申請方法

履修取消の申請は、所定の期間内に所属キャンパスの教務窓口でのみ受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。履修取消申請受付期間は、「学生ポータル」で確認してください。

青山学院女子短期大学との単位互換制度について

本学では青山学院女子短期大学との相互交流を促進し、学生の教育研究上の必要のため、単位互換に関する協定を締結しています。
本制度の利用を希望する学生は以下を参照し、履修手続きを行ってください。

1）対象者：全学部生（2018年度は女子学生のみ）
2）対象学年：2年生～4年生
3）対象科目：別途「学生ポータル」にて指示。
4）履修方法：定められた期間内に手続きを行ってください。
　手続きについての期間や詳細は「学生ポータル」で確認してください。
　※1 履修が認められた科目の履修取消は認めません。
　※2 受講に際しては女子短期大学の学事暦・時間割に従います。
5）単位認定：所定の合格基準に達した場合は、大学の科目として単位が付与されます。成績証明書および成績通知書には「＋＋」と表示されます。なお、単位が付与された場合でも、卒業要件には含まれません。

Ⅳ．理工学部履修要項

1．青山スタンダード科目履修方法および配置表…… 12
2．物理・数理学科履修要項…… 21
3．化学・生命科学科履修要項…… 35
4．電気電子工学科履修要項…… 44
5．機械創造工学科　教育目標とカリキュラム…… 54
6．機械創造工学科履修要項…… 55
7．経営システム工学科履修要項…… 66
8．情報テクノロジー学科履修要項…… 76
9．他学部科目一覧表…… 86

表の見方　「週時間数」の項目に記されている数字は、時間数を表す。

「週時間数」の表記	実際の授業時間（分）
2	90分
3	135分
4	180分 または、週２回のペア科目で、１回の授業が90分
6	週２回のペア科目で、１回の授業が135分

【青山スタンダード科目履修方法および配置表】

1．全学部に共通する教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に共通する教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けることを到達目標とする」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2．履修方法

<table>
<tr><th colspan="4">科目の種類</th><th>必選の別</th><th>必要単位</th></tr>
<tr><td rowspan="10">青山スタンダード科目</td><td>1）教養コア</td><td colspan="2">キリスト教理解関連科目</td><td>必　修</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2）技能コア</td><td rowspan="2">言葉の技能</td><td>英語</td><td colspan="2">※1</td></tr>
<tr><td>第二外国語　※2　※3</td><td>必　修</td><td>4</td></tr>
<tr><td colspan="2">身体の技能</td><td>必修　※4</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報の技能</td><td>必　修</td><td>2</td></tr>
<tr><td>3）テーマ別</td><td colspan="2">キリスト教理解関連科目</td><td>必　修</td><td>2</td></tr>
<tr><td>4）教養コア</td><td>人間理解関連科目
社会理解関連科目
自然理解関連科目
歴史理解関連科目</td><td>左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択</td><td>選択必修</td><td>4</td></tr>
<tr><td>5）領域指定</td><td>人間理解関連科目
社会理解関連科目
自然理解関連科目
歴史理解関連科目</td><td>左記領域より4）で選択しなかった2領域から各1科目（2単位）ずつ選択。(「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)</td><td>選択必修</td><td>4</td></tr>
<tr><td colspan="3">フレッシャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。(1)～5）で修得した科目は除く）</td><td>選　択</td><td>6</td></tr>
</table>

※1　言葉の技能・英語は、所属する学部（学科）が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部（学科）の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキルⅠ－1、Ⅰ－2を除く)

※2　第二外国語科目の中から1外国語を選択します（入学手続き時に申請されています)。

※3　第二外国語科目には、履修順序があります。

- 第二外国語科目は、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます。
- 「インテンシブ・(第二外国語)」は週に半期4クラスをセットとし前後期で履修登録するものです。このうち前期4クラスのどれか一つでも不合格となれば後期4クラスを履修することはできません。
- 「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」は、「(第二外国語）Ⅰ」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。
- 「(第二外国語)Ⅲ」は、「インテンシブ・(第二外国語)(A)～(D)－1」あるいは「(第二外国語）Ⅱ－2」の単位を修得した者のみが履修を認められます。
- 「(第二外国語）会話(Ⅱ)」は、「インテンシブ・(第二外国語）(A)～(D)－1」「(第二外国語）Ⅱ－2」あるいは「(第二外国語）会話（Ⅰ）－2」の単位を修得した者のみ履修を認められます。

※4　教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報・地球社会共生のみ必修です。

○　必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。

○　第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。

○　受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

3．授業科目配置表

（太字は必修項目）

			授業科目	単位	配置年次	備考
			フレッシャーズ・セミナー	2	1	1年生のみ
			ウェルカム・レクチャー	2	1	1年生のみ
			キャリアデザイン・セミナー	2	1	1年生のみ
教養コア科目			（キリスト教理解関連科目） **キリスト教概論Ⅰ**	**2**	**1**	
教養コア科目			（人間理解関連科目） 自己理解（総合科目） 自己理解（個別科目）	2 2	1 1	（総合科目）：複数の教員による担当 （個別科目）：一人の教員による担当
教養コア科目			（社会理解関連科目） 現代社会の諸問題（総合科目） 現代社会の諸問題（個別科目）	2 2	1 1	（総合科目）：複数の教員による担当 （個別科目）：一人の教員による担当
教養コア科目			（自然理解関連科目） 科学・技術の視点（総合科目） 科学・技術の視点（個別科目）	2 2	1 1	（総合科目）：複数の教員による担当 （個別科目）：一人の教員による担当
教養コア科目			（歴史理解関連科目） 歴史と人間（総合科目） 歴史と人間（個別科目）	2 2	1 1	（総合科目）：複数の教員による担当 （個別科目）：一人の教員による担当
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	英語スキルⅠ－1	1	1	1年生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	英語スキルⅠ－2	1	1	1年生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**（第二外国語）Ⅰ（A）－1**	**1**	**1**	（第二外国語）はフランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**（第二外国語）Ⅰ（A）－2**	**1**	**1**	
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**（第二外国語）Ⅰ（B）－1**	**1**	**1**	
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**（第二外国語）Ⅰ（B）－2**	**1**	**1**	
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**英語Ⅰ－1**	**1**	**1**	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**英語Ⅰ－2**	**1**	**1**	
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**英語（ⅠA）－1**	**1**	**1**	外国人留学生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**英語（ⅠA）－2**	**1**	**1**	外国人留学生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**英語（ⅠB）－1**	**1**	**1**	外国人留学生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**英語（ⅠB）－2**	**1**	**1**	外国人留学生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**日本語Ⅰ（A）－1**	**1**	**1**	外国人留学生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**日本語Ⅰ（A）－2**	**1**	**1**	外国人留学生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**日本語Ⅰ（B）－1**	**1**	**1**	外国人留学生のみ
技能コア	言葉の技能	英語・第二外国語	**日本語Ⅰ（B）－2**	**1**	**1**	外国人留学生のみ
技能コア	身体の技能		健康・スポーツ演習	2	1	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報・地球社会共生のみ必修
技能コア	情報の技能		**情報スキルⅠ**	**2**	**1**	
テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）		**キリスト教概論Ⅱ**	**2**	**2·3**	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置
テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）		旧約聖書と人間	2	2·3·4	
テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）		新約聖書と人間	2	2·3·4	
テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）		キリスト教生命倫理	2	2·3·4	
テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）		キリスト教政治倫理	2	2·3·4	
テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）		キリスト教と自然科学	2	2·3·4	両キャンパス隔年開講
テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）		キリスト教環境倫理	2	2·3·4	両キャンパス隔年開講

		授業科目	単位	配置年次	備考
テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）	キリスト教音楽	2	2·3·4	
		キリスト教美術	2	2·3·4	
		メソジスト教会史	2	2·3·4	
		世界の諸宗教	2	2·3·4	両キャンパス隔年開講
		聖書の中の女性たち（旧約）	2	2·3·4	両キャンパス隔年開講
		聖書の中の女性たち（新約）	2	2·3·4	両キャンパス隔年開講
		サービス・ラーニングⅠ	2	2·3·4	
		サービス・ラーニングⅡ	2	2·3·4	
		海外語学・キリスト教文化研修	2	2·3·4	
	人間理解関連科目（領域B）	哲学A	2	2·3·4	
		哲学B	2	2·3·4	
		哲学の諸問題A	2	2·3·4	
		哲学の諸問題B	2	2·3·4	
		哲学の諸問題C	2	2·3·4	
		哲学の諸問題D	2	2·3·4	
		論理学A	2	2·3·4	
		論理学B	2	2·3·4	
		論理学の諸問題A	2	2·3·4	
		論理学の諸問題B	2	2·3·4	
		倫理学A	2	2·3·4	
		倫理学B	2	2·3·4	
		倫理学の諸問題A	2	2·3·4	
		倫理学の諸問題B	2	2·3·4	
		西洋倫理思想史A	2	2·3·4	
		西洋倫理思想史B	2	2·3·4	
		言語学A	2	2·3·4	
		言語学B	2	2·3·4	
		日本語学A	2	2·3·4	
		日本語学B	2	2·3·4	
		文学A	2	2·3·4	
		文学B	2	2·3·4	
		文学史A	2	2·3·4	
		文学史B	2	2·3·4	
		美術A	2	2·3·4	
		美術B	2	2·3·4	
		美術史A	2	2·3·4	
		美術史B	2	2·3·4	
		音楽A	2	2·3·4	
		音楽B	2	2·3·4	
		音楽史A	2	2·3·4	
		音楽史B	2	2·3·4	
		文化人類学A	2	2·3·4	
		文化人類学B	2	2·3·4	
		比較文化A	2	2·3·4	
		比較文化B	2	2·3·4	
		比較文化の諸問題A	2	2·3·4	
		比較文化の諸問題B	2	2·3·4	
		心理学A	2	2·3·4	心理学科除く
		心理学B	2	2·3·4	心理学科除く

		授業科目	単位	配置年次	備考
テーマ別科目	人間理解関連科目（領域B）	教育学A	2	2･3･4	
		教育学B	2	2･3･4	
		平和を考えるA	2	2･3･4	
		平和を考えるB	2	2･3･4	
		人間関係とコミュニケーションA	2	2･3･4	
		人間関係とコミュニケーションB	2	2･3･4	
		文化とコミュニケーションA	2	2･3･4	
		文化とコミュニケーションB	2	2･3･4	
	社会理解関連科目（領域C）	法学（日本国憲法を含む）A	2	2･3･4	法学部除く。 教員免許状取得申請者は、１年次から履修できます。
		法学（日本国憲法を含む）B	2	2･3･4	
		日本の法と社会A	2	2･3･4	
		日本の法と社会B	2	2･3･4	
		国際政治経済学A	2	2･3･4	
		国際政治経済学B	2	2･3･4	
		国際関係概論A	2	2･3･4	
		国際関係概論B	2	2･3･4	
		社会学A	2	2･3･4	
		社会学B	2	2･3･4	
		現代社会と教育人間学A	2	2･3･4	
		現代社会と教育人間学B	2	2･3･4	
		経済学A	2	2･3･4	経済学部除く
		経済学B	2	2･3･4	経済学部除く
		情報社会科学A	2	2･3･4	
		情報社会科学B	2	2･3･4	
		情報社会論	2	2･3･4	
		社会と情報	2	2･3･4	
		人口問題A	2	2･3･4	
		人口問題B	2	2･3･4	
		フェミニズムA	2	2･3･4	
		フェミニズムB	2	2･3･4	
		民族問題A	2	2･3･4	
		民族問題B	2	2･3･4	
		マスメディアと社会	2	2･3･4	
		データサイエンス	2	2･3･4	
		福祉と人間A	2	2･3･4	
		福祉と人間B	2	2･3･4	
		環境問題と社会	2	2･3･4	NPO 環境平和持続の会寄附講座
		金融と生活設計	2	2･3･4	金融広報中央委員会寄附講座
		日本の農業・農村とビジネス	2	2･3･4	
	自然理解関連科目（領域D）	技術史A	2	2･3･4	
		技術史B	2	2･3･4	
		日常生活の数理	2	2･3･4	
		数理科学入門Ⅰ	2	2･3･4	理工学部・社会情報学部を除く
		数理科学入門Ⅱ	2	2･3･4	理工学部・社会情報学部を除く
		数理科学の視点	2	2･3･4	
		数理モデル	2	2･3･4	
		自然科学概論A	2	2･3･4	
		自然科学概論B	2	2･3･4	

		授業科目	単位	配置年次	備考
テーマ別科目	自然理解関連科目（領域D）	文化としての科学・技術A	2	2·3·4	
		文化としての科学・技術B	2	2·3·4	
		生活と先端テクノロジー	2	2·3·4	
		ライフサイエンス	2	2·3·4	
		ゲノム	2	2·3·4	
		生物と地球環境	2	2·3·4	
		地球環境保全	2	2·3·4	
		バイオテクノロジーと生命倫理	2	2·3·4	
		メカの世界	2	2·3·4	
		生命と地球の歴史	2	2·3·4	
		宇宙科学	2	2·3·4	
		野鳥の生態	2	2·3·4	
		鳥類と生物多様性	2	2·3·4	
		植物生態学	2	2·3·4	
		先端エレクトロニクス	2	2·3·4	
		環境科学A	2	2·3·4	
		環境科学B	2	2·3·4	
		自然地理学A	2	2·3·4	
		自然地理学B	2	2·3·4	
		科学史	2	2·3·4	
		生命と生態系（環境と生物）	2	2·3·4	
		生命の連続（遺伝）	2	2·3·4	
		かたちの科学	2	2·3·4	
		自然史	2	2·3·4	
		自然観の変遷	2	2·3·4	
	歴史理解関連科目（領域E）	青山学院大学の歴史	2	2·3·4	
		日本社会史A	2	2·3·4	
		日本社会史B	2	2·3·4	
		日本社会史C	2	2·3·4	
		中国史A	2	2·3·4	
		中国史B	2	2·3·4	
		ヨーロッパ史A	2	2·3·4	
		ヨーロッパ史B	2	2·3·4	
		ヨーロッパ史C	2	2·3·4	
		現代史A	2	2·3·4	
		現代史B	2	2·3·4	
		現代史C	2	2·3·4	
		現代史D	2	2·3·4	
		考古学A	2	2·3·4	
		考古学B	2	2·3·4	
		科学思想史A	2	2·3·4	
	言葉の技能（領域F）	インテンシブ・(第二外国語)(A)－1	1	2·3·4	（第二外国語）はフランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		インテンシブ・(第二外国語)(A)－2	1	2·3·4	
		インテンシブ・(第二外国語)(B)－1	1	2·3·4	
		インテンシブ・(第二外国語)(B)－2	1	2·3·4	
		インテンシブ・(第二外国語)(C)－1	1	2·3·4	
		インテンシブ・(第二外国語)(C)－2	1	2·3·4	
		インテンシブ・(第二外国語)(D)－1	1	2·3·4	
		インテンシブ・(第二外国語)(D)－2	1	2·3·4	

		授業科目	単位	配置年次	備考
テーマ別科目	言葉の技能（領域F）	（第二外国語）Ⅱ（A）－1	1	2･3･4	（第二外国語）はフランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		（第二外国語）Ⅱ（A）－2	1	2･3･4	
		（第二外国語）Ⅱ（B）－1	1	2･3･4	
		（第二外国語）Ⅱ（B）－2	1	2･3･4	
		（第二外国語）Ⅱ（C）－1	1	2･3･4	
		（第二外国語）Ⅱ（C）－2	1	2･3･4	
		（第二外国語）Ⅱ－1	1	2･3･4	（第二外国語）はロシア語、韓国語を指します。
		（第二外国語）Ⅱ－2	1	2･3･4	
		英語Ⅱ－1	1	2･3･4	フランス文学科のみ
		英語Ⅱ－2	1	2･3･4	
		英語（ⅡA）－1	1	2･3･4	外国人留学生のみ
		英語（ⅡA）－2	1	2･3･4	
		英語（ⅡB）－1	1	2･3･4	
		英語（ⅡB）－2	1	2･3･4	
		日本語Ⅱ－1	1	2･3･4	外国人留学生のみ
		日本語Ⅱ－2	1	2･3･4	
		（第二外国語）Ⅲ－1	1	3・4	（第二外国語）はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		（第二外国語）Ⅲ－2	1	3・4	
		フランス語Ⅲ（A）－1	1	3・4	フランス文学科除く
		フランス語Ⅲ（A）－2	1	3・4	
		フランス語Ⅲ（B）－1	1	3・4	
		フランス語Ⅲ（B）－2	1	3・4	
		英語Ⅲ－1	1	3・4	フランス文学科のみ
		英語Ⅲ－2	1	3・4	
		英語（Ⅲ）－1	1	3・4	外国人留学生のみ
		英語（Ⅲ）－2	1	3・4	
		日本語Ⅲ－1	1	3・4	外国人留学生のみ
		日本語Ⅲ－2	1	3・4	
		（第二外国語）会話（Ⅰ）－1	1	2･3･4	（第二外国語）はフランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語（フランス文学科のみ）を指します。
		（第二外国語）会話（Ⅰ）－2	1	2･3･4	
		（第二外国語）会話（Ⅱ）－1	1	3・4	（第二外国語）はフランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		（第二外国語）会話（Ⅱ）－1	1	3・4	
		日本語（ⅠS）A	1	3	交換留学生のみ
		日本語（ⅠF）A	1	3	
		日本語（ⅠS）B	1	3	
		日本語（ⅠF）B	1	3	
		日本語（ⅠS）C	1	3	
		日本語（ⅠF）C	1	3	
		日本語（ⅠS）D	1	3	
		日本語（ⅠF）D	1	3	
		日本語（ⅡS）A	1	3	
		日本語（ⅡF）A	1	3	
		日本語（ⅡS）B	1	3	
		日本語（ⅡF）B	1	3	
		日本語（ⅡS）C	1	3	
		日本語（ⅡF）C	1	3	
		日本語（ⅡS）D	1	3	

		授業科目	単位	配置年次	備考
テーマ別科目	言葉の技能（領域F）	日本語（ⅡF）D	1	3	
		日本語（ⅢS）A	1	3	
		日本語（ⅢF）A	1	3	
		日本語（ⅢS）B	1	3	
		日本語（ⅢF）B	1	3	
		日本語（ⅢS）C	1	3	
		日本語（ⅢF）C	1	3	
		日本語（ⅢS）D	1	3	
		日本語（ⅢF）D	1	3	
		日本語（ⅣS）A	1	3	
		日本語（ⅣF）A	1	3	
		日本語（ⅣS）B	1	3	
		日本語（ⅣF）B	1	3	
		日本語（ⅣS）C	1	3	
		日本語（ⅣF）C	1	3	
		日本語（ⅣS）D	1	3	
		日本語（ⅣF）D	1	3	
		日本語（ⅤS）A	1	3	
		日本語（ⅤF）A	1	3	
		日本語（ⅤS）B	1	3	
		日本語（ⅤF）B	1	3	
		日本語（ⅤS）C	1	3	
		日本語（ⅤF）C	1	3	
		日本語（ⅤS）D	1	3	
		日本語（ⅤF）D	1	3	交換留学生のみ
		日本語（ⅥS）A	1	3	
		日本語（ⅥF）A	1	3	
		日本語（ⅥS）B	1	3	
		日本語（ⅥF）B	1	3	
		日本語（ⅥS）C	1	3	
		日本語（ⅥF）C	1	3	
		日本語（ⅥS）D	1	3	
		日本語（ⅥF）D	1	3	
		日本語（ⅦS）A	1	3	
		日本語（ⅦF）A	1	3	
		日本語（ⅦS）B	1	3	
		日本語（ⅦF）B	1	3	
		日本語（ⅦS）C	1	3	
		日本語（ⅦF）C	1	3	
		日本語（ⅦS）D	1	3	
		日本語（ⅦF）D	1	3	
		日本事情（ⅠS）	2	3	
		日本事情（ⅠF）	2	3	
		日本事情（ⅡS）	2	3	
		日本事情（ⅡF）	2	3	
		日本事情（ⅢS）	2	3	
		日本事情（ⅢF）	2	3	
		日本事情（ⅣS）	2	3	
		日本事情（ⅣF）	2	3	

		授業科目	単位	配置年次	備考
テーマ別科目	言葉の技能（領域F）	日本事情（VS）	2	3	交換留学生のみ
		日本事情（VF）	2	3	
		日本事情（VIS）	2	3	
		日本事情（VIF）	2	3	
		日本事情（VIIS）	2	3	
		日本事情（VIIF）	2	3	
		アメリカ合衆国の社会と文化A	2	2･3･4	
		アメリカ合衆国の社会と文化B	2	2･3･4	
		アメリカ合衆国の社会と文化C	2	2･3･4	
		英語圏の社会と文化A	2	2･3･4	
		英語圏の社会と文化B	2	2･3･4	
		フランス語圏の社会と文化A	2	2･3･4	
		フランス語圏の社会と文化B	2	2･3･4	
		フランス語圏の社会と文化C	2	2･3･4	
		ドイツ語圏の社会と文化A	2	2･3･4	
		ドイツ語圏の社会と文化B	2	2･3･4	
		ドイツ語圏の社会と文化C	2	2･3･4	
		スペイン語圏の社会と文化A	2	2･3･4	
		スペイン語圏の社会と文化B	2	2･3･4	
		スペイン語圏の社会と文化C	2	2･3･4	
		中国語圏の社会と文化A	2	2･3･4	
		中国語圏の社会と文化B	2	2･3･4	
		中国語圏の社会と文化C	2	2･3･4	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2･3･4	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	2･3･4	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2･3･4	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	2･3･4	
		イスラム圏の社会と文化A	2	2･3･4	
		イスラム圏の社会と文化B	2	2･3･4	
		日本学A	2	2･3･4	交換留学生・外国人留学生のみ
		日本学B	2	2･3･4	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2･3･4	
		English Studies B	2	2･3･4	
		English Studies C	2	2･3･4	
		English Studies E	2	2･3･4	
		ことばの研究A	2	2･3･4	
		ことばの研究B	2	2･3･4	
		都市と文化A	2	2･3･4	
		都市と文化B	2	2･3･4	
		民族文化論A	2	2･3･4	
		民族文化論B	2	2･3･4	
	身体の技能（領域G）	健康医学	2	2･3･4	
		スポーツ生理学	2	2･3･4	
		スポーツバイオメカニクス	2	2･3･4	
		スポーツ心理学	2	2･3･4	
		動きの人間学	2	2･3･4	
		医療社会学	2	2･3･4	
		スポーツ運動実習	1	2･3･4	４回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、１年次から履修できます。

		授業科目	単位	配置年次	備考
テーマ別科目		アドバンストスポーツ実習	2	2･3･4	
	情報の技能（領域H）	ウェブプログラミング	2	2･3･4	
		コンピュータプログラミング	2	2･3･4	
		コンピュータと社会	2	2･3･4	
		データ分析入門	2	2･3･4	
		情報スキルⅡ	2	2･3･4	
	キャリアの技能（領域I）	キャリアデザイン基礎	2	2･3･4	
		キャリアデザイン応用	2	3・4	
		仕事力基礎論	2	2･3･4	
		国際ビジネス入門A	2	2･3･4	
		国際ビジネス入門B	2	2･3･4	
		感性ビジネスA －ファッション産業のフロンティア－	2	2･3･4	
		感性ビジネスB －ファッション産業のフロンティア－	2	2･3･4	
		感性ビジネスC －ファッション・ビジネス戦略論－	2	2･3･4	㈶ファッション産業人材育成機構（IFI）寄附講座
		感性ビジネスD －ファッション・ビジネス戦略論－	2	2･3･4	㈶ファッション産業人材育成機構（IFI）寄附講座
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	2･3･4	三井生命保険株式会社寄附講座
		国際ビジネスと海外事情A	2	2･3･4	
		国際ビジネスと海外事情B	2	2･3･4	
		現代金融の諸問題	2	2･3･4	金融青山会寄附講座
		囲碁で養うロジカルシンキング	2	2･3･4	公益財団法人日本棋院寄附講座
		海外語学・文化研修Ⅰ	2	2･3･4	
		海外語学・文化研修Ⅱ	2	2･3･4	
		海外語学・文化研修Ⅲ	2	2･3･4	
		インターンシップⅠ	2	2･3･4	
		インターンシップⅡ	2	2･3･4	
		インターンシップⅢ	2	2･3･4	
		世界遺産入門	2	2･3･4	NPO法人世界遺産アカデミー寄附講座
		営業学入門	2	2･3･4	プルデンシャル生命保険株式会社寄附講座

【物理・数理学科履修要項】

【1】履修について

1．学位

物理・数理学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な138単位以上を修得した者には、「学士（理学）」の学位が授与されます。

2．卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系列		必選の別		単位 物理科学コース	単位 数理サイエンスコース
青山スタンダード科目		p．12参照		24	24
外国語科目	英語	必修	⦿	8	8
		選択必修	★	2	2
学科科目	数学・共通科目	必修	⦿	14	14
	専門実験・実習・演習	必修	⦿	14	12
		選択必修	◇	6	－
	輪講・卒業研究	必修	⦿	12	12
	第1科目群	必修	⦿	12	4
		選択必修	◆	18	－
		選択必修	▲	－	16
	第2科目群	選択必修	◆△	22	－
		選択必修	▲▽	－	34
自由選択科目	青山スタンダード科目	選択		6	12
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合計				138	

外国人留学生 卒業要件単位表

系　　列		必選の別		単位 物理科学コース	単位 数理サイエンスコース
青山スタンダード科目		p．12参照		24	24
外国語科目	日本語	必　修	⦿	10	10
学科科目	数学・共通科目	必　修	⦿	14	14
	専門実験・実習・演習	必　修	⦿	14	12
		選択必修	◇	6	－
	輪講・卒業研究	必　修	⦿	12	12
	第１科目群	必　修	⦿	12	4
		選択必修	◆	18	－
		選択必修	▲	－	16
	第２科目群	選択必修	◆△	22	－
		選択必修	▲▽	－	34
自由選択科目	青山スタンダード科目	選　択		6	12
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合　　計				138	

3．最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、１科目以上の履修をしなければなりません。

学年	１～４年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

（注意）教職課程科目および「基礎化学」「地学」「地学実験」「生物学実験」の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

4．修得単位僅少者

入学後の２年間（休学期間を除く）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5．進級条件

３年次生から４年次生に進級するためには、３年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の３年次後期から４年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、３年次前期に「物理専門実験Ａ」または「数理専門実験Ａ」（２単位、前期週６時間）を履修することができます。さらに、４年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たすことを条件に４年次に進級し、「卒業研究Ａ」（８単位、後期週24時間）「物理学輪講Ａ」「数理輪講Ａ」（４単位、後期週８時間）を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください。

6．卒業研究の履修条件

卒業研究の履修条件は、以下のとおりです。

１）３年以上在学していること。

２）３年次までの必修科目のうち下記の科目を除く卒業要件単位を満たしていること。

物理科学コース

青山スタンダード科目の「第二外国語科目」

学科科目の「コンピュータアプリケーション演習」および「統計力学Ｉ」

数理サイエンスコース

青山スタンダード科目の「第二外国語科目」

学科科目の「コンピュータアプリケーション演習」

３）学科科目の選択必修科目（物理科学コースは◇◆△、数理サイエンスコースは▲▽印の科目）中より38単位以上修得していること。

４）卒業要件内単位のうち116単位以上修得していること。

【2】外国語科目（英語）配置表および履修方法

1．外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。
なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．外国語科目配置表

外国語科目（英語）

⦿印の８単位　必修
★から２単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿English Core Ⅰ-a	1	2								
⦿English Core Ⅰ-b	1	2								
⦿English Core Ⅰ-c	1		2							
⦿English Core Ⅰ-d	1		2							
⦿English Core Ⅱ-a	1			2						
⦿English Core Ⅱ-b	1			2						
⦿English Core Ⅱ-c	1				2					
⦿English Core Ⅱ-d	1				2					
★Active Speaking Skills A	1					2				
★Active Speaking Skills B	1						2			
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に担当者の許可が必要です。
★Advanced Skills B	1						2			
★English Comprehension A	1					2				
★English Comprehension B	1						2			
★English for Engineers A	1					2				
★English for Engineers B	1						2			
★Study Abroad A	2			2						※下記参照
★Study Abroad B	2			2						

※Study Abroad A、B の履修について

理工学部では、海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

⦿外国人留学生の外国語科目（日本語）配置表および履修方法

◎外国人留学生
外国語科目（日本語）
配置表
⦿の10単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿ 日本語初級A-1	1	2								
⦿ 日本語初級A-2	1		2							日本語初級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級B-1	1	2								
⦿ 日本語初級B-2	1		2							日本語初級B-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級C-1	1	2								
⦿ 日本語初級C-2	1		2							日本語初級C-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-2	1				2					日本語中級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-2	1				2					日本語中級B-1修得者のみ履修可
日本語上級-1	1					2				青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちいずれかの科目の修得者のみ履修可
日本語上級-2	1						2			青山キャンパス開講科目 日本語上級-1修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。
※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。
・言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位
　必修（4単位）
　　フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。
・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。
※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ（A）・Ⅰ（B）修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【3】学科科目配置表及び履修方法

1．学科科目履修方法

（1）学科科目について

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

（2）コースについて

物理・数理学科では、２年次より２コース（物理科学コース、数理サイエンスコース）に分かれます。所属コースによってカリキュラムが異なりますので、科目配置表をもとに学習計画をたててください。なお、原則として決定後のコース変更はできませんので注意してください。

2．学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

⦿は必修　◇・◆・▲・△・▽は選択必修

１年次科目配置表

１年次は、以下の授業科目から単位を修得してください。

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
数学・共通科目 **⦿の科目14単位　必修**										
⦿力学Ⅰ	2	2								
⦿力学Ⅱ	2		2							
⦿線形代数ⅠA	2	2								
⦿線形代数ⅠB	2		2							
⦿解析学ⅠA	2	2								
⦿解析学ⅠB	2		2							
⦿基礎物理数学	2	2								
専門実験・実習・演習 **⦿の科目８単位　必修**										
⦿物理基礎実験Ⅰ	1	4								
⦿物理基礎実験Ⅱ	1		4							
⦿化学基礎実験	2	4 前期又は後期								
⦿電気計測実験	1	4 前期又は後期								
⦿ものづくり実習	1	4 前期又は後期								
⦿情報処理実習	2	4 前期又は後期								
第２科目群 **２年次以降の所属コースにより必要単位が異なります。（P．21参照）**										
△▽数学演習A	2	2								
△▽数学演習B	2		2							
△▽物理学演習Ⅰ	2		2							
選択科目										
化学Ⅰ	2	2								
化学Ⅱ	2		2							

学科科目配置表

物理科学コース

各コースで決められた授業科目の単位を修得してください。
自コース以外の科目を履修した場合は選択科目となります。

数学・共通科目
⦿の科目14単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿力学Ⅰ	2	2								
⦿力学Ⅱ	2		2							
⦿線形代数ⅠA	2	2								
⦿線形代数ⅠB	2		2							
⦿解析学ⅠA	2	2								
⦿解析学ⅠB	2		2							
⦿基礎物理数学	2	2								

専門実験・実習・演習
⦿の科目14単位　必修
◇の科目の中から
6単位　選択必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿物理基礎実験Ⅰ	1	4								
⦿物理基礎実験Ⅱ	1		4							
⦿化学基礎実験	2	4 前期又は後期								
⦿電気計測実験	1	4 前期又は後期								
⦿ものづくり実習	1	4 前期又は後期								
⦿情報処理実習	2	4 前期又は後期								
⦿コンピュータプログラミング演習	1				2					
⦿物理計測基礎実験Ⅰ	1			3						理工学実践演習Ⅰ履修者は履修不可
⦿物理計測基礎実験Ⅱ	1				3					理工学実践演習Ⅱ履修者は履修不可
⦿コンピュータアプリケーション演習	1					2				
⦿物理専門実験Ⅰ	1					3				理工学実践演習Ⅲ履修者は履修不可
⦿物理専門実験Ⅱ	1						3			理工学実践演習Ⅳ履修者は履修不可
⦿物理専門実験A	2					6				協定校・認定校留学者のみ履修可
⦿理工学実践演習Ⅰ	2			4						理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
⦿理工学実践演習Ⅱ	2				4					
⦿理工学実践演習Ⅲ	2					4				
⦿理工学実践演習Ⅳ	2						4			
◇物理学演習Ⅱ	2			2						
◇物理学演習Ⅳ	2				2					
◇物理数学演習Ⅰ	1				1					隔週
◇物理数学演習Ⅱ	1				1					隔週
◇物理学演習Ⅲ	2					2				
◇計算機基礎実習	1					3				

輪講・卒業研究
⦿の科目12単位　必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿物理学輪講Ⅰ	2							4		卒業研究Ⅰ・Ⅱと同時履修してください。(Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。)
⦿物理学輪講Ⅱ	2								4	
⦿物理学輪講A	4								8	協定校・認定校留学者のみ履修可

輪講・卒業研究
（前ページの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿卒業研究Ⅰ	4							12		卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰに合格した場合のみ履修できる。Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。理工学高度実践研究Ⅰ・Ⅱ履修者は履修不可
⦿卒業研究Ⅱ	4								12	
⦿卒業研究A	8								24	協定校・認定校留学者のみ履修可
⦿理工学高度実践研究Ⅰ	4							12		理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
⦿理工学高度実践研究Ⅱ	4								12	

第1科目群
⦿の科目12単位　必修
◆の科目の中から
18単位　選択必修

⦿電磁気学	4			4						
⦿量子力学Ⅰ	4				4					
⦿統計力学Ⅰ	4					4				
◆波動	2			2						
◆解析力学	2			2						
◆物理数学Ⅰ	2			2						
◆電磁光学概論	2				2					
◆熱物理学	2				2					
◆物理数学Ⅱ	2				2					
◆量子力学Ⅱ	2					2				
◆量子力学Ⅲ	2						2			
◆相対論	2					2				
◆固体物理	2					2				
◆物理実験学	2					2				
◆数値解析	2					2				
◆統計力学Ⅱ	2						2			

第２科目群
◆または△の科目の中から
22単位　選択必修

△数学演習A	2	2								
△数学演習B	2		2							
△物理学演習Ⅰ	2		2							
△電気・電子回路入門	2					2				
△天体物理概論	2					2				
△原子核物理	2					2				
△最新物理講義	2					2				
△超伝導	1						1			
△相関と物性	1						1			
△生物物理	2						2			
△宇宙物理Ⅰ	1						1			
△宇宙物理Ⅱ	1						1			
△場と粒子	2						2			
△生体センシング	1						1			
△先端デバイス	1						1			
△先端応用光科学	2						2			
△流れと変形	1						1			
△物体と地震の運動	1						1			

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
△量子化学Ⅰ	2							2		
△量子化学Ⅱ	2								2	

選択科目

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
化学Ⅰ	2	2								
化学Ⅱ	2		2							
線形代数Ⅱ	2			2						
線形代数Ⅲ	2				2					
微分方程式Ⅰ	2			2						
解析学Ⅱ	2			2						
応用初等代数	2			2						
確率統計	2			2						
微分方程式Ⅰ演習	1			1						隔週
解析学Ⅱ演習	1			1						隔週
応用初等代数演習	1			1						隔週
線形代数Ⅱ演習	1			1						隔週
化学Ⅲ	2			2						
地学	2			2						卒業要件外、注)
基礎化学	2				2					教育職員免許状の取得を希望する者のみ履修可 卒業要件外、注)
集合と位相	2				2					
計算数学	2				2					
幾何学Ⅰ	2				2					
集合と位相演習	1				1					隔週
代数学Ⅰ演習	1				1					隔週
幾何学Ⅰ演習	1				1					隔週
サイバネティクス	2				2					
複素解析Ⅰ	2					2				
微分方程式Ⅱ	2					2				
幾何学Ⅱ	2					2				
幾何学Ⅲ	2						2			
解析学Ⅳ	2					2				
解析学Ⅳ演習	1					1				隔週
複素解析Ⅰ演習	1					1				隔週
物理・数理セミナー	2						2			英語講義
一般機械工学	2					2				
一般経営工学	2						2			
数理統計	2					2				
代数学Ⅱ	2						2			
ファイナンス数学	2						2			
微分方程式Ⅲ	2						2			
代数学Ⅱ演習	1						1			隔週
幾何学Ⅲ演習	1						1			隔週
一般電気工学	2						2			

選択科目
（前ページの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
インターンシップ	1					3				
理工学実践研究Ⅰ	4					12				理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
理工学実践研究Ⅱ	4						12			
電子計算機工学Ⅰ	2							2		
電子計算機工学Ⅱ	2								2	
電気物性学Ⅱ	2							2		
高電圧工学	2							2		
集積回路工学	2							2		
科学哲学	2								2	
量子電子デバイス	2								2	
半導体デバイス	2								2	
電子物性工学	2							2		
生命科学E	2								2	
無機化学D	2								2	
分子構造解析法	2								2	
流体力学及び演習	4								4	
応用数学Ⅰ	2							2		
応用数学Ⅱ	2								2	
電磁波	2								2	
弾塑性工学	2							2		
情報数学Ⅰ	2								2	英語講義
生物学実験	2			4						卒業要件外、（注）
地学実験	2			4						集中講義、「地学」を履修中または修得済の者のみ履修可 卒業要件外、（注）

（注）卒業要件外、教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。

数理サイエンスコース

数学・共通科目

⦿の科目14単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿力学Ⅰ	2	2								
⦿力学Ⅱ	2		2							
⦿線形代数ⅠA	2	2								
⦿線形代数ⅠB	2		2							
⦿解析学ⅠA	2	2								
⦿解析学ⅠB	2		2							
⦿基礎物理数学	2	2								

専門実験・実習・演習

⦿の科目12単位　必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿物理基礎実験Ⅰ	1	4								
⦿物理基礎実験Ⅱ	1		4							
⦿化学基礎実験	2	4 前期又は後期								
⦿電気計測実験	1	4 前期又は後期								
⦿ものづくり実習	1	4 前期又は後期								
⦿情報処理実習	2	4 前期又は後期								
⦿コンピュータプログラミング演習	1				2					
⦿コンピュータアプリケーション演習	1					2				
⦿数理専門実験Ⅰ	1					3				理工学実践演習Ⅲ履修者は履修不可
⦿数理専門実験Ⅱ	1						3			理工学実践演習Ⅳ履修者は履修不可
⦿数理専門実験A	2					6				協定校・認定校留学者のみ履修可
⦿理工学実践演習Ⅲ	2					4				理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
⦿理工学実践演習Ⅳ	2						4			

輪講・卒業研究

⦿の科目12単位　必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿数理輪講Ⅰ	2							4		卒業研究Ⅰ・Ⅱと同時履修してください。(Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。)
⦿数理輪講Ⅱ	2								4	
⦿数理輪講A	4								8	協定校・認定校留学者のみ履修可
⦿卒業研究Ⅰ	4							12		卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰに合格した場合のみ履修できる。Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。理工学高度実践研究Ⅰ・Ⅱ履修者は履修不可
⦿卒業研究Ⅱ	4								12	
⦿卒業研究A	8								24	協定校・認定校留学者のみ履修可
⦿理工学高度実践研究Ⅰ	4							12		理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
⦿理工学高度実践研究Ⅱ	4								12	

第1科目群

⦿の科目4単位　必修
▲の科目の中から
16単位　選択必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿線形代数Ⅱ	2			2						
⦿微分方程式Ⅰ	2			2						
▲解析学Ⅱ	2			2						
▲応用初等代数	2			2						
▲確率統計	2			2						
▲線形代数Ⅲ	2				2					
▲集合と位相	2				2					

第1科目群
（前ページの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
▲計算数学	2				2					
▲解析学Ⅲ	2				2					
▲複素解析Ⅰ	2					2				
▲微分方程式Ⅱ	2					2				
▲幾何学Ⅱ	2					2				
▲解析学Ⅳ	2					2				
▲数理統計	2					2				

第２科目群
▲または▽の科目の中から34単位　選択必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
▽数学演習A	2	2								
▽数学演習B	2		2							
▽物理学演習Ⅰ	2		2							
▽微分方程式Ⅰ演習	1			1						隔週
▽解析学Ⅱ演習	1			1						隔週
▽応用初等代数演習	1			1						隔週
▽線形代数Ⅱ演習	1			1						隔週
▽電磁気学	4			4						
▽解析力学	2			2						
▽波動	2			2						
▽代数学Ⅰ	2				2					
▽幾何学Ⅰ	2				2					
▽物理数学Ⅱ	2				2					
▽集合と位相演習	1				1					隔週
▽解析学Ⅲ演習	1				1					隔週
▽代数学Ⅰ演習	1				1					隔週
▽幾何学Ⅰ演習	1				1					隔週
▽物理数学演習Ⅱ	1				1					隔週
▽量子力学Ⅰ	4				4					
▽熱物理学	2				2					
▽理工学実践演習Ⅰ	2			4						理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
▽理工学実践演習Ⅱ	2				4					
▽計算機基礎実習	1					3				
▽解析学Ⅳ演習	1					1				隔週
▽複素解析Ⅰ演習	1					1				隔週
▽代数学Ⅱ	2						2			
▽複素解析Ⅱ	2						2			
▽幾何学Ⅲ	2						2			
▽ファイナンス数学	2						2			
▽微分方程式Ⅲ	2						2			
▽代数学Ⅱ演習	1						1			隔週
▽幾何学Ⅲ演習	1						1			隔週
▽幾何学Ⅳ	2							2		
▽解析学Ⅴ	2								2	
▽代数学Ⅲ	2								2	

選択科目

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
化学Ⅰ	2	2								
化学Ⅱ	2		2							
化学Ⅲ	2			2						
量子力学Ⅱ	2					2				
量子力学Ⅲ	2						2			
相対論	2					2				
固体物理	2					2				
統計力学Ⅰ	4					4				
物理・数理セミナー	2						2			英語講義
一般機械工学	2					2				
一般経営工学	2						2			
一般電気工学	2						2			
インターンシップ	1					3				
理工学実践研究Ⅰ	4					12				理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
理工学実践研究Ⅱ	4						12			
科学哲学	2								2	

【4】自由選択科目履修方法

自由選択科目履修方法

1．自由選択科目の必要単位

物理科学コース　6単位
数理サイエンスコース　12単位

2．自由選択科目履修方法

下記の（イ）（ロ）（ハ）（ニ）（ホ）のうちから任意に必要単位修得しなければなりません。

（イ）青山スタンダード科目
（ロ）外国語科目
（ハ）学科科目
（ニ）他学科科目
（ホ）他学部科目

（卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます）

ただし、卒業要件外科目は除きます。他学科・他学部科目のうちには実験科目、「現代物理学概論」などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください（「Ⅲ．履修について１．履修計画」を参照）。

物理・数理学科履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
コース共通必修科目	力学Ⅰ②	力学Ⅱ②						
	基礎物理数学②							
	解析学ⅠA②	解析学ⅠB②						
	線形代数ⅠA②	線形代数ⅠB②						
コース共通実験必修科目	物理基礎実験Ⅰ①	物理基礎実験Ⅱ①		コンピュータプログラミング演習①	コンピュータアプリケーション演習①			
	化学基礎実験②							
	電気計測実験①							
	ものづくり実習①							
	情報処理実習②							
コース共通選択必修科目		物理学演習Ⅰ②	波動②	熱物理学②	計算機基礎実習①			
	数学演習A②	数学演習B②	解析力学②	物理数学Ⅱ②				
				物理数学演習Ⅱ①				
物理科学コース必修科目			電磁気学④	量子力学Ⅰ④	統計力学Ⅰ④			
物理科学コース必修実験科目			物理計測基礎実験Ⅰ①	物理計測基礎実験Ⅱ①	物理専門実験Ⅰ①	物理専門実験Ⅱ①	物理学輪講Ⅰ②	物理学輪講Ⅱ②
							卒業研究Ⅰ④	卒業研究Ⅱ④
物理科学コース選択必修科目			物理学演習Ⅱ②	物理数学演習Ⅰ①	物理学演習Ⅲ②			
			物理数学Ⅰ②	物理学演習Ⅳ②				
				電磁光学概論②	量子力学Ⅱ②	量子力学Ⅲ②		
					相対論②	統計力学Ⅱ②	量子化学Ⅰ②	量子化学Ⅱ②
					固体物理②	超伝導①		
					物理実験学②	相関と物性①		
					数値解析②	生物物理②		
					電気･電子回路入門②	宇宙物理Ⅰ①		
					天体物理概論②	宇宙物理Ⅱ①		
					原子核物理②	場と粒子②		
					最新物理講義②	生体センシング①		
						先端デバイス①		
						先端応用光科学②		
						流れと変形①		
						物体と地震の運動①		
数理サイエンスコース必修科目			線形代数Ⅱ②					
			微分方程式Ⅰ②					
数理サイエンスコース必修実験科目					数理専門実験Ⅰ①	数理専門実験Ⅱ①	数理輪講Ⅰ②	数理輪講Ⅱ②
							卒業研究Ⅰ④	卒業研究Ⅱ④
数理サイエンスコース選択必修科目			解析学Ⅱ②	線形代数Ⅲ②	複素解析Ⅰ②			
			応用初等代数②	集合と位相②	微分方程式Ⅱ②			
			確率統計②	計算数学②	幾何学Ⅱ②			
			微分方程式Ⅰ演習①	解析学Ⅲ②	解析学Ⅳ②			
			解析学Ⅱ演習①	代数学Ⅰ②	解析学Ⅳ演習①	代数学Ⅱ②	幾何学Ⅳ②	解析学Ⅴ②
			応用初等代数演習①	幾何学Ⅰ②	複素解析Ⅰ演習①	複素解析Ⅱ②		代数学Ⅲ②
			線形代数Ⅱ演習①	集合と位相演習①	数理統計②	幾何学Ⅲ②		
			電磁気学④	解析学Ⅲ演習①		ファイナンス数学②		
				代数学Ⅰ演習①		微分方程式Ⅲ②		
				幾何学Ⅰ演習①		代数学Ⅱ演習①		
				量子力学Ⅰ④		幾何学Ⅲ演習①		
コース共通選択科目	化学Ⅰ②	化学Ⅱ②	化学Ⅲ②			物理･数理セミナー②		科学哲学②
	※その他学科科目配置表参照							

【化学・生命科学科履修要項】

【1】履修について

1．学位

化学・生命科学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な138単位以上を修得した者には、「学士（理学）」の学位が授与されます。

2．卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系列		必選の別			単位
青山スタンダード科目		p．12参照			24
外国語科目	英語	必修	⦿		8
		選択必修	★		2
学科科目	数学・共通科目	必修	⦿		8
		選択必修	△	6	18
			☆または△	12	
	専門実験	必修	⦿		9
	輪講・卒業研究	必修	⦿		12
	選択必修Ⅰ	選択必修	★		24
	選択必修Ⅱ		★または▽		23
自由選択科目	青山スタンダード科目	選択			10
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合計					138

外国人留学生 卒業要件単位表

系列		必選の別			単位
青山スタンダード科目		p．12参照			24
外国語科目	日本語	必修	⦿		10
学科科目	数学・共通科目	必修	⦿		8
		選択必修	△	6	18
			☆または△	12	
	専門実験	必修	⦿		9
	輪講・卒業研究	必修	⦿		12
	選択必修Ⅰ	選択必修	★		24
	選択必修Ⅱ		★または▽		23
自由選択科目	青山スタンダード科目	選択			10
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合計					138

3．最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、１科目以上の履修をしなければなりません。

学年	１～４年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

（注意）教職課程科目および「地学」「地学実験」の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

4．修得単位僅少者

入学後の２年間（休学期間を除く）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5．進級条件

３年次生から４年次生に進級するためには、３年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の２年次後期から３年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生については、４年次の前期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たす（但し、「物理化学実験」及び「生命科学実験Ⅰ」の履修と、それらの単位数を除く）ことを条件に、４年次に進級し、「物理化学実験」（２単位、後期週６時間）及び「生命科学実験Ⅰ」（２単位、前期週６時間）を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください。

また、本学の３年次後期から４年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生については、４年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たす（但し、「有機化学実験」の履修と、その単位数を除く）ことを条件に４年次に進級し、「卒業研究Ａ」（８単位、後期週24時間）、「化学・生命科学輪講Ａ」（３単位、後期週６時間）、「有機化学実験」（２単位、後期週６時間）を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください。

6．卒業研究の履修条件

卒業研究の履修条件は以下のとおりです。

１）３年以上在学していること。

２）３年次までの必修科目の卒業要件単位を満たしていること。

３）学科科目（講義科目）の選択必修科目の中から下記の表の４系列の授業科目（物理化学系列６単位、無機分析化学系列６単位、有機化学系列６単位、生命科学系列６単位）を含む30単位修得していること。

４）卒業要件内単位のうち120単位以上修得していること。

系　　列	授　　業　　科　　目
物理化学系列	物理化学Ａ・Ｂ・Ｃ、量子化学Ⅰ・Ⅱ、レーザー光化学
無機分析化学系列	分析化学、無機化学Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ、電気化学
有機化学系列	有機化学Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ、生体有機化学、有機合成化学
生命科学系列	生体分析化学、生命科学Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ

【2】外国語科目（英語）配置表および履修方法

1．外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。
なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．外国語科目配置表

外国語科目（英語）

⦿印の８単位　必修
★から２単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿English Core Ⅰ-a	1	2								
⦿English Core Ⅰ-b	1	2								
⦿English Core Ⅰ-c	1		2							
⦿English Core Ⅰ-d	1		2							
⦿English Core Ⅱ-a	1			2						
⦿English Core Ⅱ-b	1			2						
⦿English Core Ⅱ-c	1				2					
⦿English Core Ⅱ-d	1				2					
★Active Speaking Skills A	1					2				
★Active Speaking Skills B	1						2			
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に担当者の許可が必要です。
★Advanced Skills B	1						2			
★English Comprehension A	1					2				
★English Comprehension B	1						2			
★English for Engineers A	1					2				
★English for Engineers B	1						2			
★Study Abroad A	2			2						※下記参照
★Study Abroad B	2			2						

※Study Abroad A、B の履修について

理工学部では、海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ１回ずつ、計２回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

◎外国人留学生の外国語科目（日本語）配置表および履修方法

外国人留学生
外国語科目（日本語）
配置表
⦿の10単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿ 日本語初級A-1	1	2								
⦿ 日本語初級A-2	1		2							日本語初級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級B-1	1	2								
⦿ 日本語初級B-2	1		2							日本語初級B-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級C-1	1	2								
⦿ 日本語初級C-2	1		2							日本語初級C-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-2	1				2					日本語中級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-2	1				2					日本語中級B-1修得者のみ履修可
日本語上級-1	1					2				青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちいずれかの科目の修得者のみ履修可
日本語上級-2	1						2			青山キャンパス開講科目 日本語上級-1修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。
※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。
・言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位
　必修（4単位）
　　フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。
・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。
※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ（A）・Ⅰ（B）修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【3】学科科目配置表及び履修方法

1．学科科目履修方法

［学科科目］

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

選択必修Ⅰ・Ⅱの47単位には、学科科目配置表に示す各系列ごとに、要求されている単位をその中に含むこと。

なお、規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

⦿は必修　　△☆★▽は選択必修

数学・共通科目

⦿印の８単位　必修
☆および△から18単位（内６単位△から）選択必修

【講義科目】

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
☆物理学Ⅰ	2	2								
☆物理学Ⅱ	2		2							
☆化学Ⅰ	2	2								
☆化学Ⅱ	2		2							
☆化学Ⅲ	2			2						
△解析学ⅠA	2	2								
△解析学ⅠB	2		2							
△解析学Ⅱ	2			2						
△線形代数ⅠA	2	2								
△線形代数ⅠB	2		2							
△線形代数Ⅱ	2			2						
△線形代数Ⅲ	2				2					
△微分方程式Ⅰ	2					2				
△物理数学Ⅰ	2					2				
△物理数学Ⅱ	2				2					
△複素解析Ⅰ	2					2				
現代物理学概論	2				2					
一般機械工学	2			2						
一般電気工学	2						2			
一般経営工学	2						2			
サイバネティクス	2				2					

【実験・演習科目】

△数学演習A	2	2								
△数学演習B	2		2							
△解析学Ⅱ演習	1			1						隔週
△微分方程式Ⅰ演習	1			1						隔週
△物理数学演習Ⅰ	1				1					隔週
△物理数学演習Ⅱ	1				1					隔週

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
△複素解析Ⅰ演習	1					1				隔週
⊙物理基礎実験Ⅰ	1	4								
⊙物理基礎実験Ⅱ	1		4							
⊙化学基礎実験	2	4 前期又は後期								
⊙電気計測実験	1	4 前期又は後期								
⊙ものづくり実習	1	4 前期又は後期								
⊙情報処理実習	2	4 前期又は後期								
⊙無機化学実験	2			6						
⊙物質分析化学実験	1			3						
⊙物理化学実験	2				6					
⊙有機化学実験	2						6			
⊙生命科学実験Ⅰ	2					6				
⊙化学・生命科学輪講Ⅰ	1						2			
⊙化学・生命科学輪講Ⅱ	2							4		「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」と同時履修のこと
⊙化学・生命科学輪講Ⅲ	1								2	
⊙化学・生命科学輪講A	3								6	協定校・認定校留学者のみ履修可
⊙卒業研究Ⅰ	4							12		卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰに合格した場合のみ履修できる。Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。
⊙卒業研究Ⅱ	4								12	
⊙卒業研究A	8								24	協定校・認定校留学者のみ履修可
★物理化学A	2			2						
★物理化学B	2				2					
★物理化学C	2			2						
★量子化学Ⅰ	2					2				
★量子化学Ⅱ	2						2			
★レーザー光化学	2						2			
★分析化学	2	2								
★無機化学A	2		2							
★無機化学B	2			2						
★無機化学C	2			2						
★無機化学D	2						2			
★電気化学	2					2				

専門実験
⊙印の９単位　必修

輪講・卒業研究
⊙印の12単位　必修

選択必修Ⅰ
４系列の★印24単位
選択必修
〈物理化学系列〉
６単位選択必修

〈無機分析化学系列〉
６単位選択必修

	授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
〈有機化学系列〉6単位選択必修	★有機化学A	2	2								
	★有機化学B	2			2						
	★有機化学C	2				2					
	★有機化学D	2					2				
	★生体有機化学	2						2			
	★有機合成化学	2						2			
〈生命科学系列〉6単位選択必修	★生体分析化学	2			2						
	★生命科学A	2		2							
	★生命科学B	2			2						
	★生命科学C	2				2					
	★生命科学D	2					2				
	★生命科学E	2						2			
選択必修Ⅱ 選択必修Ⅰの★印、各分野▽印および実験科目▽印より任意に23単位選択必修〈化学分野〉	▽応用確率統計	2						2			
	▽数理化学	2			2						
	▽無機材料化学	2				2					
	▽錯体化学	2					2				
	▽高分子化学	2						2			
	▽立体化学	2						2			
	▽化学工学通論	2						2			
	▽分子構造解析法	2						2			
	▽溶液化学	2				2					
	▽現代化学の最前線	2						2			
	▽基礎物理学	2			2						
	▽基礎化学	2				2					
〈生命科学分野〉	▽生命科学の最前線	2						2			
	▽生命情報と生体分子	2			2						
	▽生体膜	2				2					
	▽遺伝学	2					2				
	▽バイオインフォマティクス	2						2			
	▽代謝と調節	2					2				
	▽生物物理	2						2			
	▽バイオテクノロジー	2						2			
	▽医薬品科学	2								2	
	▽ケミカルバイオロジー	2					2				
〈実験科目〉	▽生命科学実験Ⅱ	1					3				
	▽化学情報処理実習	1				3					
	▽インターンシップ	1					3				集中講義

【4】自由選択科目履修方法

自由選択科目履修方法

下記の（イ）（ロ）（ハ）（ニ）（ホ）のうちから任意に10単位修得しなければなりません。

（イ）青山スタンダード科目
（ロ）外国語科目
（ハ）学科科目
（ニ）他学科科目
（ホ）他学部科目

（卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます）

ただし、卒業要件外科目は除きます。他学科科目のうちには、実験科目、「現代化学概論」等の除外科目がありますので当該学科の履修規定に従ってください。

（注意）他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください（「Ⅲ．履修について１．履修計画」を参照）。

化学・生命科学科履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。

Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ～Ⅳ		Ⅳ
前期	後期	前期	後期	前期	後期	
青山スタンダード科目		青山スタンダード科目		青山スタンダード科目		
外国語（英語）						
解析学ⅠA	解析学ⅠB	微分方程式Ⅰ	物理数学Ⅱ	解析学Ⅱ		
線形代数ⅠA	線形代数ⅠB	線形代数Ⅱ	線形代数Ⅲ	物理数学Ⅰ		
数学演習A	数学演習B		物理数学演習Ⅰ	複素解析Ⅰ		
		微分方程式Ⅰ演習	物理数学演習Ⅱ	解析学Ⅱ演習		
				複素解析Ⅰ演習		
情報処理実習（前期または、後期）			化学情報処理実習			
物理学Ⅰ	物理学Ⅱ		現代物理学概論			
物理基礎実験Ⅰ	物理基礎実験Ⅱ					
電気・機械計測実験		基礎物理学				
化学Ⅰ	化学Ⅱ	化学Ⅲ	基礎化学			
化学基礎実験		無機化学実験	物理化学実験	生命科学実験Ⅰ	有機化学実験	化学・生命科学輪講Ⅱ
		物質分析化学実験		生命科学実験Ⅱ	化学・生命科学輪講Ⅰ	化学・生命科学輪講Ⅲ
						卒業研究Ⅰ
						卒業研究Ⅱ
		物理化学A		量子化学Ⅰ	量子化学Ⅱ	
		物理化学C	物理化学B		レーザー光化学	
		数理化学	溶液化学		応用確率統計	
分析化学	無機化学A	無機化学B	無機材料化学	電気化学	無機化学D	
		無機化学C		錯体化学	現代化学の最前線	
					有機合成化学	
					高分子化学	
有機化学A		有機化学B	有機化学C	有機化学D	生体有機化学	
					分子構造解析法	
					立体化学	
		生体分析化学			生命科学の最前線	
	生命科学A	生命科学B	生命科学C	生命科学D	生命科学E	
		生命情報と生体分子	生体膜	ケミカルバイオロジー	バイオテクノロジー	
				遺伝学	バイオインフォマティクス	
				代謝と調節	生物物理	医薬品科学
					化学工学通論	
		一般機械工学		一般経営工学	一般電気工学	
				インターンシップ		

【電気電子工学科履修要項】

【1】履修について

1．学位

電気電子工学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な137単位以上を修得した者には、「学士（工学）」の学位が授与されます。

2．卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p．12参照		24
外国語科目	英語	必修	⦿	8
		選択必修	★	2
学科科目	数学・共通科目	必修	⦿	8
		選択必修	☆	10
	専門実験・実習・演習	必修	⦿	16
	輪講・卒業研究	必修	⦿	10
	専門科目	必修	⦿	27
		選択必修	★	24
自由選択科目	青山スタンダード科目	選択		8
	外国語科目			
	学科科目			
	他学科科目			
	他学部科目			
合計				137

外国人留学生卒業要件単位表

系列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p．12参照		24
外国語科目	日本語	必修	⦿	10
学科科目	数学・共通科目	必修	⦿	8
		選択必修	☆	10
	専門実験・実習・演習	必修	⦿	16
	輪講・卒業研究	必修	⦿	10
	専門科目	必修	⦿	27
		選択必修	★	24
自由選択科目	青山スタンダード科目	選択		8
	外国語科目			
	学科科目			
	他学科科目			
	他学部科目			
合計				137

3．最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、１科目以上の履修をしなければなりません。

学年	１～４年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

（注意）教職課程科目および「職業指導」の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

4．修得単位僅少者

入学後の２年間（休学期間を除く）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5．進級条件

３年次生から４年次生に進級するためには、３年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の３年次後期から４年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生については、４年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たす（但し、「電気工学実験Ⅱ」の履修と、その単位数を除く）ことを条件に４年次に進級し、「卒業研究Ａ」（８単位、後期週24時間）、「電気電子工学輪講Ｃ」（２単位、後期週４時間）及び「電気工学実験Ⅱ」（２単位、後期週６時間）を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください（自学科の「卒業研究Ａ」のみ履修可）。

また、本学の３年次前期から３年次後期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生については、４年次の前期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たす（但し、「電気工学実験Ⅰ」及び「電気工学実験Ⅱ」の履修と、それらの単位数を除く）ことを条件に４年次に進級し、「電気工学実験Ⅰ」（２単位、前期週６時間）及び「電気工学実験Ⅱ」（２単位、後期週６時間）を履修することができます。必修科目（「電気工学実験Ⅰ」及び「電気工学実験Ⅱ」を除く）の修得や単位読み替えに関して、留学前に学科とよく相談のうえ、学科の指示に従ってください。

6．卒業研究の履修条件

卒業研究の履修条件は、以下のとおりです。

１）３年以上在学していること。
２）青山スタンダード科目の卒業要件単位を修得していること。
３）外国語科目・学科科目のうち３年次までの必修科目の卒業要件単位を修得していること。
４）卒業要件内単位のうち118単位以上修得していること。
　ただし、修得した単位数および内容により卒業研究の方法を変える。
５）機械創造工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は機械創造工学科の許可を受けること。
６）経営システム工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は経営システム工学科の許可を受けること。
７）情報テクノロジー学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は情報テクノロジー学科の許可を受けること。

【2】外国語科目（英語）配置表および履修方法

1．外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。
なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．外国語科目配置表

外国語科目（英語）

⦿印の８単位　必修
★から２単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿English Core Ⅰ-a	1	2								
⦿English Core Ⅰ-b	1	2								
⦿English Core Ⅰ-c	1		2							
⦿English Core Ⅰ-d	1		2							
⦿English Core Ⅱ-a	1			2						
⦿English Core Ⅱ-b	1			2						
⦿English Core Ⅱ-c	1				2					
⦿English Core Ⅱ-d	1				2					
★Active Speaking Skills A	1					2				
★Active Speaking Skills B	1						2			
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に担当者の許可が必要です。
★Advanced Skills B	1						2			
★English Comprehension A	1					2				
★English Comprehension B	1						2			
★English for Engineers A	1					2				
★English for Engineers B	1						2			
★Study Abroad A	2			2						※下記参照
★Study Abroad B	2			2						

※Study Abroad A、B の履修について

理工学部では、海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

⦿外国人留学生の外国語科目（日本語）配置表および履修方法

◎外国人留学生
外国語科目（日本語）
配置表
⦿の10単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿ 日本語初級A-1	1	2								
⦿ 日本語初級A-2	1		2							日本語初級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級B-1	1	2								
⦿ 日本語初級B-2	1		2							日本語初級B-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級C-1	1	2								
⦿ 日本語初級C-2	1		2							日本語初級C-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-2	1				2					日本語中級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-2	1				2					日本語中級B-1修得者のみ履修可
日本語上級-1	1					2				青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちいずれかの科目の修得者のみ履修可
日本語上級-2	1						2			青山キャンパス開講科目 日本語上級-1修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。
※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。
・言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位
　必修（4単位）
　　フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。
・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。
※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ（A）・Ⅰ（B）修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【3】学科科目配置表及び履修方法

1．学科科目履修方法

［学科科目］

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

規定以上に修得した選択必修科目、選択科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

ただし、卒業要件外科目、実験科目、および「一般電気工学」は除きます。履修の際には当該学科、学部の履修規定に従ってください。

2．学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

⦿は必修　☆★は選択必修

数学・共通科目

⦿の科目８単位　必修
☆の科目の中から10単位
選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
☆物理学Ⅰ	2	2								
☆物理学Ⅱ	2		2							
☆化学Ⅰ	2	2								
☆化学Ⅱ	2		2							
☆化学Ⅲ	2			2						
⦿解析学ⅠA	2	2								
⦿解析学ⅠB	2		2							
☆解析学Ⅱ	2			2						
⦿線形代数ⅠA	2	2								
⦿線形代数ⅠB	2		2							
☆線形代数Ⅱ	2					2				
☆線形代数Ⅲ	2						2			
☆微分方程式Ⅰ	2			2						
☆物理数学Ⅰ	2			2						
☆物理数学Ⅱ	2				2					
☆複素解析Ⅰ	2					2				
☆数学演習A	2	2								
☆数学演習B	2		2							
☆解析学Ⅱ演習	1			1						隔週
☆微分方程式Ⅰ演習	1			1						隔週
☆物理数学演習Ⅰ	1				1					隔週
☆物理数学演習Ⅱ	1				1					隔週
☆複素解析Ⅰ演習	1					1				隔週

専門実験・実習・演習

⊙の科目16単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙物理基礎実験Ⅰ	1	4								
⊙物理基礎実験Ⅱ	1		4							
⊙化学基礎実験	2	4 前期又は後期								
⊙電気計測実験	1	4 前期又は後期								
⊙ものづくり実習	1	4 前期又は後期								
⊙情報処理実習	2	4 前期又は後期								
⊙電気電子工学基礎実験Ⅰ	2			4						
⊙電気電子工学基礎実験Ⅱ	2				6					
⊙電気工学実験Ⅰ	2					6				
⊙電気工学実験Ⅱ	2						6			
インターンシップ	1					3				
理工学実践演習Ⅰ	2			4						理工学高度実践プログラム参加者のみ履修可
理工学実践演習Ⅱ	2				4					
理工学実践演習Ⅲ	2					4				
理工学実践演習Ⅳ	2						4			
理工学実践研究Ⅰ	4					12				
理工学実践研究Ⅱ	4						12			

輪講・卒業研究

⊙の科目10単位　必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙電気電子工学輪講A	1							2		
⊙電気電子工学輪講B	1								2	
⊙電気電子工学輪講C	2								4	協定校・認定校留学生のみ履修可
⊙卒業研究Ⅰ	4							12		卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰに合格した場合のみ履修できる。Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。理工学高度実践プログラム参加者は履修不可
⊙卒業研究Ⅱ	4								12	
⊙理工学高度実践研究Ⅰ	4							12		理工学高度実践プログラム参加者のみ履修可
⊙理工学高度実践研究Ⅱ	4								12	
⊙卒業研究A	8								24	協定校・認定校留学生のみ履修可

専門科目

⊙の科目27単位　必修

★の科目の中から24単位選択必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙電気回路ⅠA及び演習	2	2								
⊙電気回路ⅠB及び演習	2		2							
⊙電気電子工学概論	2	2								
⊙電気磁気Ⅰ及び演習	3		4							
⊙電気磁気Ⅱ及び演習	3			4						
⊙電気回路Ⅱ	4			4						
⊙基本電子回路Ⅰ	2			2						
⊙基礎電気物性学及び演習	3			4						
⊙電気物性学Ⅰ	2				2					
⊙電気電子計測	2			2						
⊙電気回路Ⅲ	2				2					

（前ページの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
★基礎電気数学	2		2							
★基本電子回路Ⅱ	2				2					
★電磁波	2			2						
★アナログ電子回路	2					2				
★デジタル電子回路	2						2			
★電気数学	2			2						
★数値計算法	2					2				
★情報処理	2				2					
★バイオエレクトロニクス	2						2			
★電気物性学Ⅱ	2					2				
★電子物性工学	2					2				
★半導体デバイス	2						2			
★量子電子デバイス	2						2			
★電波工学Ⅰ	2					2				
★電波工学Ⅱ	2						2			
★システム制御Ⅰ	2					2				
★システム制御Ⅱ	2						2			
★信号基礎理論	2					2				
★通信方式	2							2		
★電子計算機工学Ⅰ	2					2				
★電子計算機工学Ⅱ	2						2			
★電気機器学Ⅰ	2					2				
★電気機器学Ⅱ	2						2			
★送配電工学	2							2		
★発変電工学	2						2			
★電子応用	2							2		
★パワーエレクトロニクス	2							2		
★情報通信理論	2						2			
★電気施設管理及び法規	2							2		
★電気設計及び製図	2								2	
★高電圧工学	2					2				
★光エレクトロニクス	2					2				
★通信工学及び法規	2							2		
★集積回路工学	2							2		
★プログラミング言語	2			3						
現代物理学概論	2				2					
サイバネティクス	2				2					
一般機械工学	2					2				
一般経営工学	2						2			
計算機概論	2			2						
ソフトウェア設計	2			2						
確率統計	2			2						
材料力学Ⅰ及び演習	4			4						
ロボット工学	2			2						

授業科目	単位	週時間数								備考
		1年		2年		3年		4年		
		前	後	前	後	前	後	前	後	
自動制御と制御プログラミング	2				2					
計測・電子回路	2				2					
機械制御	2					2				
メカトロニクス	2					2				
言語理論とコンパイラ	2					2				
分析技術入門	2					2				
モデル化技術入門	2					2				
職業指導	4					4				隔年開講・集中講義・卒業要件外、(注)
工業概論A	2			2						隔年開講・集中講義・卒業要件外、(注)

(注)教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。

【4】自由選択科目履修方法

自由選択科目履修方法

下記の（イ）（ロ）（ハ）（ニ）（ホ）のうちから任意に8単位修得しなければなりません。

（イ）青山スタンダード科目
（ロ）外国語科目
（ハ）学科科目
（ニ）他学科科目
（ホ）他学部科目

（卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます）

ただし、卒業要件外科目、実験科目および「一般電気工学」は除外科目として扱います。他学科・他学部科目のうちには実験科目などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください（「Ⅲ．履修について1．履修計画」を参照）。

電気電子工学科履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。

1年		2年		3年		4年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
物理学Ⅰ	物理学Ⅱ						
化学Ⅰ	化学Ⅱ	化学Ⅲ					
解析学ⅠA	解析学ⅠB	解析学Ⅱ					
線形代数ⅠA	線形代数ⅠB	微分方程式Ⅰ		線形代数Ⅱ	線形代数Ⅲ		
数学演習A	数学演習B	物理数学Ⅰ	物理数学Ⅱ	複素解析Ⅰ			
		解析学Ⅱ演習	物理数学演習Ⅰ	複素解析Ⅰ演習			
		微分方程式Ⅰ演習	物理数学演習Ⅱ				
電気電子工学概論							
	基礎電気数学	電気数学					
電気回路IA及び演習	電気回路IB及び演習	電気回路Ⅱ	電気回路Ⅲ				
		基本電子回路Ⅰ	基本電子回路Ⅱ	アナログ電子回路	デジタル電子回路		
	電気磁気Ⅰ及び演習	電気磁気Ⅱ及び演習				通信工学及び法規	
		電磁波		電波工学Ⅰ	電波工学Ⅱ		
必ず身に付けるべき電気の専門知識							
					バイオエレクトロニクス		
				電子計算機工学Ⅰ	電子計算機工学Ⅱ		
				信号基礎理論	情報通信理論	通信方式	
		基礎電気物性学及び演習	電気物性学Ⅰ	電気物性学Ⅱ	半導体デバイス		
				光エレクトロニクス	量子電子デバイス	集積回路工学	
				電子物性工学			
		電気電子計測		システム制御Ⅰ	システム制御Ⅱ	電子応用	
				高電圧工学	発変電工学	送配電工学	
				電気機器学Ⅰ	電気機器学Ⅱ	パワーエレクトロニクス	
						電気施設管理及び法規	電気設計及び製図
情報処理実習		プログラミング言語	情報処理	数値計算法			
物理基礎実験Ⅰ	物理基礎実験Ⅱ	電気電子工学基礎実験Ⅰ	電気電子工学基礎実験Ⅱ	電気工学実験Ⅰ	電気工学実験Ⅱ		
化学基礎実験							
電気計測実験							
ものづくり実習							
						電気電子工学輪講A	電気電子工学輪講B
						卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ

理工系で身に付けるべき専門基礎知識

電気電子の基礎

電気で必要な応用数学

回路の基礎理論から応用まで

電磁気の基礎理論から電波応用まで

コンピューターと情報・通信

材料の基礎理論からデバイス応用まで

計測の基礎から制御・応用まで

パワーエレクトロニクス関連科目

ソフトウェアの基礎から応用まで

実験を通じた理論の理解

ゼミ形式少人数科目

4年間のまとめ

★電気主任技術者資格について

本学は、電気主任技術者免状に係わる学校として経済産業省の認定を受けており、必要な単位(必修科目の他、選択必修科目の中から指定された８科目17単位)を修得して卒業すると、**実務経験により、第一種、第二種および第三種電気主任技術者免状の交付を申請**することができます。将来、500Ｖ以上の電気工作物の工事、維持又は運用に係わる可能性のある者は、次に示す各科目区分ごとの必要単位を必ず**在学中**に修得しておいてください。なお、科目名や単位数は入学年度により異なりますので注意してください。

また、「電気電子計測」、「電波工学Ⅱ」及び「通信工学及び法規」の科目を修得して卒業すると、第１級陸上特殊無線技士及び第３級海上特殊無線技士の免許交付を申請することができます。

科目区分と必要単位数		本学における該当科目	単位	備　　考
科 目 区 分	単位			
電気又は電子工学の基礎	17単位以上	◎電気回路ⅠＡ及び演習 ◎電気回路ⅠＢ及び演習 ◎電気磁気Ⅰ及び演習 ◎電気磁気Ⅱ及び演習 ◎電気回路Ⅱ 基本電子回路Ⅰ 基礎電気物性学及び演習 ◎電気電子計測 基本電子回路Ⅱ アナログ電子回路 デジタル電子回路	2 2 3 3 4 2 3 2 2 2 2	本学での必修科目が経済産業省指定の授業内容をすべて含み、かつ、該当科目合計単位数が20単位のため、卒業すれば、この科目区分は自動的に充足。
発電、変電、送電、配電及び電気材料等 電気法規・電気施設管理	８単位以上	◎発変電工学 ◎送配電工学 高電圧工学 電気物性学Ⅱ ◎電気施設管理及び法規	2 2 2 2 2	**◎印の指定科目に加え、高電圧工学か電気物性学Ⅱの何れか一方の修得が必要。** 単位不足の場合には電気主任技術者試験の電力科目、法規科目の合格により補完できる。
電気及び電子機器、自動制御、電気エネルギー利用並びに情報伝送及び処理等	10単位以上	◎電気機器学Ⅰ ◎電気機器学Ⅱ ◎パワーエレクトロニクス ◎システム制御Ⅰ ◎システム制御Ⅱ 情報処理	2 2 2 2 2 2	**◎印の指定科目を必ず修得すること。** 単位不足の場合には電気主任技術者試験の機械科目の合格により補完できる。
電気実験、実習	６単位以上	◎電気電子工学基礎実験Ⅱ ◎電気工学実験Ⅰ ◎電気工学実験Ⅱ	2 2 2	すべて必修科目のため、卒業すれば、自動的に充足。
電気電子機器設計、製図	２単位以上	◎電気設計及び製図	2	

◎印は、経済産業省が指定した必ず履修しなければならない授業内容に該当する本学の指定科目。

必要な単位の一部を修めないで卒業した場合は、次のⅠまたはⅡの方法で補うことができます。なお、本学大学院において修得した学部科目は認められません。

Ⅰ　上の表の各科目区分ごとに１科目を限度として、**卒業後３年以内に科目等履修生制度により本学で修得した**単位に含めることができます。なお、単位修得前の実務経験は1/2として計算します。

Ⅱ　不足している科目に相当する電気主任技術者試験（一次試験）に合格することにより不足単位を補うことができます。ただし、試験合格で補完できるのは、受験科目が「電力」、「機械」、「法規」のいずれかの１科目か、「電力」と「法規」、「機械」と「法規」の場合のみですので注意してください。

免状交付の申請は、必要な単位数を修得していることを前提に、次のような実務経験に応じて申請できます。免状交付申請に必要な単位修得証明書については申請時に本学相模原事務部学務課に相談してください。

種類	実務の内容	経験年数
第　一　種	電圧５万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用	５年以上
第　二　種	電圧１万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用	３年以上
第　三　種	電圧500ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用	１年以上

【機械創造工学科　教育目標とカリキュラム】

教育目標とカリキュラム

現代の機械は知的機能や動作機能が統合された複雑なシステムです。システムをつくるということは、目標あるいは要求から出発し、さまざまな要素を統合して現実に存在するものとして具現化することです。

そのための学問が工学、とりわけ機械工学であり、現在の機械技術者に要求されることは、機械に関する個々の断片的な知識ではなく、種々の要素を統合する能力とこの中で自ら問題を発掘して解決する能力です。したがって、このような能力を持って、伝統的な概念にとらわれない新しい機械システムを創造することのできる技術者を育てることが、本機械創造工学科の目標です。

統合する能力は、数学的基礎を背景として、数学的手法、論理的手法といった一般的なものから、設計手法、生産手法といった個々のものを学ぶことによって育てられます。解決する能力もまた、数学的・物理学的基礎を背景として、一般的なものから個々の伝統的な機械工学分野を学ぶことによって育てられます。

そこで本機械創造工学科では、

⑴　数学、英語、コンピュータは必須の道具です。

⑵　工業力学、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を統合および解決両能力を育てるために必須の基礎学問と位置づけます。

⑶　⑴⑵を基礎として、機械工学は次の 3 つの分野に大別できます。したがって、学生諸君は自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てるべきです。

A 群：材料を対象とし、材料の変形・強度・破壊など、材料の性質・挙動などについて学びます。

B 群：熱や流体を対象とし、熱や流れの力学、熱エネルギーの利用や熱移動、輸送システムなどについて学びます。

C 群：動力学・計測・制御・生産を対象とし、機械の動きとその計測・制御といったシステムに関する基礎、設計、機械加工と工作機械などについて学びます。

⑷　上記と並行して、ラボワーク、機械創造工学演習、機械創造工学実験、機械設計製図など、演習、実験、実習科目を配置しています。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる場です。

⑸　卒業年次には各研究室に所属し、統合と解決の能力を融合させて、最先端の研究を卒業研究として行います。

⑹　本学の大学院理工学研究科理工学専攻機械創造コースへ進学する場合、所属は本学ですが、研究面では本学の研究室で研究を行う形と外部の研究機関で行う形（連携大学院方式）があります。詳細は別途お知らせします。

【機械創造工学科履修要項】

【1】履修について

1．学位

機械創造工学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な136単位以上を修得した者には、「学士（工学）」の学位が授与されます。

2．卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系　　列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p．12参照		24
外国語科目	英語	必　修	⦿	8
		選択必修	★	2
学科科目	数学・共通科目	選択必修	☆	12
	専門実験・実習・演習	必　修	⦿	20
		選択必修	◇	2
		選択必修	◇または◆	4
	輪講・卒業研究	必　修	⦿	10
	第1科目群	必　修	⦿	20
		選択必修	△	8
	第2科目群	選択必修	▽	20
自由選択科目	青山スタンダード科目	選　択		6
	外国語科目			
	学科科目			
	他学科科目			
	他学部科目			
合　　計				136

外国人留学生 卒業要件単位表

系　　列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p．12参照		24
外国語科目	日本語	必　修	⦿	10
学科科目	数学・共通科目	選択必修	☆	12
	専門実験・実習・演習	必　修	⦿	20
		選択必修	◇	2
		選択必修	◇または◆	4
	輪講・卒業研究	必　修	⦿	10
	第１科目群	必　修	⦿	20
		選択必修	△	8
	第２科目群	選択必修	▽	20
自由選択科目	青山スタンダード科目	選　択		6
	外国語科目			
	学科科目			
	他学科科目			
	他学部科目			
合　　計				136

3．最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、１科目以上の履修をしなければなりません。

学年	１～４年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

（注意）教職課程科目および「職業指導」の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

4．修得単位僅少者

入学後の２年間（休学期間を除く）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5．進級条件

３年次生から４年次生に進級するためには、３年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の３年次後期から４年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、４年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たす（但し、「機械創造工学輪講Ⅱ」の履修と、その単位を除く）ことを条件に４年次に進級し、「卒業研究Ａ」（８単位、後期週24時間）及び「機械創造工学輪講Ⅱ」（２単位、後期週２時間）を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください（自学科の「卒業研究Ａ」のみ履修可）。

6．卒業研究の履修条件

卒業研究の履修条件は、以下のとおりです。

１）３年以上在学していること。
２）３年次までに、学科科目のうちの数学・共通科目、第１科目群、専門実験・実習・演習の必要単位を修得していること。
３）３年次までに、青山スタンダード科目の必修科目、外国語科目の必修科目、機械創造工学輪講Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
４）卒業要件内単位のうち120単位以上修得していること。
５）電気電子工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は電気電子工学科の許可を受けること。
６）経営システム工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は経営システム工学科の許可を受けること。
７）情報テクノロジー学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は情報テクノロジー学科の許可を受けること。

【2】外国語科目（英語）配置表および履修方法

1．外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。
なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．外国語科目配置表

外国語科目（英語）

⦿印の８単位　必修
★から２単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿English Core Ⅰ-a	1	2								
⦿English Core Ⅰ-b	1	2								
⦿English Core Ⅰ-c	1		2							
⦿English Core Ⅰ-d	1		2							
⦿English Core Ⅱ-a	1			2						
⦿English Core Ⅱ-b	1			2						
⦿English Core Ⅱ-c	1				2					
⦿English Core Ⅱ-d	1				2					
★Active Speaking Skills A	1					2				
★Active Speaking Skills B	1						2			
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に担当者の許可が必要です。
★Advanced Skills B	1						2			
★English Comprehension A	1					2				
★English Comprehension B	1						2			
★English for Engineers A	1					2				
★English for Engineers B	1						2			
★Study Abroad A	2			2						※下記参照
★Study Abroad B	2			2						

※Study Abroad A、B の履修について

理工学部では、海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

⦿外国人留学生の外国語科目（日本語）配置表および履修方法

◎外国人留学生
外国語科目（日本語）
配置表
⦿の10単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿ 日本語初級A-1	1	2								
⦿ 日本語初級A-2	1		2							日本語初級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級B-1	1	2								
⦿ 日本語初級B-2	1		2							日本語初級B-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級C-1	1	2								
⦿ 日本語初級C-2	1		2							日本語初級C-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-2	1				2					日本語中級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-2	1				2					日本語中級B-1修得者のみ履修可
日本語上級-1	1					2				青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちいずれかの科目の修得者のみ履修可
日本語上級-2	1						2			青山キャンパス開講科目 日本語上級-1修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。
※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。
・言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位
　必修（4単位）
　　フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。
・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。
※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ（A）・Ⅰ（B）修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【3】学科科目配置表および履修方法

1．学科科目履修方法

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。
規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。
⦿は必修　☆・★・◇・◆・△・▽は選択必修

数学・共通科目
☆の科目の中から
12単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
☆線形代数ⅠA	2	2								
☆線形代数ⅠB	2		2							
☆解析学ⅠA	2	2								
☆解析学ⅠB	2		2							
☆数学演習A	2	2								
☆数学演習B	2		2							
☆線形代数Ⅱ	2			2						
☆線形代数Ⅲ	2				2					
☆解析学Ⅱ	2			2						
☆物理数学Ⅰ	2			2						
☆複素解析Ⅰ	2					2				
☆微分方程式Ⅰ	2			2						
☆物理数学Ⅱ	2				2					
☆解析学Ⅱ演習	1			1						隔週
☆微分方程式Ⅰ演習	1			1						隔週
☆物理数学演習Ⅰ	1				1					隔週
☆物理数学演習Ⅱ	1				1					隔週
☆複素解析Ⅰ演習	1					1				隔週
☆物理学Ⅰ	2	2								
☆物理学Ⅱ	2		2							
☆現代物理学概論	2				2					
☆化学Ⅰ	2	2								
☆化学Ⅱ	2		2							
☆化学Ⅲ	2			2						

専門実験・実習・演習
⦿の科目20単位　必修
◇◆の科目を
合計６単位　選択必修
（そのうち２単位は必ず◇から履修しなくてはなりません）

⦿ものづくり実習	1	4 前期又は後期								
⦿物理基礎実験Ⅰ	1	4								
⦿物理基礎実験Ⅱ	1		4							
⦿化学基礎実験	2	4 前期又は後期								
⦿電気計測実験	1	4 前期又は後期								

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⦿情報処理実習	2	4 前期又は後期								
⦿機械創造工学体験演習	2	2								
⦿基礎製図	2			2						
⦿機械要素設計	2				4					
⦿計算機実習Ⅰ	2			4						
⦿計算機実習Ⅱ	2				4					
⦿機械設計製図	2					4				
◇機械創造工学実験Ⅰ	2					4				
◇機械創造工学実験Ⅱ	2						4			
◆機械創造工学演習	2			2 前期又は後期						
◆ラボ・ワークAⅠ	1			2						教員の許可を得たものに限る。 AとBの同時履修はできない。 Ⅰ・Ⅱのうちいずれかが不合格となればⅠ・Ⅱともに不合格となる。 Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。 ラボ・ワークと卒業研究の同時履修はできない。 ラボ・ワークAⅠ、AⅡ履修者は理工学実践演習Ⅱの同時履修不可 ラボ・ワークBⅠ、BⅡ履修者は理工学実践演習Ⅳの同時履修不可
◆ラボ・ワークAⅡ	1				2					
◆ラボ・ワークBⅠ	1					2				
◆ラボ・ワークBⅡ	1						2			
◆理工学実践演習Ⅱ	2				4					申請者のみ履修可 ラボ・ワークAⅠ、AⅡとの同時履修不可
◆理工学実践演習Ⅳ	2						4			申請者のみ履修可 ラボ・ワークBⅠ、BⅡとの同時履修不可
インターンシップ	1					3				

輪講・卒業研究

⦿の科目10単位　必修

⦿機械創造工学輪講Ⅰ	1					2				
⦿機械創造工学輪講Ⅱ	1						2			
⦿卒業研究Ⅰ	4							12		卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰに合格した場合のみ履修できる。 Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。
⦿卒業研究Ⅱ	4								12	
⦿卒業研究A	8								24	協定校・認定校留学者のみ履修可
⦿理工学高度実践研究Ⅰ	4							12		申請者のみ履修可 卒業研究Ⅰ履修者は履修不可
⦿理工学高度実践研究Ⅱ	4								12	申請者のみ履修可 卒業研究Ⅱ履修者は履修不可

第1科目群

⦿の科目20単位　必修
△の科目の中から
8単位　選択必修

⦿工業力学	2	2								
⦿工業動力学	2		2							
⦿材料力学Ⅰ及び演習	4			4						
⦿熱力学及び演習	4			4						
⦿機械力学及び演習	4				4					
⦿流体力学及び演習	4				4					
△応用数学Ⅰ	2			2						
△応用数学Ⅱ	2				2					
△材料科学概論	2				2					

第1科目群

（前ページの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
△精密加工学	2					2				
△確率統計	2			2						
△組合せ最適化Ⅰ	2				2					
△応用統計解析	2					2				英語講義
△オペレーションズ・リサーチⅠ	2					2				
△生産管理技術Ⅰ	2					2				
△情報数学Ⅰ	2		2							英語講義
△情報数学Ⅱ	2				2					
△計算機概論	2					2				
△数理モデル解析法	2					2				
△メカトロニクス	2					2				
△データ構造とアルゴリズム	2						2			

第２科目群

▽の科目の中から
20単位　選択必修

▽材料力学Ⅱ	2				2					
▽応用熱力学	2				2					
▽計測・電子回路	2				2					
▽振動工学	2						2			
▽粘性流体力学	2					2				
▽機能材料	2					2				
▽機械制御	2					2				
▽弾塑性工学	2					2				
▽流体機械	2						2			
▽ロボット機構学	2						2			
▽エネルギー変換工学	2						2			
▽熱・物質移動論	2					2				
▽圧縮性流体力学	2					2				
▽材料強度学	2						2			
▽計算力学	2						2			
▽工作機械	2						2			
▽機械技術と社会	2						2			
▽ＩＥ技術	2				2					
▽多変量解析Ⅰ	2						2			
▽経営システム工学特別講座	2						2			
▽ロボット工学	2			2						
▽自動制御と制御プログラミング	2				2					

選択科目

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
一般電気工学	2				2					
電磁波	2					2				
アナログ電子回路	2					2				
信号基礎理論	2					2				
デジタル電子回路	2						2			
バイオエレクトロニクス	2						2			
発変電工学	2						2			
送配電工学	2							2		
電子応用	2							2		
一般経営工学	2				2					
品質管理技術	2					2				
経済性工学	2						2			英語講義
実験計画法	2						2			英語講義
生産管理技術Ⅱ	2						2			英語講義
オペレーションズ・リサーチⅡ	2						2			
多変量解析Ⅱ	2						2			
企業経済学	2					2				
システム工学応用	2					2				
コーポレートファイナンス	2						2			
生産システム設計	2							2		英語講義
経営管理論	2							2		英語講義
ゲーム理論	2						2			
サイバネティクス	2				2					
ソフトウェア設計	2					2				
ヒューマンコンピュータインタラクション	2						2			
人工知能論	2						2			
認知心理学	2						2			
高次ヒューマンインタフェース	2						2			
生体情報工学	2						2			
理工学実践演習Ⅰ	2			4						申請者のみ履修可
理工学実践演習Ⅲ	2					4				申請者のみ履修可
職業指導	4					4				隔年開講・集中講義・卒業要件外、(注)
工業概論B	2			2						隔年開講・集中講義・卒業要件外、(注)

(注)教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。

【4】自由選択科目履修方法

自由選択科目履修方法

下記の（イ）（ロ）（ハ）（ニ）（ホ）のうちから任意に 6 単位修得しなければなりません。

（イ）青山スタンダード科目
（ロ）外国語科目
（ハ）学科科目
（ニ）他学科科目
（ホ）他学部科目

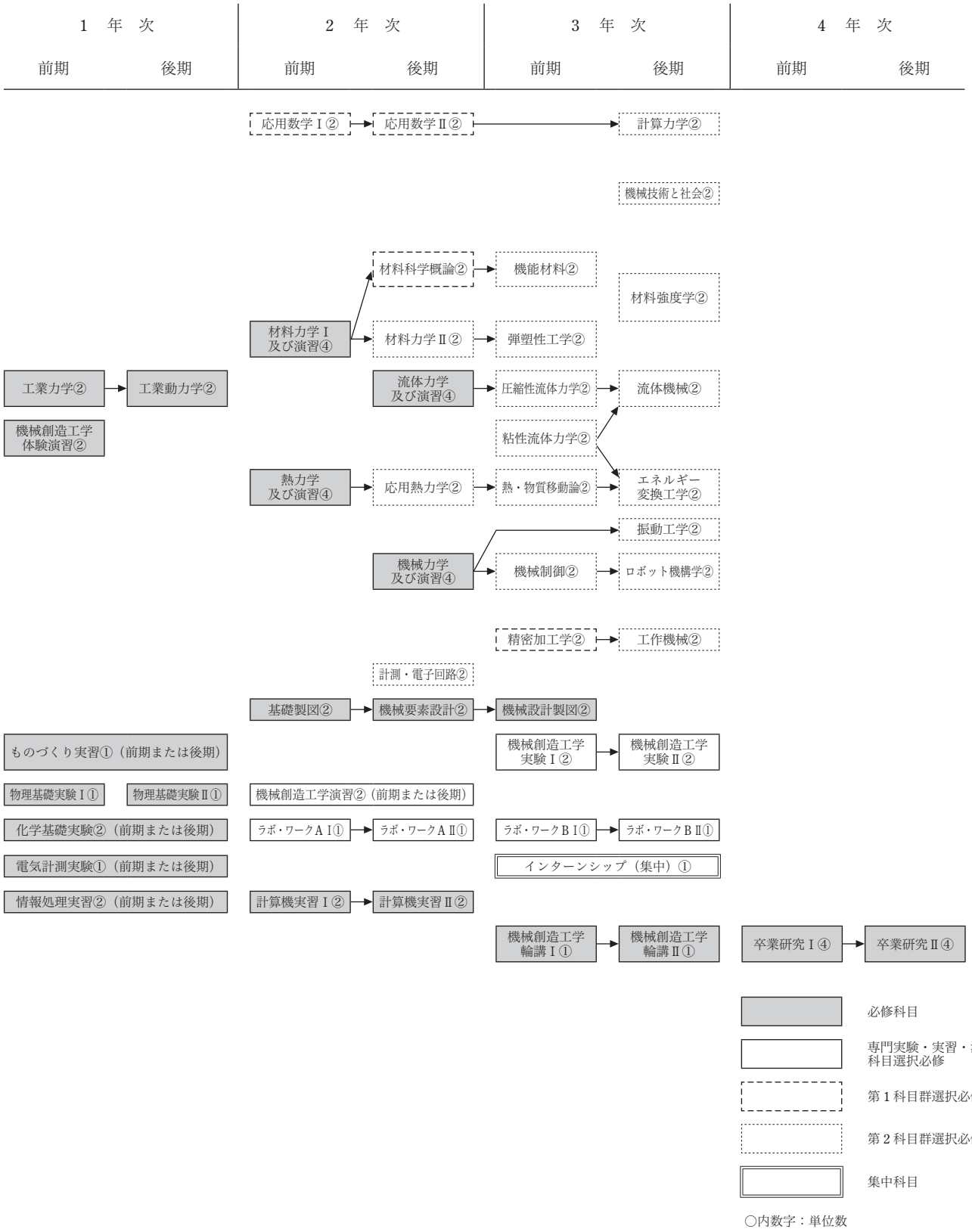
（卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます）

ただし、卒業要件外科目は除きます。他学科・他学部科目のうちには実験科目、「一般機械工学」などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください（「Ⅲ．履修について 1．履修計画」を参照）。

機械創造工学科履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。



【経営システム工学科履修要項】

【1】履修について

1．学位

経営システム工学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な136単位以上を修得した者には、「学士（工学）」の学位が授与されます。

2．卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系　　列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p．12参照		24
外国語科目	英語	必　修	⦿	8
		選択必修	★	2
学科科目	数学・共通科目	選択必修	☆	12
	専門実験・実習・演習	必　修	⦿	14
		選択必修	◇	4
	輪講・卒業研究	必　修	⦿	10
	第1科目群	必　修	⦿	6
		選択必修	△または▲	30
	第2科目群	選択必修	▽または▼	18
自由選択科目	青山スタンダード科目※ 外国語科目 学科科目 他学科科目 他学部科目	選　択		8
合　　計				136

※ただし、青山スタンダード科目は4単位までを自由選択科目として扱います。

外国人留学生 卒業要件単位表

系　　列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p．12参照		24
外国語科目	日本語	必　修	⦿	10
学科科目	数学・共通科目	選択必修	☆	12
	専門実験・実習・演習	必　修	⦿	14
		選択必修	◇	4
	輪講・卒業研究	必　修	⦿	10
	第１科目群	必　修	⦿	6
		選択必修	△または▲	30
	第２科目群	選択必修	▽または▼	18
自由選択科目	青山スタンダード科目※ 外国語科目 学科科目 他学科科目 他学部科目	選　択		8
合　　計				136

※ただし、青山スタンダード科目は４単位までを自由選択科目として扱います。

3．最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、１科目以上の履修をしなければなりません。

学年	１～４年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

4．修得単位僅少者

入学後の２年間（休学期間を除く）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5．進級条件

３年次生から４年次生に進級するためには、３年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の３年次後期から４年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、４年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たす（但し、「経営システム工学輪講Ⅱ」及び専門実験（◇後期科目のみ）の履修と、それらの単位を除く）ことを条件に４年次に進級し、「卒業研究Ａ」（８単位、後期週24時間）、「経営システム工学輪講Ⅱ」（２単位、後期週２時間）及び専門実験（◇後期科目のみ。２単位後期週４時間）を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください（自学科の「卒業研究Ａ」のみ履修可）。

6．卒業研究の履修条件

「卒業研究」の履修条件は以下のとおりです。

１）３年以上在学していること。
２）３年次までに、学科科目のうちの数学・共通科目、第１科目群、専門実験・実習・演習の必要単位を修得していること。
３）３年次までの必修科目の単位を修得していること。
４）卒業要件内単位のうち118単位以上修得していること。
５）電気電子工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は電気電子工学科の許可を受けること。
６）機械創造工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は機械創造工学科の許可を受けること。
７）情報テクノロジー学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は情報テクノロジー学科の許可を受けること。

【2】外国語科目（英語）配置表および履修方法

1．外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。
なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．外国語科目配置表

外国語科目（英語）

⦿印の８単位　必修
★から２単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿English Core Ⅰ-a	1	2								
⦿English Core Ⅰ-b	1	2								
⦿English Core Ⅰ-c	1		2							
⦿English Core Ⅰ-d	1		2							
⦿English Core Ⅱ-a	1			2						
⦿English Core Ⅱ-b	1			2						
⦿English Core Ⅱ-c	1				2					
⦿English Core Ⅱ-d	1				2					
★Active Speaking Skills A	1					2				
★Active Speaking Skills B	1						2			
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に担当者の許可が必要です。
★Advanced Skills B	1						2			
★English Comprehension A	1					2				
★English Comprehension B	1						2			
★English for Engineers A	1					2				
★English for Engineers B	1						2			
★Study Abroad A	2			2						※下記参照
★Study Abroad B	2			2						

※Study Abroad A、B の履修について

理工学部では、海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

⦿外国人留学生の外国語科目（日本語）配置表および履修方法

◎外国人留学生
外国語科目（日本語）
配置表
⦿の10単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿ 日本語初級A-1	1	2								
⦿ 日本語初級A-2	1		2							日本語初級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級B-1	1	2								
⦿ 日本語初級B-2	1		2							日本語初級B-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級C-1	1	2								
⦿ 日本語初級C-2	1		2							日本語初級C-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-2	1				2					日本語中級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-2	1				2					日本語中級B-1修得者のみ履修可
日本語上級-1	1					2				青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちいずれかの科目の修得者のみ履修可
日本語上級-2	1						2			青山キャンパス開講科目 日本語上級-1修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。
※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。
・言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位
　必修（4単位）
　　フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。
・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。
※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ（A）・Ⅰ（B）修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【3】学科科目配置表及び履修方法

1．学科科目履修方法

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。
規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。
⦿は必修　☆・★・◇・△・▲・▽・▼は選択必修

数学・共通科目

☆の科目の中から 12単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
☆解析学Ⅰ A	2	2								
☆解析学Ⅰ B	2		2							
☆解析学Ⅱ	2			2						
☆線形代数Ⅰ A	2	2								
☆線形代数Ⅰ B	2		2							
☆線形代数Ⅱ	2			2						
☆線形代数Ⅲ	2				2					
☆微分方程式Ⅰ	2			2						
☆物理数学Ⅰ	2			2						
☆物理数学Ⅱ	2				2					
☆複素解析Ⅰ	2					2				
☆数学演習 A	2	2								
☆数学演習 B	2		2							
☆解析学Ⅱ演習	1			1						隔週
☆微分方程式Ⅰ演習	1			1						隔週
☆物理数学演習Ⅰ	1				1					隔週
☆物理数学演習Ⅱ	1				1					隔週
☆複素解析Ⅰ演習	1					1				隔週
☆物理学Ⅰ	2	2								
☆物理学Ⅱ	2		2							
☆化学Ⅰ	2	2								
☆化学Ⅱ	2		2							
☆化学Ⅲ	2			2						
☆現代物理学概論	2				2					

専門実験・実習・演習

⦿の科目14単位　必修
◇を合計 4 単位　選択必修

⦿情報処理実習	2	4 前期又は後期								
⦿物理基礎実験Ⅰ	1	4								
⦿物理基礎実験Ⅱ	1		4							
⦿化学基礎実験	2	4 前期又は後期								
⦿電気計測実験	1	4 前期又は後期								

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙ものづくり実習	1	4 前期又は後期								
⊙計算機実習Ⅰ	2			4						
⊙計算機実習Ⅱ	2				4					
⊙計算機実習Ⅲ	2					4				
◇モデル化技術実験	2					4				
◇分析技術実験	2						4			
◇最適化技術実験	2						4			
インターンシップ	1					3				
グローバルＩＳＥ	2					2				英語講義
理工学実践研究Ⅰ	4					12				
理工学実践研究Ⅱ	4						12			

輪講・卒業研究

⊙の科目10単位　必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙経営システム工学輪講Ⅰ	1					2				
⊙経営システム工学輪講Ⅱ	1						2			
⊙卒業研究Ⅰ	4							12		卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰに合格した場合のみ履修できる。Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。
⊙卒業研究Ⅱ	4								12	
⊙卒業研究Ａ	8								24	協定校留学生と認定校留学生のみ履修できます。留学以前に学科に申し出、学科の指示に従ってください。
⊙理工学高度実践研究Ⅰ	4							12		申請者のみ受講可能。卒業研究との同時履修は不可。
⊙理工学高度実践研究Ⅱ	4								12	申請者のみ受講可能。卒業研究との同時履修は不可。

第1科目群

⊙の科目6単位　必修
△▲の科目を合計30単位　選択必修
（そのうち16単位は必ず△から履修すること）

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙分析技術入門	2	2								
⊙最適化技術入門	2	2								
⊙モデル化技術入門	2		2							
△アルゴリズム設計	2			2						
△オペレーションズ・リサーチⅠ	2			2						
△確率統計	2			2						
△シミュレーション工学	2			2						
△意思決定論	2			2						
△組合せ最適化Ⅰ	2				2					
△システム工学基礎	2				2					
△多変量解析Ⅰ	2				2					
△多変量解析Ⅱ	2				2					
▲会計学	2			2						
▲経営システム工学の最先端	2			2						

第1科目群

（前ページの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
▲経営管理論	2			2						英語講義
▲生産管理技術Ⅰ	2			2						
▲ＩＥ技術	2				2					
▲オペレーションズ・リサーチⅡ	2				2					
▲実験計画法	2				2					英語講義
▲経営システム工学特別講座	2				2					
▲応用統計解析	2					2				英語講義
▲組合せ最適化Ⅱ	2					2				英語講義
▲経済性工学	2						2			英語講義
▲プログラミング技術	2						2			英語講義

第２科目群

▽▼の科目の中から合計18単位　選択必修（そのうち12単位は必ず▽から履修すること）

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
▽生産システム設計	2					2				英語講義
▽品質管理技術	2					2				
▽企業経済学	2					2				
▽システム工学応用	2					2				
▽地理情報処理	2					2				英語講義
▽ゲーム理論	2						2			
▽実践機械学習	2						2			
▽コーポレートファイナンス	2						2			
▽生産管理技術Ⅱ	2						2			英語講義
▼一般電気工学	2				2					
▼数値計算法	2					2				
▼電子計算機工学Ⅰ	2					2				
▼電子計算機工学Ⅱ	2						2			
▼情報通信理論	2						2			
▼デジタル電子回路	2						2			
▼電子応用	2							2		
▼一般機械工学	2			2						
▼工業力学	2			2						
▼材料力学Ⅰ及び演習	4			4						
▼熱力学及び演習	4			4						
▼機械力学及び演習	4				4					
▼流体力学及び演習	4				4					
▼材料科学概論	2				2					
▼情報数学Ⅰ	2		2							英語講義
▼計算機概論	2			2						
▼情報数学Ⅱ	2				2					
▼数理モデル解析法	2			2						
▼ロボット工学	2			2						

第２科目群

（前ページの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
▼ソフトウェア設計	2			2						
▼ヒューマンコンピュータインタラクション	2				2					
▼理工学実践演習Ⅰ	2			4						申請者のみ受講可能。
▼理工学実践演習Ⅱ	2				4					申請者のみ受講可能。

選択科目

工業動力学	2				2					
計測・電子回路	2				2					
精密加工学	2					2				
材料強度学	2						2			
機械技術と社会	2						2			
自動制御と制御プログラミング	2				2					
情報セキュリティ	2				2					
サイバネティクス	2				2					
言語理論とコンパイラ	2					2				
メカトロニクス	2			2						
人工知能論	2						2			
認知心理学	2						2			
生体情報工学	2						2			

【4】自由選択科目履修方法

自由選択科目履修方法

下記の（イ）（ロ）（ハ）（ニ）（ホ）のうちから任意に８単位修得しなければなりません。

（イ）青山スタンダード科目
（ロ）外国語科目
（ハ）学科科目
（ニ）他学科科目
（ホ）他学部科目

（卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます）

ただし、卒業要件外科目は除きます。青山スタンダード科目は４単位までを自由選択科目として扱います。他学科・他学部科目のうちには実験科目、「一般経営工学」などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください。（「Ⅲ．履修について１．履修計画」を参照）

経営システム工学科履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
共通科目	キリスト教概論Ⅰ		キリスト教概論Ⅱ					
	青山スタンダード科目（コア科目）		青山スタンダード科目（テーマ別科目）					
	英語・技術英語		英語・技術英語		英語・技術英語			
	第二外国語							
	数学・化学・物理学		数学・化学・物理学					
関連科目 分析技術	分析技術入門		確率統計	実験計画法	品質管理技術	経済性工学		
				多変量解析Ⅰ				
				多変量解析Ⅱ	応用統計解析	実践機械学習		
					企業経済学	分析技術実験		
関連科目 モデル化技術			シミュレーション工学	システム工学基礎				
		モデル化技術入門		ＩＥ技術	生産システム設計	プログラミング技術		
			経営管理論		システム工学応用	コーポレートファイナンス		
			意思決定論		モデル化技術実験			
関連科目 最適化技術	最適化技術入門		生産管理技術Ⅰ	組合せ最適化Ⅰ	組合せ最適化Ⅱ	生産管理技術Ⅱ		
			オペレーションズ・リサーチⅠ	オペレーションズ・リサーチⅡ				
			アルゴリズム設計		地理情報処理	ゲーム理論		
						最適化技術実験		
共通科目 経営システム工学			計算機実習Ⅰ	計算機実習Ⅱ	計算機実習Ⅲ			
			経営システム工学の最前線	経営システム工学特別講座	グローバルＩＳＥ			
					インターンシップ			卒業研究Ａ
			会計学		経営システム工学輪講Ⅰ	経営システム工学輪講Ⅱ	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
工学系共通科目			一般機械工学	一般電気工学	数値計算法	電子計算機工学Ⅱ	電子応用	
			工業力学	機械力学及び演習	電子計算機工学Ⅰ	情報通信理論		
		情報数学Ⅰ	材料力学Ⅰ及び演習	流体力学及び演習		デジタル電子回路		
			熱力学及び演習	材料科学概論				
			計算機概論	情報数学Ⅱ				
			数理モデル解析法	ヒューマンコンピュータインタラクション				
			ロボット工学					
			ソフトウェア設計					

【情報テクノロジー学科履修要項】

【1】履修について

1．学位

情報テクノロジー学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な136単位以上を修得した者には、「学士（工学）」の学位が授与されます。

2．卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系　　列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p．12参照		24
外国語科目	英語	必　修	⦿	8
		選択必修	★	2
学科科目	数学・共通科目	必　修	⦿	2
		選択必修	☆	10
	専門実験・実習・演習	必　修	⦿	24
	輪講・卒業研究	必　修	⦿	10
	第1科目群	必　修	⦿	18
		選択必修	△	8
	第2科目群	選択必修	▽	12
		選択必修	▽または▼	4
自由選択科目	青山スタンダード科目 外国語科目 学科科目 他学科科目 他学部科目	選　択		14
合　　計				136

外国人留学生 卒業要件単位表

系　　列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p．12参照		24
外国語科目	日本語	必　修	⦿	10
学科科目	数学・共通科目	必　修	⦿	2
		選択必修	☆	10
	専門実験・実習・演習	必　修	⦿	24
	輪講・卒業研究	必　修	⦿	10
	第１科目群	必　修	⦿	18
		選択必修	△	8
	第２科目群	選択必修	▽	12
		選択必修	▽または▼	4
自由選択科目	青山スタンダード科目 外国語科目 学科科目 他学科科目 他学部科目	選　択		14
合　　計				136

3．最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、１科目以上の履修をしなければなりません。

学年	１～４年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

（注意）教職課程科目の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

4．修得単位僅少者

入学後の２年間（休学期間を除く）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5．進級条件

３年次生から４年次生に進級するためには、３年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の３年次後期から４年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、４年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たす（但し、「情報テクノロジー輪講Ⅱ」及び専門実験（◎後期科目のみ））ことを条件に４年次に進級し、「情報テクノロジー輪講Ⅱ」（１単位、後期週２時間）、専門実験（◎後期科目のみ。２単位、後期週４時間）及び「卒業研究Ａ」（８単位、後期週24時間）を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください（自学科の「卒業研究Ａ」のみ履修可）。

6．卒業研究の履修条件

「卒業研究」の履修条件は以下のとおりです。

１）３年以上在学していること。
２）３年次までに、学科科目のうちの数学・共通科目、第１科目群、専門実験・実習・演習の必要単位を修得していること。
３）３年次までの必修科目の単位を修得していること。
４）卒業要件内単位のうち118単位以上修得していること。
５）電気電子工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は電気電子工学科の許可を受けること。
６）機械創造工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は機械創造工学科の許可を受けること。
７）経営システム工学科の「卒業研究」を履修することが可能であり、希望する者は経営システム工学科の許可を受けること

【2】第一外国語科目配置表及び履修方法

1．外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。
なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．外国語科目配置表

外国語科目（英語）

⦿印の８単位　必修
★から２単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿English Core Ⅰ-a	1	2								
⦿English Core Ⅰ-b	1	2								
⦿English Core Ⅰ-c	1		2							
⦿English Core Ⅰ-d	1		2							
⦿English Core Ⅱ-a	1			2						
⦿English Core Ⅱ-b	1			2						
⦿English Core Ⅱ-c	1				2					
⦿English Core Ⅱ-d	1				2					
★Active Speaking Skills A	1					2				
★Active Speaking Skills B	1						2			
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に担当者の許可が必要です。
★Advanced Skills B	1						2			
★English Comprehension A	1					2				
★English Comprehension B	1						2			
★English for Engineers A	1					2				
★English for Engineers B	1						2			
★Study Abroad A	2			2						※下記参照
★Study Abroad B	2			2						

※Study Abroad A、B の履修について

理工学部では、海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

⦿外国人留学生の外国語科目（日本語）配置表および履修方法

◎外国人留学生
外国語科目（日本語）
配置表
⦿の10単位　必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	履修条件
⦿ 日本語初級A-1	1	2								
⦿ 日本語初級A-2	1		2							日本語初級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級B-1	1	2								
⦿ 日本語初級B-2	1		2							日本語初級B-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語初級C-1	1	2								
⦿ 日本語初級C-2	1		2							日本語初級C-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級A-2	1				2					日本語中級A-1修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-1	1			2						日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
⦿ 日本語中級B-2	1				2					日本語中級B-1修得者のみ履修可
日本語上級-1	1					2				青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちいずれかの科目の修得者のみ履修可
日本語上級-2	1						2			青山キャンパス開講科目 日本語上級-1修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。
※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。
・言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位
　必修（4単位）
　　フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。
・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。
※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ（A）・Ⅰ（B）修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【3】学科科目配置表及び履修方法

1．学科科目履修方法

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。
規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2．学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。
⦿は必修　☆・★・□・◇・◆・△・▲・▽・▼は選択必修

数学・共通科目

⦿の科目２単位　必修
☆の科目の中から
10単位　選択必修

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
☆線形代数ⅠA	2	2								
☆線形代数ⅠB	2		2							
☆解析学ⅠA	2	2								
☆解析学ⅠB	2		2							
☆数学演習A	2	2								
☆数学演習B	2		2							
⦿情報数学Ⅰ	2		2							英語講義
☆線形代数Ⅱ	2			2						
☆線形代数Ⅲ	2				2					
☆解析学Ⅱ	2			2						
☆物理数学Ⅰ	2			2						
☆複素解析Ⅰ	2					2				
☆微分方程式Ⅰ	2			2						
☆物理数学Ⅱ	2				2					
☆解析学Ⅱ演習	1			1						隔週
☆微分方程式Ⅰ演習	1			1						隔週
☆物理数学演習Ⅰ	1				1					隔週
☆物理数学演習Ⅱ	1				1					隔週
☆複素解析Ⅰ演習	1					1				隔週
☆化学Ⅰ	2	2								
☆物理学Ⅰ	2	2								
☆化学Ⅱ	2		2							
☆物理学Ⅱ	2		2							
☆化学Ⅲ	2			2						
☆現代物理学概論	2				2					

専門実験・実習・演習

⦿の科目24単位　必修

⦿情報テクノロジー体験演習	2	2								
⦿計算機実習	2			4						
⦿物理基礎実験Ⅰ	1	4								
⦿物理基礎実験Ⅱ	1		4							
⦿化学基礎実験	2	4 前期又は後期								
⦿電気計測実験	1	4 前期又は後期								

（次ページへ続く）

（前ページからの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙ものづくり実習	1	4 前期又は後期								
⊙情報処理実習	2	4 前期又は後期								
⊙情報総合プログラミング実習Ⅰ	2				4					
⊙情報総合プログラミング実習Ⅱ	2					4				
⊙システム構築実習	2			4						
⊙情報テクノロジー実験Ⅰ	2					4				
⊙情報テクノロジー実験Ⅱ	2						4			
⊙情報テクノロジー実験Ⅲ	2						4			
デジタルメディア設計演習	2				2					
インターンシップ	1					3				

輪講・卒業研究

⊙の科目10単位　必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙情報テクノロジー輪講Ⅰ	1					2				
⊙情報テクノロジー輪講Ⅱ	1						2			
⊙卒業研究Ⅰ	4							12		卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰに合格した場合のみ履修できる。Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。
⊙卒業研究Ⅱ	4								12	
⊙卒業研究A	8								24	協定校・認定校留学生のみ履修可
⊙理工学高度実践研究Ⅰ	4							12		理工学高度実践研究Ⅱは理工学高度実践研究Ⅰに合格した場合のみ履修できる。Ⅰ・Ⅱは同一担当者で履修すること。理工学高度実践プログラムの申請が承認されたものだけが、履修可能。本Ⅰ・Ⅱを履修するものは、卒業研究Ⅰ・Ⅱを履修することができない。
⊙理工学高度実践研究Ⅱ	4								12	

第1科目群

⊙の科目18単位　必修
△の科目の中から
8単位　選択必修

授業科目	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
⊙計算機概論	2			2						
⊙情報数学Ⅱ	2				2					
⊙数理モデル解析法	2			2						
⊙データ構造とアルゴリズム	2				2					
⊙ロボット工学	2			2						
⊙ソフトウェア設計	2			2						
⊙ヒューマンコンピュータインタラクション	2				2					
⊙マルチメディア工学	2				2					英語講義
⊙情報確率統計	2			2						
△情報ネットワーク	2					2				英語講義
△自動制御と制御プログラミング	2				2					
△情報セキュリティ	2				2					
△デジタルメディア設計	2			2						
△情報テクノロジー数理演習	2				2					
△情報と社会	2						2			

（次ページへ続く）

第1科目群

（前ページからの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
△工業力学	2			2						
△組合せ最適化Ⅰ	2				2					
△信号基礎理論	2					2				
△機械力学及び演習	4						4			
△材料力学Ⅰ及び演習	4					4				
△熱力学及び演習	4			4						
△流体力学及び演習	4				4					
△多変量解析Ⅰ	2						2			
△多変量解析Ⅱ	2						2			
△オペレーションズ・リサーチⅠ	2			2						
△オペレーションズ・リサーチⅡ	2				2					
△応用統計解析	2					2				英語講義
△システム工学応用	2					2				

第２科目群

▽▼の科目を合計
16単位　選択必修
（そのうち12単位は必ず
▽から履修すること）

▽言語理論とコンパイラ	2					2				
▽人工知能論	2						2			
▽知的データベース	2					2				
▽認知心理学	2						2			
▽メカトロニクス	2					2				
▽高次ヒューマンインタフェース	2						2			
▽生体情報工学	2						2			
▽サイバネティクス	2				2					
▼機械制御	2					2				
▼振動工学	2						2			
▼計測・電子回路	2				2					
▼デジタル電子回路	2						2			
▼電子計算機工学Ⅱ	2						2			
▼モデル化技術入門	2						2			
▼生産管理技術Ⅰ	2			2						
▼コーポレートファイナンス	2						2			
▼システム工学基礎	2						2			
▼プログラミング技術	2						2			英語講義
▼経済性工学	2						2			英語講義
▼企業経済学	2					2				
▼会計学	2			2						
▼意思決定論	2			2						
▼品質管理技術	2					2				
▼経営システム工学の最先端	2					2				
▼地理情報処理	2					2				英語講義
▼実験計画法	2						2			英語講義

選択科目

機械技術と社会	2						2			

（次ページへ続く）

（前ページからの続き）

授業科目	単位	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
工業動力学	2				2					
材料科学概論	2				2					
精密加工学	2					2				
計算力学	2						2			
応用数学Ⅰ	2			2						
応用数学Ⅱ	2				2					
経営システム工学特別講座	2				2					
分析技術入門	2			2						
一般機械工学	2			2						
一般電気工学	2				2					
一般経営工学	2				2					
実践機械学習	2						2			
生産システム設計	2							2		英語講義
経営管理論	2							2		英語講義
ゲーム理論	2								2	
情報社会及び情報倫理	2			2						
情報と職業	2			2						
理工学実践演習Ⅲ	2					4				理工学高度実践プログラム履修申請者のみ。
理工学実践演習Ⅳ	2						4			

【4】自由選択科目履修方法

自由選択科目履修方法

下記の（イ）（ロ）（ハ）（ニ）（ホ）のうちから任意に14単位修得しなければなりません。

（イ）青山スタンダード科目
（ロ）外国語科目
（ハ）学科科目
（ニ）他学科科目
（ホ）他学部科目

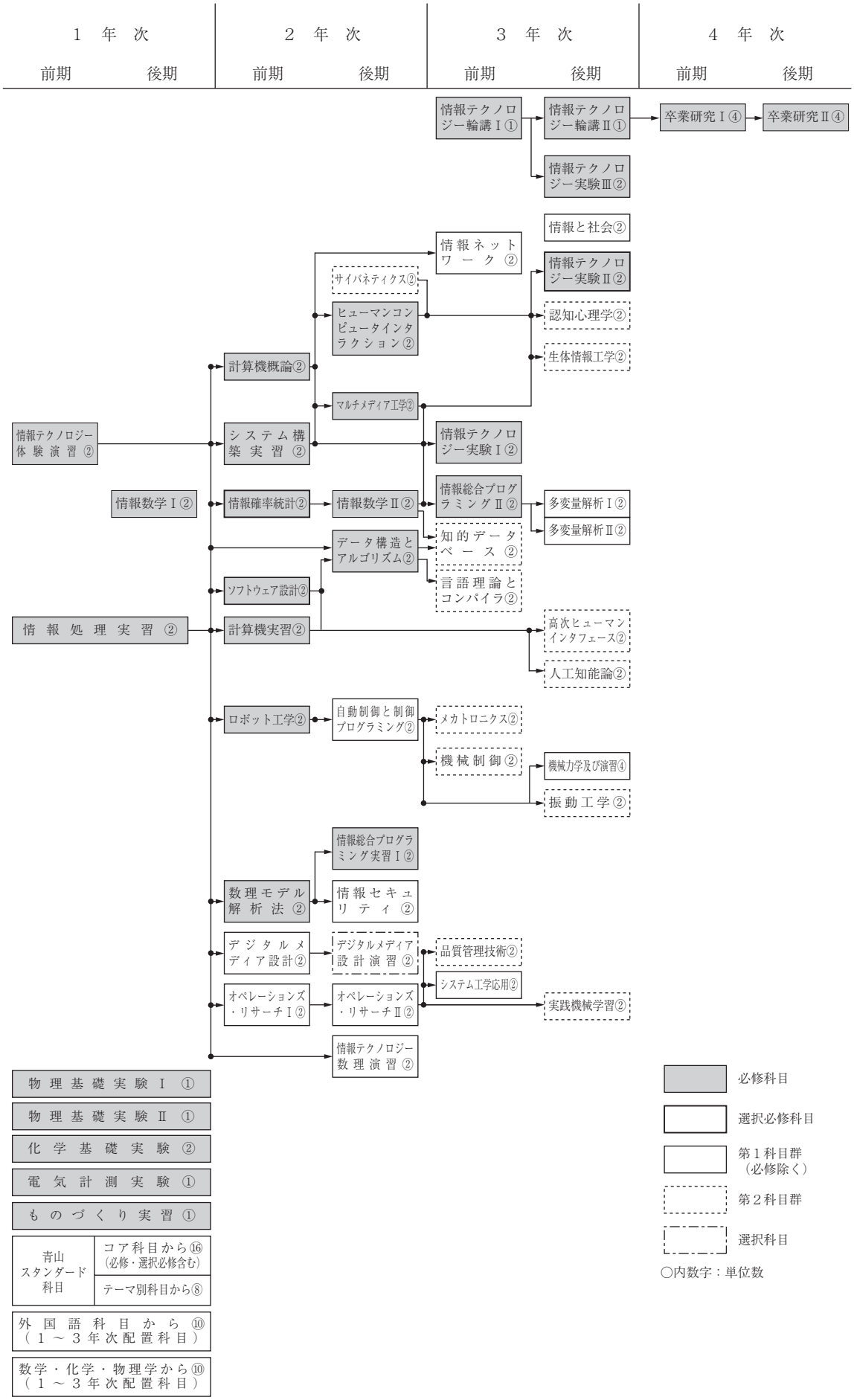
（卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます）

ただし、卒業要件外科目は除きます。他学科・他学部科目のうちには実験科目などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください（「Ⅲ．履修について１．履修計画」を参照）。

情報テクノロジー学科履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。



他学部科目一覧表

他学部科目の履修について

他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。
履修については下記の点に注意してください。

1．一覧表は他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、「担当者氏名」及び「本年度休講」の掲載はしていませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。履修希望科目が講義内容および授業時間割表に掲載されていない場合は本年度休講となっています。
　また、年度により一覧表の科目のうち履修を認めないなどの措置をとることがあります。
2．履修可能な科目は同じ入学年度の科目のみ履修できます。掲載してある一覧表以前の入学生で他学部科目の履修を希望する学生は学務課窓口で相談してください。
3．一覧表に掲載されている科目のうち、履修に制限がある場合は、開講学部の履修制限に従って履修してください。
4．今後、各部の状況により変更が生じる場合がありますので、履修する際は自学部窓口にて確認をしてください。

文学部共通科目

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
芸術文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	文化財科学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本の思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋の思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	現代思想Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋美術史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋文化史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	映像文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
東洋音楽史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	西洋音楽史Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	生命倫理学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
詩論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	ギリシャ・ローマ文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	テクスト論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
物語文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	キリスト教文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	世界各地域の文学Ⅰ～Ⅵ	各2	2・3・4
児童文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	比較文学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	言語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
比較言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	記号論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	古典ギリシャ語Ⅰ～Ⅳ	各2	2・3・4
ラテン語Ⅰ～Ⅳ	各2	2・3・4	出版ジャーナリズムⅠ・Ⅱ	各2	2・3・4	放送ジャーナリズムⅠ・Ⅱ	各2	2・3・4
認知言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	精神分析学入門Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	心理言語学Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
イタリアの言語と文化Ⅰ～Ⅳ	各2	2・3・4	通訳ワークショップⅠ・Ⅱ	各2	3・4			

文学部英米文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
イギリス文学史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	イギリス文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	イギリス文化概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
アメリカ文学史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	アメリカ文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	アメリカ文化概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
グローバル文学・文化概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	グローバル文学理論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	英語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
英語史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	英文法Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	コミュニケーション概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
異文化間コミュニケーション概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	英語教育学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	イギリス文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
イギリス文化特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	アメリカ文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	アメリカ文化特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
グローバル文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	グローバル文化特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	英語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
言語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	コミュニケーション特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	英語教育学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
英詩概論Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	イギリス事情Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	アメリカ事情Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
英語聖書Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4						

文学部フランス文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
※フランス語会話Ⅰ・Ⅱ	各2	1	フランス文学研究Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	フランス語学研究Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
フランス文化研究Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	講読演習Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	エクスプリカシオン(A)Ⅰ・(A)Ⅱ	各2	3・4
エクスプリカシオン(B)Ⅰ・(B)Ⅱ	各2	3・4	コミュニカシオンⅠ・Ⅱ	各2	3・4	コミュニカシオンⅢ・Ⅳ	各2	3・4
エクスプレシオン・エクリットⅢ・Ⅳ	各2	3・4	エクスプレシオン・エクリットⅤ・Ⅵ	各2	3・4	フランス文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
フランス語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	フランス文化特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	フランス文学演習Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3
フランス語学演習Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3	フランス文化演習Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3	フランス文学演習Ⅲ・Ⅳ	各2	3・4
フランス語学演習Ⅲ・Ⅳ	各2	3・4	フランス文化演習Ⅲ・Ⅳ	各2	3・4	フランス語教授法Ⅰ	4	3・4
フランス語教授法Ⅱ	4	3・4	フランス語作文Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	フランス語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
フランス語中級文法Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4						

※既修得者用クラスのみ履修可

他学部科目一覧表

文学部日本文学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
日本文学史(一)	2	1	日本文学史(二)	2	1	日本文学史(三)	2	2
日本文学史(四)	2	2	古典文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	近代文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
漢文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
表象文化研究概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本学入門	2	1・2	文学交流入門	2	1・2
日本文学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	中国古典文学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
表象文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本文学特講A・B	各2	1·2·3·4
中国古典文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	中国文学・思想特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
文学交流特講A・B	各2	2・3・4	日本文学研究のための英語A・B	2	1・2	日本文学とアメリカ・ヨーロッパ	2	2・3・4
日本文学とアジア	2	2・3・4	書理論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4			

文学部史学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
人文地理学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	日本史特講	2	2・3・4	東洋史特講	2	2・3・4
西洋史特講	2	2・3・4	考古学特講	2	2・3・4	史学特講A	2	1·2·3·4
史学特講B	2	1·2·3·4	自然地理学概論	2	2・3・4	地誌学	2	2・3・4
法律学	2	2・3・4	政治学	2	2・3・4	※博物館概論	2	2・3のみ
※博物館経営論	2	2・3のみ	※博物館資料論	2	2・3のみ	※博物館資料保存論	2	2・3・4
※博物館展示論	2	2・3・4	※博物館情報・メディア論	2	2・3・4	※博物館教育論	2	2・3・4
※博物館実習Ⅰ	2	3のみ	※博物館実習Ⅱ	2	4			

※学芸員希望者のみ

文学部比較芸術学科

他学部・他学科生は３年次以上の学生が履修可

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
比較芸術学特講Ⅰ	2	3・4	比較芸術学特講Ⅱ	2	3・4	比較芸術学特講Ⅲ	2	3・4
美学・芸術思想Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	西洋の宗教と芸術	2	3・4	日本・東洋の宗教と芸術	2	3・4
※博物館実習Ⅰ	2	3のみ	※博物館実習Ⅱ	2	4			

※学芸員希望者のみ

教育人間科学部教育学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
西洋教育史Ⅰ	2	3・4	西洋教育史Ⅱ	2	3・4	西洋教育史Ⅲ	2	3・4
教育史特殊講義	2	3・4	発達と文化A	2	3・4	発達と文化B	2	3・4
教育哲学A	2	3・4	教育哲学B	2	3・4	教育学特論A	2	3・4
教育学特論B	2	3・4	キャリア教育B	2	3・4	比較教育学	2	3・4
異文化理解教育	2	3・4	老年学	2	3・4	教育学特論C	2	3・4
教育学特論D	2	3・4	小児精神神経学	2	3・4	特別支援教育	2	3・4
教育学特論E	2	3・4	教育学特論F	2	3・4	生涯学習概論Ⅰ	2	2
生涯学習概論Ⅱ	2	2	高等教育論A	2	3・4	高等教育論B	2	3・4
社会教育計画Ⅰ	2	3・4	社会教育計画Ⅱ	2	3・4	社会教育課題研究Ⅰ※1	2	3・4
社会教育課題研究Ⅱ※1	2	3・4	高齢化社会と教育	2	3・4	青年期と教育	2	3・4
ジェンダーと教育	2	3・4	青年文化論	2	3・4	ボランティア教育論	2	3・4
地域ネットワーキング論	2	3・4	スポーツ・レクリエーション論	2	3・4	教育学特論G	2	3・4
教育学特論H	2	3・4	認知科学概論	2	3・4	学校経営と学校図書館※1※3	2	2
視聴覚教育メディア論	2	3・4	インターフェース論	2	3・4	知的表現論	2	3・4
教材開発論	2	3・4	学校指導と学校図書館※3	2	3・4	学校図書館メディア※3	2	3・4
情報メディア利用論※3	2	3・4	読書教育論※3	2	3・4	学習心理学Ⅰ	2	3・4
学習心理学Ⅱ	2	3・4	教育学特論Ⅰ	2	3・4	教育学特論J※2	2	3・4
図書館情報学概論※1※2	2	2	図書館システムサービス論※2	2	2	図書館情報文化論※2	2	2
図書館システム経営論※2	2	3・4	情報メディア論A※2	2	2	情報メディア論B※2	2	3・4
情報メディア論C※2	2	3・4	児童サービス論※2	2	3・4	メディア組織法Ⅰ※2	2	3・4
メディア組織法Ⅱ※1	2	3・4	メディア組織法Ⅲ※2	2	3・4	情報サービス論Ⅰ※2	2	3・4
情報サービス論Ⅱ※2	2	3・4	情報サービス論Ⅲ※2	2	3・4	情報技術論※2	2	2・3・4
図書館情報学実習A※2	2	4	図書館情報学実習B※2	2	4	教育学特論K※2	2	3・4
教育学特論L	2	3・4	児童福祉論	2	3・4	小児保健論	2	1・2
教育学特論M	2	3・4	教育学特論N	2	3・4	小児栄養学	2	3・4
教育学特論O	2	3・4	教育学特論P	2	3・4	教育学特論Q	2	3・4
教育学特論R	2	3・4	初等英語概説A	2	3・4	初等英語概説B	2	3・4
教育学特論S	2	3・4	教育学特論T	2	3・4	キリスト教学校論	2	3・4
聖書の世界（旧約）	2	3・4	聖書の世界（新約）	2	3・4	キリスト教の教理	2	3・4
キリスト教と法思想	2	3・4	宗教と社会	2	3・4	礼拝学	2	3・4
キリスト教メンタルヘルス	2	3・4						

※1 社会教育主事資格取得希望申請者のみ
※2 司書資格取得希望申請者のみ
※3 司書教諭資格取得希望申請者のみ

教育人間科学部心理学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
心理学統計法Ⅲ	2	3	心の哲学Ⅰ	2	3・4	心の哲学Ⅱ	2	3・4
哲学的認識論Ⅰ	2	2・3・4	哲学的認識論Ⅱ	2	2・3・4	認知心理学A(知覚・認知心理学)	2	3・4
認知心理学B(学習・言語心理学)	2	3・4	人格・感情心理学	2	3・4	神経・生理心理学	2	3・4
社会心理学A(社会・集団・家族心理学A)	2	3・4	家族心理学(社会・集団・家族心理学B)	2	3・4	発達心理学Ⅰ	2	3・4
発達心理学Ⅱ	2	3・4	障害者・障害児心理学	2	3・4	認知心理学概論	2	3・4
認知心理学特講A	2	3・4	認知心理学特講B	2	3・4	発達心理学概論	2	3・4
発達心理学特講A	2	3・4	発達心理学特講B	2	3・4	社会心理学概論	2	3・4
社会心理学B(応用社会心理学)	2	2・3	社会心理学特講A	2	3・4	社会心理学特講B	2	3・4
障害者・障害児の教育と医学	2	3・4	コミュニティ心理学	2	3・4	心理学特別講義A	2	3・4
心理学特別講義B	2	3・4	心理学特別講義C	2	3・4	心理学特別講義D	2	3・4
心理学特別講義E	2	3・4	心理学特別講義F	2	3・4	心理学特別講義G	2	3・4
健康・医療心理学	2	3・4	福祉心理学	2	3・4	教育・学校心理学	2	3・4
司法・犯罪心理学	2	3・4	産業・組織心理学	2	3・4	人体の構造と機能および疾病	2	3・4
精神疾患とその治療	2	3・4	関係行政論	2	3・4	グループ・アプローチ	2	2・3
臨床地域援助	2	2・3	臨床心理学特講A	2	3・4	臨床心理学特講B	2	3・4
芸術療法	2	3・4	心理面接法A	2	3・4	心理面接法B	2	3・4
相談心理学A	2	3・4	相談心理学B	2	3・4	臨床発達特講A	2	3・4
臨床発達特講B	2	3・4	臨床発達特講C	2	3・4	精神保健福祉	2	3・4
心理学原書講読A	2	3・4	心理学原書講読B	2	3・4	心理学原書講読C	2	3・4

経済学部

経済学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
統計学概論Ⅰ	2	1	統計学概論Ⅱ	2	1	経済数学入門Ⅰ	2	1
経済数学入門Ⅱ	2	1	金融論Ⅰ	2	2	金融論Ⅱ	2	2
国際経済学Ⅰ	2	2	国際経済学Ⅱ	2	2	経済学史Ⅰ	2	2
経済学史Ⅱ	2	2	応用ミクロ経済学Ⅰ	2	3	応用ミクロ経済学Ⅱ	2	3
経済動学Ⅰ	2	2	経済動学Ⅱ	2	2	オープンマクロ経済学Ⅰ	2	3
オープンマクロ経済学Ⅱ	2	3	計量経済学Ⅰ	2	2	計量経済学Ⅱ	2	2
経済統計Ⅰ	2	3	経済統計Ⅱ	2	3	数理統計Ⅰ	2	2
数理統計Ⅱ	2	2	経済数学Ⅰ	2	2	経済数学Ⅱ	2	2
社会政策論Ⅰ	2	3	社会政策論Ⅱ	2	3	社会保障論Ⅰ	2	3
社会保障論Ⅱ	2	3	産業論（航空事業Ⅰ）	2	3	産業論（航空事業Ⅱ）	2	3
産業論（損害保険業）	2	3	産業論（証券ビジネス）	2	3	産業論（知的エンタテイメント産業Ⅰ）	2	3
産業論（知的エンタテイメント産業Ⅱ）	2	3	労働経済論Ⅰ	2	3	労働経済論Ⅱ	2	3
産業組織論Ⅰ	2	3	産業組織論Ⅱ	2	3	ファイナンス論基礎	2	2
ファイナンス論	2	2	国際金融論Ⅰ	2	3	国際金融論Ⅱ	2	3
日本経済史Ⅰ	2	2	日本経済史Ⅱ	2	2	欧米経済史Ⅰ	2	2
欧米経済史Ⅱ	2	2	東洋経済史Ⅰ	2	2	東洋経済史Ⅱ	2	2
経済思想史Ⅰ	2	3	経済思想史Ⅱ	2	3	キリスト教社会思想史Ⅰ	2	2
キリスト教社会思想史Ⅱ	2	2	日本経済論Ⅰ	2	2	日本経済論Ⅱ	2	2
世界経済論Ⅰ	2	3	世界経済論Ⅱ	2	3	各国経済論AⅠ	2	2
各国経済論AⅡ	2	2	各国経済論BⅠ	2	2	各国経済論BⅡ	2	2
交通経済学Ⅰ	2	3	交通経済学Ⅱ	2	3	農業経済論Ⅰ	2	3
農業経済論Ⅱ	2	3	環境経済学Ⅰ	2	3	環境経済学Ⅱ	2	3
憲法A	2	2	憲法B	2	2	民法A	2	3
民法B	2	3	民法C	2	3	民法D	2	3
商法A（Ⅰ）	2	3	商法A（Ⅱ）	2	3	商法B	2	3
商法C	2	3	経済法A	2	3	経済法B	2	3
労働法A	2	3	労働法B	2	3	初級簿記Ⅰ	2	1
初級簿記Ⅱ	2	1	経営史Ⅰ	2	3	経営史Ⅱ	2	3

現代経済デザイン学科

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
公的規制の経済学	2	3	NPO論A	2	3	契約の経済学	2	3
公共政策の経済学	2	3	公共選択論	2	3	NPO論B	2	3
政策と評価A	2	3	法と経済学	2	3	都市再生論	2	3
まちづくりと都市計画	2	3	住宅と不動産の経済学	2	3	郊外地域論	2	3
地域人口論	2	3	経済地理	2	2	経済地誌	2	2
地方財政の経済学Ⅰ	2	3	地方財政の経済学Ⅱ	2	3	開発経済学	2	3
政策と評価B	2	3	地域経済学Ⅱ	2	3	都市経済学	2	3

他学部科目一覧表

法学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
裁判論	2	1・2	国際社会と法	2	1・2	インターネット法	2	1・2
法思想史A	2	1・2	法思想史B	2	1・2	近代日本法史	2	1・2
近代西洋法史	2	1・2	法史学A	2	2	法史学B	2	2
法哲学A	2	2	法哲学B	2	2	法社会学A	2	2
法社会学B	2	2	基礎法特論A	2	3・4	基礎法特論B	2	3・4
外国法入門A	2	1・2	外国法入門B	2	1・2	アメリカ法A	2	2
アメリカ法B	2	2	アメリカ法C	2	2	アメリカ法D	2	2
アメリカ法E	2	2	イギリス法A	2	2	イギリス法B	2	2
フランス法A	2	2	フランス法B	2	2	ドイツ法A	2	2
ドイツ法B	2	2	中国法A	2	2	中国法B	2	2
EU法	2	3・4	フランス法・政治文献講読	2	3・4	ドイツ法・政治文献講読	2	3・4
中国法・政治文献講読	2	3・4	憲法A	2	1	憲法B	2	1
憲法C	2	2	憲法D	2	2	行政法A	4	3・4
行政法B	4	3・4	行政法C	2	3・4	刑法A	2	2
刑法B	2	2	刑法C	2	3・4	刑法D	2	3・4
国際法A	2	2	国際法B	2	2	国際法C	2	3・4
国際法D	2	3・4	刑事訴訟法A	2	3・4	刑事訴訟法B	2	3・4
刑事政策A	2	3・4	刑事政策B	2	3・4	刑事法特論B	2	3・4
教育法	2	3・4	民法A	4	1	民法B	4	2
民法C	4	2	民法D	4	3・4	民法E	4	3・4
商法C	4	3・4	商法D	4	3・4	商法E	4	3・4
民事訴訟法A	4	3・4	民事訴訟法B	4	3・4	国際民事訴訟法	2	3・4
国際私法A	2	3・4	国際私法B	2	3・4	破産法	4	3・4
知的財産法A	2	3・4	知的財産法B	2	3・4	知的財産法C	2	3・4
知的財産法D	2	3・4	民事法特論A	2	3・4	民事法特論B	2	3・4
民事法特論C	2	3・4	税法A	2	2	税法B	2	3・4
税法C	2	3・4	経済法A	2	3・4	経済法B	2	3・4
労働法A	2	2	労働法B	2	2	労働法C	2	3・4
労働法D	2	3・4	労働法E	2	3・4	国際労働法	2	3・4
社会保障法A	2	3・4	社会保障法B	2	3・4	政治学原論A	2	1・2
政治学原論B	2	1・2	日本政治史A	2	1・2	日本政治史B	2	1・2
政治思想史A	2	2	政治思想史B	2	2	比較政治学	4	2
国際関係論	4	2	政治学特論A	2	2	政治学特論B	2	2
NPO論	2	3・4	ビジネス法入門	2	1・2	消費者法	2	2
銀行取引法	2	2	金融商品取引法	2	3・4	企業法務	2	3・4
国際取引法A	2	3・4	国際取引法B	2	3・4	商事法特論A	2	2
商事法特論C	2	3・4	国際金融法	2	3・4	ファイナンスとデリバティブ	2	3・4
公共政策と法	2	1・2	立法学	2	2	行政学A	2	2
行政学B	2	2	公共政策特論A	2	2	公共政策特論B	2	2
地方自治法	2	3・4	都市法	2	3・4	政治過程論A	2	3・4
政治過程論B	2	3・4	現代法実務論	2	2	ヒューマン・ライツの現場B	2	1・2
環境法A	2	2	環境法B	2	2	人権法特論A	2	2
人権法特論B	2	2	人権法特論C	2	3・4	言論法A	2	3・4
言論法B	2	3・4	国際人権法	2	3・4			

経営学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
経営データ分析のための基礎解析入門Ⅰ	2	1	経営データ分析のための基礎解析入門Ⅱ	2	1	経営データ分析のための線形代数入門Ⅰ	2	1
経営データ分析のための線形代数入門Ⅱ	2	1	商学基礎論Ⅰ	2	1	商学基礎論Ⅱ	2	1
経営史A	2	2	経営史B	2	2	経営管理論Ⅰ	2	2
経営管理論Ⅱ	2	2	経営組織論Ⅰ	2	2	経営組織論Ⅱ	2	2
企業情報戦略Ⅰ	2	2	企業情報戦略Ⅱ	2	2	比較経営論A	2	2
比較経営論B	2	2	キャリアデザイン論Ⅰ	2	2	キャリアデザイン論Ⅱ	2	2
事業戦略論Ⅰ	2	2	事業戦略論Ⅱ	2	2	企業分析論	2	2
財務会計論Ⅰ	2	2	財務会計論Ⅱ	2	2	中級簿記Ⅰ	2	2
中級簿記Ⅱ	2	2	原価計算論	2	2	ビジネス・エコノミクスA	2	2
ビジネス・エコノミクスB	2	2	マーケティング論Ⅰ	2	2	マーケティング論Ⅱ	2	2
ファイナンスⅠ	2	2	ファイナンスⅡ	2	2	流通論Ⅰ	2	2
流通論Ⅱ	2	2	スポーツアドミニストレーション論	2	2	ショッピングセンター概論	2	2
国際貿易論Ⅰ	2	2	国際貿易論Ⅱ	2	2	Organizational Management A	2	2
Organizational Management B	2	2	Globalization and Emerging Countries A	2	2	Globalization and Emerging Countries B	2	2
Entrepreneurial Management Ⅰ	2	3	Entrepreneurial Management Ⅱ	2	3	ベンチャー企業経営論	2	3
サプライチェーンと意思決定法A	2	2	サプライチェーンと意思決定法B	2	2	グローバル製品戦略Ⅰ	2	2
グローバル製品戦略Ⅱ	2	2	証券投資論Ⅰ	2	2	証券投資論Ⅱ	2	2
意思決定会計論	2	2	国際会計論Ⅰ	2	2	国際会計論Ⅱ	2	2
制度会計論A	2	2	制度会計論B	2	2	戦略管理会計Ⅰ	2	2
戦略管理会計Ⅱ	2	2	予算管理論	2	2	コストマネジメント	2	2
企業法務Ⅰ	2	3	企業法務Ⅱ	2	3	コーポレート・ファイナンスⅠ	2	3
コーポレート・ファイナンスⅡ	2	3	リスク・マネジメント論Ⅰ	2	3	リスク・マネジメント論Ⅱ	2	3
交通論Ⅰ	2	3	交通論Ⅱ	2	3	Effective Negotiation	2	3
Written Agreements	2	3	Effective Speech	2	3	Academic Presentation	2	3
Career Development (Introduction to Coaching)	2	3	アメリカ文化論Ⅰ	2	3	アメリカ文化論Ⅱ	2	3
イギリス文化論Ⅰ	2	3	イギリス文化論Ⅱ	2	3	英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3
英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3	現代韓国社会事情Ⅰ	2	3	現代韓国社会事情Ⅱ	2	3
世界の言語文化Ⅰ	2	3	世界の言語文化Ⅱ	2	3	平和と国際社会Ⅰ	2	3
平和と国際社会Ⅱ	2	3	Market and Business Environment	2	3	国際マーケティング	2	3
国際経営論Ⅰ	2	3	国際経営論Ⅱ	2	3	サプライチェーン・マネジメントA	2	3
サプライチェーン・マネジメントB	2	3	経営戦略論Ⅰ	2	3	経営戦略論Ⅱ	2	3
経営データ分析応用Ⅰ	2	3	経営データ分析応用Ⅱ	2	3	事業創造戦略論	2	3
顧客創造戦略論	2	3	人的資源管理論Ⅰ	2	3	人的資源管理論Ⅱ	2	3
組織心理学Ⅰ	2	3	組織心理学Ⅱ	2	3	マネジメントサイエンスⅠ	2	3
マネジメントサイエンスⅡ	2	3	人間行動の多面的分析A	2	3	人間行動の多面的分析B	2	3
戦略・マネジメント特論A	2	3	戦略・マネジメント特論B	2	3	財務コンサルティング論Ⅰ	2	3
財務コンサルティング論Ⅱ	2	3	会計情報論Ⅰ	2	3	会計情報論Ⅱ	2	3
会計・ファイナンス特論A	2	3	会計・ファイナンス特論B	2	3	企業評価論Ⅰ	2	3
企業評価論Ⅱ	2	3	実証会計論Ⅰ	2	3	実証会計論Ⅱ	2	3
財務分析論Ⅰ	2	3	財務分析論Ⅱ	2	3	監査論Ⅰ	2	3
監査論Ⅱ	2	3	税務会計論Ⅰ	2	3	税務会計論Ⅱ	2	3
競争戦略論Ⅰ	2	3	競争戦略論Ⅱ	2	3	産業労働衛生論	2	3
ヘルスケア経営論	2	3	流通情報システム論A	2	3	流通情報システム論B	2	3
マーケティング特論A	2	3	マーケティング特論B	2	3	マーケティング特論C	2	3
マーケティング特論D	2	3	マーケティング特論E	2	3	マーケティング特論F	2	3
広告コミュニケーション	2	3	マーケティング・コミュニケーション	2	3	サービスマーケティング	2	3
ブランド・マネジメント	2	3	消費者行動論	2	3	マーケティング・リサーチ	2	3
マクロ・マーケティングA	2	3	Macromarketing B	2	3	流通政策A	2	3
流通政策B	2	3	経済原論Ⅰ	2	2	経済原論Ⅱ	2	2
民法A	2	3	民法B	2	3	民法C	2	3
民法D	2	3	商法A(Ⅰ)	2	3	商法A(Ⅱ)	2	3
商法B	2	3	商法C	2	3	経済法A	2	3
経済法B	2	3	労働法A	2	3	労働法B	2	3
国際法A	2	3	国際法B	2	3			

国際政治経済学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
政治学方法論Ⅰ	2	2	政治学方法論Ⅱ	2	2	政治思想史	2	3
比較政治論Ⅰ	2	3	比較政治論Ⅱ	2	3	国際正義論	2	3
国際政治理論Ⅰ	2	3	国際政治理論Ⅱ	2	3	国際制度論Ⅰ	2	3
国際制度論Ⅱ	2	3	国際安全保障論Ⅰ	2	3	国際安全保障論Ⅱ	2	3
国際関係史Ⅰ	2	2	国際関係史Ⅱ	2	2	国際機構論Ⅰ	2	2
国際機構論Ⅱ	2	2	国際ＮＧＯ論Ⅰ	2	2	国際ＮＧＯ論Ⅱ	2	2
戦略論Ⅰ	2	3	戦略論Ⅱ	2	3	外交史Ⅰ	2	3
外交史Ⅱ	2	3	国際平和協力論Ⅰ	2	3	国際平和協力論Ⅱ	2	3
国連研究	2	3	国際行政論Ⅰ	2	3	国際行政論Ⅱ	2	3
国際環境論Ⅰ	2	3	国際環境論Ⅱ	2	3	マスメディアと国際政治	2	3
国際法ⅡA	2	3	国際法ⅡB	2	3	アジア政治論	2	3
朝鮮半島政治論	2	3	中国政治論Ⅰ	2	3	中国政治論Ⅱ	2	3
アジア太平洋政治論Ⅰ	2	3	アジア太平洋政治論Ⅱ	2	3	アメリカ政治論	2	3
ヨーロッパ政治論Ⅰ	2	3	ヨーロッパ政治論Ⅱ	2	3	欧州国際政治論	2	3
ロシア・中央アジア政治論	2	3	日本の外交	2	2	日本の防衛	2	2
日本政治論Ⅰ	2	3	日本政治論Ⅱ	2	3	日本外交論Ⅰ	2	3
日本外交論Ⅱ	2	3	日本の環境政策	2	3	国際政治学特講Ⅰ	2	1
国際政治学特講Ⅱ	2	3	国際政治学特講Ⅲ	2	3	国際政治学特講Ⅳ	2	3
ゲーム理論Ⅰ	2	2	ゲーム理論Ⅱ	2	2	ミクロ経済学中級Ⅰ	2	3
ミクロ経済学中級Ⅱ	2	3	マクロ経済学中級Ⅰ	2	3	マクロ経済学中級Ⅱ	2	3
経済情報分析入門	2	2	計量経済学Ⅰ	2	3	計量経済学Ⅱ	2	3
平和経済学Ⅰ	2	2	平和経済学Ⅱ	2	2	国際貿易Ⅰ	2	2
国際貿易Ⅱ	2	2	国際環境経済学Ⅰ	2	2	国際環境経済学Ⅱ	2	2
日本経済	2	2	中国経済	2	2	国際経済A	2	3
国際経済B	2	3	国際労働経済学Ⅰ	2	3	国際労働経済学Ⅱ	2	3
国際金融Ⅰ	2	3	国際金融Ⅱ	2	3	国際経済法Ⅰ	2	3
国際経済法Ⅱ	2	3	開発経済学Ⅰ	2	2	開発経済学Ⅱ	2	2
国際開発政策	2	3	開発金融	2	3	国際産業論Ⅰ	2	2
国際産業論Ⅱ	2	3	ビジネス・マネジメントⅠ	2	2	ビジネス・マネジメントⅡ	2	2
グローバル経営論Ⅰ	2	2	グローバル経営論Ⅱ	2	2	国際マーケティング論Ⅰ	2	2
国際マーケティング論Ⅱ	2	2	多国籍企業論Ⅰ	2	3	多国籍企業論Ⅱ	2	3
コーポレートファイナンスⅠ	2	3	コーポレートファイナンスⅡ	2	3	マーケットとファイナンスⅠ	2	3
マーケットとファイナンスⅡ	2	3	国際会計Ⅰ	2	2	国際会計Ⅱ	2	2
管理会計論Ⅰ	2	3	管理会計論Ⅱ	2	3	ビジネス・エコノミクス	2	3
特講（証券の基礎と資産選択入門）	2	3	国際経済学特講Ⅰ	2	1	国際経済学特講Ⅱ	2	3
コミュニケーション論Ⅲ	2	2	コミュニケーション論Ⅳ	2	2	宗教文化論Ⅰ	2	2
宗教文化論Ⅱ	2	2	日本文化論	2	2	韓国文化論	2	2
フランス文化論	2	2	ドイツ文化論	2	2	スペイン文化論	2	2
イスラム文化論	2	2	アングロ・アメリカ文化論	2	2	イベロ・アメリカ文化論	2	2
ヨーロッパ文化論Ⅰ	2	3	ヨーロッパ文化論Ⅱ	2	3	中国文化論	2	3
ロシア東欧文化論	2	3	文化と歴史観	2	3	インターカルチュラル・トレーニング	2	3
社会言語学特講	2	2	英語発音の理論と演習Ⅰ	2	3	英語発音の理論と演習Ⅱ	2	3
認知言語学入門	2	3	言語形式と意味	2	3	多言語社会とコミュニケーション	2	3
コミュニケーションの質的分析法Ⅰ	2	2	コミュニケーションの量的分析法Ⅰ	2	2	コミュニケーションの質的分析法Ⅱ	2	3
コミュニケーションの量的分析法Ⅱ	2	3	社会情報学	2	3	国際交流実務論	2	1
アジア圏概論	2	1	環太平洋圏概論	2	1	米洲圏概論	2	1
ヨーロッパ圏概論	2	1	中東圏概論	2	1	アフリカ圏概論	2	1
地域研究（アジア経済）Ⅰ	2	2	地域研究（アジア経済）Ⅱ	2	2	地域研究（アメリカ経済）	2	2
地域研究（ＥＵ経済）	2	2						

総合文化政策学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
経済分析（ミクロ）	2	3・4	経済分析（マクロ）	2	3・4	公共社会論	2	3・4
金融概論	2	3・4	行政学概論	2	3・4	国際関係	2	3・4
公共政策論	2	3・4	憲法概論	2	3・4	民法概論	2	3・4
行政法概論	2	3・4	著作権法	2	3・4	国際政治学概論	2	3・4
経済発展論	2	3・4	国際平和論	2	3・4	経済政策概論	2	3・4
公共経済学概論	2	3・4	文化経済学	2	3・4	文化行政法	2	3・4
文化産業概論	2	3・4	観光産業論	2	3・4	消費経済論	2	3・4
日本経済概論	2	3・4	マーケティング概論	2	3・4	会計学	2	3・4
サービスマーケティング概論	2	3・4	消費文化論	2	3・4	経営戦略概論	2	3・4
組織と人材の管理	2	3・4	経営情報論	2	3・4	管理会計概論	2	3・4
経営分析論	2	3・4	非営利会計論	2	3・4	プロジェクトマネジメント論	2	3・4
ビジネスプロセスマネジメント論	2	3・4	マーケティング戦略論	2	3・4	ブランド戦略論	2	3・4
公共経営論	2	3・4	文化財保護法	2	3・4	プロジェクトプロデュース論	2	3・4
世界経済概論	2	3・4	社会調査論Ⅰ	2	3・4	社会調査論Ⅱ	2	3・4
統計学	2	3・4	社会調査法Ⅰ	2	3・4	社会調査法Ⅱ	2	3・4
社会統計学	2	3・4	社会調査実習	4	3・4	文化人類学概論	2	3・4
日本文化の歴史	2	3・4	異文化間コミュニケーション論	2	3・4	表象文化概論	2	3・4
社会分析学	2	3・4	宗教史	2	3・4	経済史（1）	2	3・4
経済史（2）	2	3・4	社会思想史	2	3・4	経済と文明	2	3・4
比較文明論	2	3・4	地域文化論（1）	2	3・4	地域文化論（2）	2	3・4
地域文化論（3）	2	3・4	宗教文化概論	2	3・4	宗教社会学	2	3・4
比較宗教論	2	3・4	ネットワーク社会と文化	2	3・4	文化遺産論	2	3・4
経営文化論	2	3・4	文化と精神分析	2	3・4	現代経済史	2	3・4
現代日本文化論	2	3・4	近代哲学史	2	3・4	論理学	2	3・4
公共哲学概論	2	3・4	認識論	2	3・4	存在論	2	3・4
象徴記号論	2	3・4	情報環境論（1）	2	3・4	情報環境論（2）	2	3・4
メディアリテラシー	2	3・4	宗教哲学	2	3・4	社会倫理	2	3・4
日本思想史概論	2	3・4	現代哲学	2	3・4	現代思潮	2	3・4
現代の神学	2	3・4	認知哲学	2	3・4	環境美学	2	3・4
芸術哲学	2	3・4	情報工学	2	3・4	※ミュージアム概論	2	2・3のみ
※ミュージアム経営論	2	2・3のみ	※ミュージアム資料論	2	2・3のみ	※ミュージアム資料保存論	2	2・3・4
※ミュージアム展示論	2	2・3・4	※ミュージアム教育論	2	2・3・4	※ミュージアム情報・メディア論	2	2・3・4
※ミュージアム実習Ⅰ	2	3のみ	※ミュージアム実習Ⅱ	2	4のみ			

※学芸員資格取得希望申請者のみ

他学部科目一覧表

社会情報学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
情報化社会と法	2	2・3・4	経済解析	2	2・3・4	現代の世界と日本	2	2・3・4
グローバルビジネス	2	2・3・4	文化心理学	2	2・3・4	合理的思考と社会行動	2	2・3・4
広報論	2	2・3・4	情報政策	2	2・3・4	コミュニティサービス	2	2・3・4
コミュニケーションデザイン実践	2	2・3・4	ワークショップデザイン実践	2	2・3・4	※地域スポーツ演習	2	2・3・4
※生涯スポーツ演習	2	2・3・4	※健康スポーツキャリア演習A	2	2・3・4	※健康スポーツキャリア演習B	2	2・3・4
※スポーツビジネスキャリア演習A	2	2・3・4	※スポーツビジネスキャリア演習B	2	2・3・4	※スポーツキャリア基礎A	1	2・3・4
※スポーツキャリア基礎B	1	2・3・4	※スポーツ健康科学基礎	1	2・3・4	※スポーツ傷害学基礎	1	2・3・4
※健康スポーツ統計学基礎	1	2・3・4	※スポーツ倫理学基礎	1	2・3・4			

※体育会所属学生、または競技スポーツにおいて一定基準以上の経験を有し、特別に許可された学生のみ履修可

機械創造工学科、経営システム工学科、情報テクノロジー学科の学生は「情報化社会と法」と「グローバルビジネス」以外の科目は履修不可

地球社会共生学部

授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次	授業科目	単位	履修年次
Topics in Japanese Geography Ⅰ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Geography Ⅱ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Geography Ⅲ	2	1・2・3・4
Topics in Japanese Geography Ⅳ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese History Ⅰ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese History Ⅱ	2	1・2・3・4
Topics in Japanese History Ⅲ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese History Ⅳ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Culture Ⅰ	2	1・2・3・4
Topics in Japanese Culture Ⅱ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Culture Ⅲ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Culture Ⅳ	2	1・2・3・4
Topics in Japanese Economy, Business, and Policy Ⅰ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Economy, Business, and Policy Ⅱ	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Economy, Business, and Policy Ⅲ	2	1・2・3・4
Topics in Japanese Economy, Business, and Policy Ⅳ	2	1・2・3・4						

Ⅴ．授業について

1．授　業

授業時間

授業時間は次のとおりです。

第１時限	９：00〜10：30
礼　拝	10：30〜11：00
第２時限	11：00〜12：30
昼休み	12：30〜13：20
第３時限	13：20〜14：50
第４時限	15：05〜16：35
第５時限	16：50〜18：20
第６時限	18：30〜20：00
第７時限	20：10〜21：40

夕礼拝（火曜日のみ）
18：00〜18：30

授業は原則５時限で実施します。しかし、科目配置の都合により６時限目以降にも配置することがあります。

また、特別な行事のときに授業時間が変更となることがあります。その場合は「学生ポータル」で伝達します。

授業教室

授業教室については、「学生ポータル」上の『授業時間割表』に掲載されています。授業教室が変更になる場合は、随時「学生ポータル」で伝達しますので、毎日必ず確認してください。

休　講

授業が休講になる場合は、「学生ポータル」で伝達します。

休講情報がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が来ず、連絡もない場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に問い合わせ、指示を受けてください（学生共通細則第７条参照）。

補　講

休講となった授業に対し、補講を行う場合があります。補講は、学事暦に記載されている期間および授業期間中の主に水曜・土曜日に実施されます。詳細は「学生ポータル」で伝達しますので、必ず確認してください。また、上記指定日以外にも補講を行う場合もあります。担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表しますので、随時確認してください。

授業の欠席について

本学では、特定の理由による欠席を認める「公欠制度」は設けておりません。ケガ・病気・忌引きなどで授業を欠席した場合は、次回の授業時に直接担当教員に申し出て、指示を受けてください。なお、長期にわたる欠席の場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に相談してください。

2．大学からの伝達

本学では、大学から学生のみなさんへの通知や連絡は、主に「学生ポータル」によって行います。ただし、「掲示板」のものもあります。

また、利用方法の詳細については、「学生ポータル」上の「ヘルプ」より『学生ポータル利用案内』を参照してください。

「掲示板」の設置場所については次のとおりです。

青山キャンパス	なし
相模原キャンパス	E 棟と F 棟の間（外階段下通路内）

「学生ポータル」「掲示板」では、授業・試験など学生生活に直接関係のある事項が随時伝達されています。情報を確認しなかったことにより、後になって不利益を被ることのないよう、十分注意してください。また、電話による問い合わせには一切応じられませんので、質問などがある場合は直接窓口に来室してください。

3．緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について

事故、災害などにより通常利用している交通機関の運行が停止した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

1．通常利用している交通機関運休時における対応

⑴　代替交通機関を利用して登校が可能と判断できた場合には、危険な状況でない限り、極力、登校するよう努めてください。

⑵　代替交通機関の利用ができず登校できなかった場合には、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に用意されている「交通機関不通による授業欠席届」に、交通機関などが発行した遅延証明書、事故証明書などを添えて授業担当者に提出して欠席分の学習補填の指示を受けてください。

2．台風の接近時などの対応

台風の接近などによる被害が予想される場合には、休講などの特別措置がとられることがあります。

3．大規模地震の発生が予想されるときの対応

⑴　大規模地震対策特別措置法による「地震防災対策強化地域判定会」の招集が報道された時点で休校措置がとられます。

⑵　警戒宣言が解除され、または「判定会」が解散されたときは、休校を解き、平常授業に戻ります。

緊急時の情報提供

大学ホームページ　　http://www.aoyama.ac.jp

緊急時には、原則として「学生ポータル」では情報提供されません。

4．新型インフルエンザに対する本学の対応について

新型インフルエンザは、ほとんどの人が免疫を獲得していないため、世界的な大流行（パンデミック）となり、大きな健康被害とそれに伴う社会的影響をもたらすことが懸念されています。また、昨今その種類も増加傾向にあり、学校における新たな危機管理項目として位置づけられています。

青山学院としては、国内における発生が認められた場合は、政府の対応・方針に準ずると共に、幼稚園から大学までの完全休校（休校の期間は 1 か月以上の長期に渡る可能性があります）も視野に入れた対応を決定の上、周知いたします。

休校の開始や解除の周知につきましては、大学ホームページ（http://www.aoyama.ac.jp）や学内一斉配信メール（学生ポータル等）、緊急連絡網、文書等でお知らせいたします。なお、各自におかれましても、新型インフルエンザに関する情報に注意し、政府の発表するフェーズ（警戒段階）によっては、登校を控えるなど感染予防に努めるようにしてください。

Ⅵ. 試験・レポートについて

授業科目の履修状況を評価し単位を認定するため、試験が行われます。試験は、筆記のほかに、科目によっては、論文、レポート、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法で行われることもあります。

試験は、受験資格のある学生のみ受験できます。

受験資格は、以下のとおりです。

① 受験する授業科目を履修登録していること

② 学費を納入済みであること

なお、学期を通じ欠席の多い学生は、その科目の受験資格を失うことがあります（学生共通細則第７条参照）。

1．試験の種別

定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を定期試験といいます。

試験時間割は、試験開始日の約２週間前に「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。試験実施教室や時間割は通常授業時と異なります。

平常試験

定期試験期間以外の、平常の授業時間に行う試験を平常試験といいます。この場合、担当者によって実施日その他詳細が決定されます。情報は授業教室・course power 等担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

レポート

論文やレポートはオリジナルなものであることが不可欠です。もし他人の発言や文章に拠った場合は、必ずその旨を記してください。そうでない場合は、剽窃（他人の文章などを盗むこと）と判断され、不正行為となりますので、ご注意ください。

レポートは、提出先によって２種類あります。

【教務提出レポート】

おおむね定期試験の前後に受付が行われます。詳細は「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

テーマ、枚数、提出期限などを確認し、必ず指定された期間（時間）内に提出してください。指定された期間内であれば、当該授業科目開講キャンパスに限らず、どちらのキャンパスでも受付けます。

提出後の内容変更および指定された期間以外の提出は認めません。

このレポートを提出するときは、以下の点に注意してください。

① 用紙は指定されたものを使用してください。

② 必ず大学所定のレポート提出票を貼付してください。

③ レポート提出票には、整理番号その他、記入事項のすべてを「学生ポータル」で確認の上、ボールペンで記入してください。鉛筆書きは受け付けません。

④ 受付窓口に持参する際は、提出票記入・ホチキス留めなどをすべて完了し、作成が完了した状態にしておいてください。受付窓口での提出票記入・ホチキス留めはできません。

⑤ 提出した際に受領印の押印された「レポート提出票（学生控）」を受け取り、成績が発表されるまで各自保管しておいてください。後日、提示を求められる場合があります。

【担当者提出レポート】

情報は授業教室・course power 等担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」

で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。テーマ、用紙、枚数、提出期限、提出方法など、すべて担当者の指示に従ってください。

提出先として**学務課あるいは学務部教務課設置の提出ボックスまたは青山スタンダードレポート提出コーナー**を指定される場合がありますが、このレポートは**担当者提出レポート**として扱います。

追試験

定期試験に限り、病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。受験資格は厳密に定められており、**自己の不注意によって受験できなかった場合、および、公的な証明書のない場合は、追試験を受けることはできません。**

資格および申請方法などについては後述の「**３．追試験の受験**」を参照してください。なお、出席日数不足など、担当者の判断によって追試験の受験が認められない場合があります。

> 定期試験期間中は、試験の有無にかかわらず、定期試験期間最終日まで予定（旅行など）を入れないでください。
>
> また、やむを得ず追試験の申請をすることも想定し、追試験実施日（学生ポータルで発表）にも留意してください。

２．定期試験の受験

定期試験時間

定期試験時間割は以下のとおりです。授業時間割とは異なるので注意してください。

定期試験科目配置上、５時限で実施できないことが起きた場合のみ６・７時限目にも配置します。

試験時間は原則として60分です（理工学部・社会情報学部専門科目のみ最長85分の場合があります）。

第１時限	９：30 ～ 10：30
第２時限	11：10 ～ 12：10
第３時限	13：10 ～ 14：10
第４時限	14：50 ～ 15：50
第５時限	16：30 ～ 17：30
第６時限	18：20 ～ 19：20
第７時限	19：40 ～ 20：40

受験上の注意

受験上の注意は以下の通りです。あらかじめよく読んでおいてください。

試験教室で配布される受験票は、試験を受けた証拠になりますので学年・クラス番号等、正確に記入してください。答案用紙の学年・クラス番号を正しく記入しない場合、担当教員の成績報告に支障をきたすことがあります。また指定されたクラス・試験教室で必ず受験してください。

受験上の注意

１．監督者の指示に従うこと。
２．机の空いている限り、一机一名で着席すること。
３．机上等に書き込みがある場合は、開始前に申し出ること。
４．学生証はケースから出し、通路側の机上に置くこと。**※注**
５．以下の行為は、不正行為に該当するので充分留意すること。
　①　受験資格のない者の受験（代人も含む）。
　②　答案の交換及び他人の答案を盗み見ること。

③　カンニングペーパー（縮小コピー）等の準備および使用。
④　答案用紙を提出せずに試験場から退室すること。
⑤　机の中にノート、コピー、文献等を開いたまま置くこと。
⑥　所持品やかばん、透明ファイルケース等の中身が見える形のまま、身の回りに置くこと。

6．机上には、許可された文献類および筆記用具以外は置かないこと。
なお、筆箱・ペンケース等も置いてはならない。

7．携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器類の電源を切り、かばん等に入れておくこと。なお、これらの電子機器類は時計として使用できない。

8．試験終了前に退室する場合は、他の受験者の妨げにならないよう留意すること。

9．不正行為は恥ずべき行為であり大学として厳重に対処する。

※注　学生証を提示しない学生は受験できません。

・試験当日学生証を忘れた場合、相模原キャンパスでは学務課、青山キャンパスでは学務部教務課で学生カードを受け取り受験してください。学生カードの使用については以下の点に注意してください。
　a．学生カードは、試験受験以外には一切利用できません。
　b．学生カードは発行日に限り記載者本人のみ有効です。使用後は自己の責任において適切に処分してください。

・試験開始後20分以上の遅刻者は受験できません。また試験開始後30分を経過するまで退室できません。

3．追試験の受験

申請資格

定期試験を病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生のみ申請することができます。

以下の場合には追試験の対象とはなりません。

①　自己の不注意（時間割の見間違い・変更情報の見落としなど）によって受験できなかった場合
②　公共交通機関以外を利用した場合の、天候や交通事故などによる道路の渋滞、車両の故障を理由とする遅刻・欠席の場合
③　平常試験（定期試験以外の試験を指す）の場合
④　定期試験を受験した場合

申請方法

申請の日程、追試験日程については、定期試験前に「学生ポータル」で発表します。

追試験の受験を希望する学生は、**直接、授業科目の開講キャンパスの教務窓口**（巻末参照）**で、定められた期間に申請してください。**当該授業科目開講キャンパス以外の教務窓口では申請できません。

申請時には、当該試験の受験が不可能であったことを証明する公的な書類を持参してください。公的な書類は、**学生氏名、定期試験を受験できなかった日時、理由、証明者名の記載および証明者印のあるもの**に限ります。**コピーは不可です。**「追試験願」用紙を交付しますので、その場で記入し、持参した書類とともに提出してください。なお、受験料は無料です。

欠席理由と、それを示す証明書は次のとおりです。

理　　由	証　　明　　書
病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）
忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※ 法事は忌引に含めない	死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの）および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）
就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）
災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書
交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず教務窓口で指示を受けること）
教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務課にて発行）
科目の時限重複	定期試験実施前に教務窓口で指示を受けること

上記以外の理由または、公的な証明書が無い場合については、事前に「**追試験受験資格審査**」を受けてください。審査で認められた場合のみ申請することができます。

追試験時間・採点

原則として60分で実施し、答案は100点満点で採点されます。

4．不正行為

不正行為を行った学生は、以下に示す『試験における不正行為者処分規則』が適用され、単位を修得することができません。科目によっては4年間で卒業することが不可能になります。

青山学院規則集『試験における不正行為者処分規則』より抜粋

第３条　不正行為者の処分内容は、学則に基づく懲戒処分（訓告、停学、退学）とするほか不正行為を行った授業科目、当該授業科目を含む数科目または全授業科目の履修届を無効とする。

第４条　不正行為者の氏名および処分は学内に掲示し、本人および保証人へ通知する。

不正行為とは、**『試験における不正行為者処分規則施行細則』第２条**に定められた、以下の行為をいいます。

① 代人として受験することまたは代人に受験させること。
② 答案を交換すること。
③ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）の用意またはそれらを使用すること。
④ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）を廻し見すること。
⑤ 使用が許可されていない文献等を使用すること。
⑥ 使用が許可されている文献等を貸借すること。
⑦ 所持品、身体、机、壁等に解答およびそれに類するものを書き込むこと。
⑧ 答案を写させること、または写しとること。
⑨ 他人の答案を盗み見ること。
⑩ 声、動作等で解答を伝達すること、または伝達を受けること。
⑪ 受験資格のない者が受験すること。
⑫ 他人の学生証を使用して受験すること。
⑬ 偽名または故意により無記名答案を提出すること。
⑭ 答案を提出しないこと。
⑮ 監督者の指示や注意に従わないこと。
⑯ その他上記各号に類すると認められる行為。

Ⅶ. 成績評価について

成績評価

学業成績は、授業科目ごとに行う**試験（筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法）**によって評価されます。

本学の成績は100点法によって評価されます。60点以上が合格とされ、所定の単位が与えられます。

成績証明書および成績通知書にはAA、A、B、Cの表記が用いられます。ただし、「情報スキルⅠ」、指定の海外研修等については、所定の単位が与えられた場合、成績証明書には「RR」、成績通知書には「合格」と表示されます。

実点数範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100～90	AA	AA
89～80	A	A
79～70	B	B
69～60	C	C
59以下または不合格	XX	表示せず
欠席	X	表示せず
「情報スキルⅠ」、海外研修等による単位修得	合格	RR

G.P.A.

G.P.A.（Grade Point Average）とは、学生の履修登録科目の1単位あたりの評点平均値を指します。これは、欧米で広く用いられている世界標準的な成績評価方法で、本学では給付奨学金の候補者選出、学位授与式の総代選出、本学大学院進学などの際に活用されています。

履修した科目には、A、B、C、XXなどの成績が与えられます。これらの評価を数値化して1単位ごとの平均を算出したものがG.P.A.です。

本学では、各評価に与えられる評点は次のとおりです。

G.P.A. 算出対象評価

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX(不合格)	0.0
X （欠席）	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめてG.P.A.を算出します。

$$\text{G.P.A.} = \frac{(\text{AA の単位数} \times 4 + \text{A の単位数} \times 3 + \text{B の単位数} \times 2 + \text{C の単位数} \times 1)}{(\text{AA の単位数} + \text{A の単位数} + \text{B の単位数} + \text{C の単位数} + \text{XX の単位数} + \text{X の単位数})}$$

※理工・社会情報学部は、教職課程科目をG.P.A.算出の対象外とします。

※「情報スキルⅠ」、指定の海外研修等は、G.P.A.算出の対象外とします。

（本学はG.P.A.の対外的公表は一切行っておりません。）

成績通知

学生の成績評価は、9月上旬および3月上旬に学生ポータルメニュー「成績通知書」にてお知らせします。学外PCから閲覧する場合は、あらかじめ学内でSecure Matrixパスワードの登録を済ませておく必要があります。（詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。）**成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認してください。**

成績調査

成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができます。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではありません。成績に疑問を持つ**明確な根拠がある場合にのみ**申請してください。

大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）へ申し出てください。調査期間は、「学生ポータル」でお知らせします。

電話での問い合わせ、期間外の申し出には一切応じません。

Ⅷ. 進級および卒業について

進　級

進級については、所属する学部で条件が異なるので、「Ⅳ．学部履修要項」の各学部、学科の**進級条件**の項を参照してください。

卒　業

⑴　本学に4年（8期）以上在学（休学期間を除く）し、なおかつ4年次に1年（2期）以上の在学が必要です。その上で、各学部で定められた卒業に必要な単位を修得した者に卒業が認められ、学士の学位が授与されます。なお、休学期間中に卒業することはできません。

※卒業の時期は4年次3月とし、卒業発表は3月上旬に行います。卒業の可否は必ず本人が確認してください。電話による問い合わせには一切応じておりません。

9月卒業

上記の卒業の条件を満たした場合、願い出によって4年次の9月に卒業できる制度があります。

⑴　希望者は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）で相談し、**「9月卒業希望届」**を定められた期間に提出してください。期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。

⑵　前期で卒業要件単位を修得した場合でも、「9月卒業希望届」の提出がなければ9月卒業できません。

⑶　学費については、本学の庶務部経理課に問い合わせてください。

卒業延期制度

4年次に在学する学生が卒業要件を満たし、具体的な勉学継続計画、国家試験受験等明確な理由、目的を有したうえで、在学期間を延長して学修継続を希望する場合、卒業の延期を認めて学修継続の機会を与える制度です。

⑴　希望者は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）で相談し、**「卒業延期許可願」、「学修計画書」、「誓約書・保証書」**を定められた期間に提出してください。

⑵　期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。

⑶　学費については、本学の庶務部経理課に問い合わせてください。

Ⅸ．証明書について

<table>
<tr><th rowspan="2">種類</th><th rowspan="2">交付方法</th><th colspan="2">問い合わせ窓口</th><th rowspan="2">手数料
（１通につき）</th></tr>
<tr><th>青山キャンパス</th><th>相模原キャンパス</th></tr>
<tr><td>①在学証明書</td><td rowspan="4">自動発行機</td><td rowspan="4">教務課</td><td rowspan="4">学務課</td><td rowspan="4">和文　400 円
英文　400 円
（卒業証明書は窓口発行）</td></tr>
<tr><td>②成績証明書</td></tr>
<tr><td>③履修科目証明書</td></tr>
<tr><td>④卒業見込証明書 ※</td></tr>
<tr><td>⑤学力に関する証明書</td><td rowspan="3">窓口</td><td rowspan="3">教職課程課</td><td rowspan="3">学務課
教職課程担当</td><td rowspan="3">和文　400 円
（申請５日後に交付）</td></tr>
<tr><td>⑥教員免許状取得見込証明書</td></tr>
<tr><td>⑦各種資格取得見込証明書</td></tr>
<tr><td>⑧健康診断証明書（和文）</td><td>自動発行機</td><td colspan="2" rowspan="2">保健管理センター</td><td rowspan="2">和文　400 円
英文　400 円
（英文は申請１週間後に交付）</td></tr>
<tr><td>⑨健康診断証明書（英文）</td><td>窓口</td></tr>
</table>

※卒業見込証明書は、各学部学科における卒業に必要な最低単位数から３年次終了時までに修得した単位数を引いた単位数が、当該年度の最高履修制限単位内であれば、発行されます。

履修順序がある必修科目が履修できない等により、卒業できないことが確定している場合でも上記条件を満たしていれば卒業見込証明書は発行されますので、注意してください。

－注意－
- スケジュール等詳細は学生ポータルを参照してください。
- 自動発行機による証明書は、本学書式による証明書です。
- 提出先が定めた指定書式による証明書が必要な場合は、別途各在籍キャンパスの証明書取扱窓口まで問い合わせてください。
- 証明書用封筒は学務部教務課（青山キャンパス）・学務課（相模原キャンパス）又は、保健管理センター窓口でお渡しします。また、厳封が必要な場合は窓口に申し出てください。
- 上記以外の証明書が必要な場合は窓口で相談してください。

X．学籍について

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>内　　容</th><th>取扱・問い合わせ窓口</th></tr>
<tr><td colspan="2">修業年限</td><td>本学の教育課程を修了するために必要な最低修業年限は、４年です。</td><td>学則第35条参照</td></tr>
<tr><td colspan="2">在学年限</td><td>①　本学に在学できる期間は、休学期間を除き８年です。
②　２年次編入学生、２年次転学部・転学科生の在学年限は６年です。
③　３年次編入学生、３年次転学部・転学科生の在学年限は４年です。
④　再入学者の在学年限は、退学以前を加えて８年です。
⑤　編入学または転学部・転学科をした再入学者の在学年限は、退学以前を加え、編入学または転学部・転学科学生の在学年限を越えることはできません。</td><td>学則第36条参照</td></tr>
<tr><td rowspan="3">休学</td><td>休学期間</td><td>①　休学期間は、通年（１年間）、前期、後期の３種類があり、１年または１学期ごとに更新しなければなりません。
②　休学期間は連続２年までとしますが、特にやむを得ない場合は、審議をしたうえで、連続して３年まで認めることがあります。
③　休学期間は通算して３年を超えることはできません。
④　休学期間は在学期間に算入しません。</td><td>学則第29・36条参照</td></tr>
<tr><td>休学をするには</td><td>病気その他やむを得ない理由で休学しようとする学生は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。
①「休学願」（大学所定用紙）（保証人連署）の提出
②　学生証の提示
③　休学費の納入</td><td>（手続き）
⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）
学則第28条参照

（休学費）
⇒学費・奨学金課
（青山キャンパス）
⇒学生生活課
（相模原キャンパス）
学則　別記学費納付に関する取扱い８参照</td></tr>
<tr><td>休学願の提出期限</td><td>「休学願」の提出期限は次のとおりです。
<table>
<tr><th></th><th>休学期間</th><th>提出期限</th></tr>
<tr><td>通年休学</td><td>４月１日～翌年３月31日</td><td>６月末日</td></tr>
<tr><td>前期休学</td><td>４月１日～９月30日</td><td>６月末日</td></tr>
<tr><td>後期休学</td><td>10月１日～翌年３月31日</td><td>12月末日</td></tr>
</table></td><td>⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）</td></tr>
<tr><td>復学</td><td>復学をするには</td><td>休学者が復学を希望する場合、大学所定の「復学願」を提出し、教授会の承認を経て復学することができます。休学期間満了の約２ヶ月前に、学務部教務課（相模原キャンパスは学務課）から次期の復学・休学の継続などについての問い合わせをします。なお、復学が承認された場合の年次は、休学の時期や期間によって異なります。詳細は所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に問い合わせてください。</td><td>⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）

学則第30条参照</td></tr>
</table>

		内　　容	取扱・問い合わせ窓口
退学	退学の期日	退学の期日は、学費の納付期間によって異なります。前期分まで納付している場合は９月30日付、後期分まで納付している場合は３月31日付となります。	学則　別記学費納付に関する取扱い10参照
	退学をするには	病気その他やむを得ない事情で退学を希望する場合は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ①「退学願」（大学所定用紙）（保証人連署）の提出 ②　学生証の提出 ③　退学期日を含む学期までの学費の納入	⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照） 学則第32条参照
再入学		退学した後に再入学を願い出た場合、事情を審査のうえ相当年次に再入学を許可することがあります。願い出をするためには以下のような条件があります。 ①　再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から２年以内とし、「再入学願」は１月中旬～１月末日（要問い合わせ）の間に所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に提出してください。 ②　再入学できる時期は、学年の初めとします。	⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照） 学則第27条参照
二重学籍	二重学籍の禁止	本学学生は、他大学および本学他学部または他学科と併せて在学することはできません。	学則第27条の２参照
除籍		学費を期限内に納入しない、履修登録をしない、などの場合は修学の意思がないものとして除籍され、本学学生としての身分を失うことになります。なお、除籍者に対しては、以後、在学中の修得単位・成績の証明などは一切行ないません。また、再入学の資格も失うことになります。	学則第34条参照
転学部・転学科	転学部とは	所属学部から文学部、教育人間科学部、法学部、国際政治経済学部、社会情報学部へ学部を移ることです。転学部を願い出た場合には、選考の上、当該学部への転学部を許可することがあります。許可された場合、転学部届の提出が必要となります。	⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照） 学則第26条参照 （詳細については、本学Webサイトに７月以降掲出予定の「試験要項」を確認してください。）
	転学科とは	同一学部内で学科を移ることです。文学部、教育人間科学部、国際政治経済学部の学生で転学科を願い出た場合には、選考の上、当該学科への転学科を許可することがあります。許可された場合、転学科届の提出が必要となります。	

Ⅺ．教職課程（教員免許状・各種資格）について

1．本学で取得可能な教育職員免許状

〔取得可能な教員免許状の種類・教科（学部・学科別）〕

本学で取得可能な教員免許状の種類・教科は次のとおりです。

学　部	学　科	免許状の種類・教科
文学部	英米文学科	中 学 校教諭１種免許状（英語） 高等学校教諭１種免許状（英語）
	フランス文学科	中 学 校教諭１種免許状（フランス語） 高等学校教諭１種免許状（フランス語）
	日本文学科	中 学 校教諭１種免許状（国語） 高等学校教諭１種免許状（国語）
	史学科	中 学 校教諭１種免許状（社会） 高等学校教諭１種免許状（地理歴史）
教育人間科学部	教育学科	幼 稚 園教諭１種免許状 小 学 校教諭１種免許状 中 学 校教諭１種免許状（国語・社会・英語） 高等学校教諭１種免許状 （国語・地理歴史・公民・英語）
理工学部	物理・数理学科	中 学 校教諭１種免許状（理科・数学） 高等学校教諭１種免許状（理科・数学）
	化学・生命科学科	中 学 校教諭１種免許状（理科） 高等学校教諭１種免許状（理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭１種免許状（工業）
	機械創造工学科	高等学校教諭１種免許状（工業）
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭１種免許状（情報）
社会情報学部	社会情報学科	中 学 校教諭１種免許状（数学） 高等学校教諭１種免許状（数学・情報）

2．教員免許状の取得希望申請について

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』を熟読の上、**前期履修登録期間**に Web の履修登録画面から**「教職・各種資格申請」**の画面を開き、登録を行ってください。申請を行わなければ履修できない科目がありますので注意してください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に行うものであり、教職課程履修継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。なお、後期履修登録期間は Web の履修登録画面から教職・各種資格申請はできないので注意してください。後期より申請の追加を希望する場合は、教職課程課（相模原キャンパスは学務課教職課程担当）窓口にて相談してください。

3．教職課程料の納付について

教員免許状の申請登録（Web）をすると、申請した年度ごとに後期学費納付時に教職課程料を納付することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、**教員免許状の申請登録（Web）によって教職課程料が後期学費に加算されます**ので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納付された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、教職課程料の納付時期は９月となります。

４．教職課程履修について

履修上の注意

教職課程の履修は、１年次の年度初頭に開催される**教職課程オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。また、履修方法・科目名称の変更などについては、年度初頭に開催される２年次生対象**教職課程オリエンテーション**と３年次生および４年次生対象**教育実習・教職実践演習説明会**で資料を配付しますので、必ず確認してください。

教職課程関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**などの詳細については、**年度初頭行事日程**（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**介護等体験登録、教育実習Ⅱ・教職実践演習予備登録、教員免許状大学一括申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までに教員免許状を取得できない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください。

履修順序のある科目

教員免許状取得のための科目には、次ページ以下のとおり**「履修順序」**が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の該当する学部・学科別の免許教科の項を併せて参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な教員免許状の校種・教科は、**「１．本学で取得可能な教育職員免許状」**の表のとおりです。

〔教員免許状取得に必要な科目の履修順序〕

幼稚園教諭免許状取得希望者

第１段階		第２段階		第３段階
			第１段階に合格した場合のみ履修できる	第２段階に合格した場合のみ履修できる
（１年次配置科目）	（２年次配置科目）	（３年次配置科目）		（４年次配置科目）
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を３教科以上	幼児教育実習Ⅰ	幼児教育実習Ⅱ 教職実践演習(幼)

小学校教諭免許状取得希望者

第１段階		第２段階		第３段階
			第１段階に合格した場合のみ履修できる	第２段階に合格した場合のみ履修できる
（１年次配置科目）	（２年次配置科目）	（３年次配置科目）		（４年次配置科目）
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を４教科以上	初等教育実習Ⅰ	初等教育実習Ⅱ 教職実践演習(小)

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者

第１段階		第２段階	第３段階
		第１段階に合格した場合のみ履修できる	第２段階に合格した場合のみ履修できる
（１年次配置科目）	（２年次配置科目）	（３年次配置科目）	（４年次配置科目）
教育原理Ａ （教育思想概説） 教育心理 （教育心理学概説） 教育原理Ｂ （教育制度概説）	教職論	中等教育実習Ⅰ 国語科教育法 　又は　国語科教材論 社会科教育法 　又は　社会科教材論 地理歴史科教育法 　又は　地理歴史科教材論 公民科教育法 　又は　公民科教材論 英語科教育法（注１） 　又は　英語科教育法特論（注１） フランス語科教育法 （フランス語教授法Ⅰ（注２）） 　又は　フランス語科教育法特論 理科教育法Ⅰ及び理科教育法Ⅱ 　又は　理科教材論 数学科教育法 　又は　数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 　又は　情報科教育法特論	中等教育実習ⅡＡ 中等教育実習ⅡＢ 教職実践演習(中・高)

（注１）　英米文学科の学生は、第１段階の科目を修得していなくても「英語科教育法」「英語科教育法特論」を履修することができます。

（注２）　フランス文学科の学生は、第１段階の科目を修得していなくても「フランス語教授法Ⅰ」を履修することができます。

5．教職課程科目配置表

文学部
教育人間科学部
理工学部
社会情報学部

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。

	科目名	単位数	履修年次	
教職課程科目	教職論	2	2	
	教育原理Ａ	2	1	
	教育心理	4	1	
	教育原理Ｂ	2	1	
	教育課程編成法（中等）	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	理科教育法Ⅰ	2	3	
	理科教育法Ⅱ	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道徳教育指導法（中等）	2	3・4	
	特別活動論（中等）	2	3・4	
	教育方法の研究（中等）	2	3・4	
	生徒・進路指導論（中等）	2	3・4	
	教育相談（中等）	2	3・4	
	幼児教育実習Ⅰ	1	3	
	幼児教育実習Ⅱ	4	4	
	初等教育実習Ⅰ	1	3	
	初等教育実習Ⅱ	4	4	
	中等教育実習Ⅰ	1	3	
	中等教育実習ⅡＡ	2	4	
	中等教育実習ⅡＢ	2	4	
	教職実践演習（幼）	2	4	
	教職実践演習（小）	2	4	
	教職実践演習（中・高）	2	4	

6．本学で取得可能な資格
〔取得可能な資格の種類（学部・学科別）〕

本学で取得可能な資格の種類は次のとおりです。

学　部	学　科	資格の種類
文学部	英米文学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	フランス文学科	
	日本文学科	
	史学科	
	比較芸術学科	司書・社会教育主事・学芸員
教育人間科学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
経済学部	経済学科	司書・社会教育主事・学芸員
	現代経済デザイン学科	
法学部	法学科	司書・社会教育主事・学芸員
経営学部	経営学科	司書・社会教育主事・学芸員
	マーケティング学科	
国際政治経済学部	国際政治学科	司書・社会教育主事・学芸員
	国際経済学科	
	国際コミュニケーション学科	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	司書・社会教育主事・学芸員
理工学部	物理・数理学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	化学・生命科学科	
	電気電子工学科	
	機械創造工学科	
	経営システム工学科	司書・社会教育主事・学芸員
	情報テクノロジー学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
地球社会共生学部	地球社会共生学科	司書・社会教育主事・学芸員

7．各種資格の取得希望申請について

各種資格（**司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員**）の取得を希望する者は、入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』を熟読の上、**前期履修登録期間**に、Web の履修登録画面から**「教職・各種資格申請」**の画面を開き、登録を行ってください。申請を行わなければ履修できない科目がありますので注意してください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に行うものであり、各種資格課程履修継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。なお、後期履修登録期間は Web の履修登録画面から教職・各種資格申請はできないので注意してください。後期より申請の追加を希望する場合は、教職課程課（相模原キャンパスは学務課教職課程担当）窓口にて相談してください。

8．資格課程料の納付方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の申請登録（Web）をすると、それぞれの資格について資格課程料を納付することになります。納付時期は３年次または４年次で最初に申請登録をした年度の後期学費納付時となり、在学中１回の納付となります。たとえ必要科目の履修登録をしなくても、**各種資格の申請登録（Web）によって資格課程料が後期学費に加算されます**ので、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納付された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※各種資格の取得を希望する者は、毎年度、各種資格の申請登録（Web）を行ってください。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、資格課程料の納付時期は９月となります。

9．各種資格取得に必要な科目の履修について

履修上の注意

各種資格取得に必要な科目の履修は、１年次の年度初頭に開催される**各種資格オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。

また、履修方法・科目名称などの変更があった場合には、年度初頭に開催される２年次生対象の**司書教諭・司書・社会教育主事オリエンテーション、学芸員オリエンテーション**などで資料を配付しますので、必ず確認してください。

各種資格関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**などの詳細については、**年度初頭行事日程**（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**「博物館実習Ⅰ」・「ミュージアム実習Ⅰ」予備登録や各種資格申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までに資格の取得ができない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください（ただし、司書教諭資格の取得時期については、『**教職課程履修の手引**』を参照してください）。

履修順序のある科目

司書および**学芸員**資格取得のための科目には、**「履修順序」**が定められたものがあります。詳細については、下表および『**教職課程履修の手引**』の**司書**および**学芸員**の項を参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な資格の種類は、**「６．本学で取得可能な資格」**の表のとおりです。

〔司書資格取得に必要な科目の履修順序〕

第１段階	第２段階
２年次以降履修できる	第１段階の科目に合格した翌年度以降にのみ履修できる
（２年次配置科目）	（３・４年次配置科目）
図書館情報学概論	情報サービス論Ⅱ 情報サービス論Ⅲ メディア組織法Ⅱ メディア組織法Ⅲ

〔学芸員資格取得に必要な科目の履修順序〕

第１段階		第２段階
２・３年次のみ履修できる	３年次のみ履修できる	第１段階に合格した場合のみ履修できる
（２年次配置科目）	（３年次配置科目）	（４年次配置科目）
博物館概論 博物館経営論 博物館資料論	博物館実習Ⅰ	博物館実習Ⅱ

- **「博物館実習Ⅰ」は３年次生しか履修できません。**
- 「博物館実習Ⅰ」の履修については、２年次後期の予備登録が必要です。受講者を制限する必要が生じた場合は、予備登録後に選抜試験を実施します。
- **「博物館実習Ⅰ」予備登録**の日程については、教職課程掲示板で確認してください。

第１段階		第２段階
2・3年次のみ履修できる(注１)	3年次のみ履修できる	第１段階に合格した場合のみ履修できる
（2年次配置科目）	（3年次配置科目）	（4年次配置科目）
ミュージアム概論 ミュージアム経営論 ミュージアム資料論	ミュージアム実習Ⅰ	ミュージアム実習Ⅱ

・**「ミュージアム実習Ⅰ」は３年次生しか履修できません。**

・「ミュージアム実習Ⅰ」の履修については、２年次後期の予備登録が必要です。受講者を制限する必要が生じた場合は、予備登録後に選抜試験を実施します。

・**「ミュージアム実習Ⅰ」予備登録**の日程については、教職課程掲示板で確認してください。

（注１）　総合文化政策学科の学生は、自学科の専門科目として「ミュージアム概論」、「ミュージアム経営論」、「ミュージアム資料論」を４年次で履修することができますが、第１段階の科目に合格しないと第２段階の「ミュージアム実習Ⅱ」は履修できないので、履修順序に注意してください。

履修順序のある科目の登録方法

①　「博物館実習Ⅰ」および「ミュージアム実習Ⅰ」（3年次配置科目）は、**事前登録科目**です。２年次後期に**予備登録**をし、必要に応じて実施される３年次年度初頭の選抜試験に合格することにより**事前登録**されるので、履修登録期間中に個人が登録する必要はありません。履修登録期間中に、Webの履修登録画面で登録内容を確認してください。

②　「博物館実習Ⅱ」および「ミュージアム実習Ⅱ」（4年次配置科目）は、Webの履修登録画面から各自が登録をしてください。履修順序の条件を満たしていない場合は、登録することができません。

Ⅻ. 大学院について

本学には、より高度な専門知識と技術の修得について高い評価をうけている「大学院」各研究科・専攻に加え、時代と社会の要請に応える高度専門職業人養成の「専門職大学院」があります。

学部から本学「大学院」「専門職大学院」へ進学を希望する学生は、詳細を下記に問い合わせてください。

《問い合わせ先》

大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
文学研究科 教育人間科学研究科 経済学研究科 法学研究科 経営学研究科 国際政治経済学研究科 総合文化政策学研究科	教務課 所在：青山キャンパス　17号館２階
理工学研究科 社会情報学研究科	学務課 所在：相模原キャンパス　Ｂ棟１階

専門職大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
国際マネジメント研究科（ビジネススクール） 会計プロフェッション研究科（アカウンティングスクール）	専門職大学院教務課 所在：青山キャンパス　17号館２階

＊青山学院大学ホームページ（http://www.aoyama.ac.jp）にも、情報が載っていますので、参照してください。

＊上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」でお知らせします。

大学院 入試情報一覧（2018年度入試実績）

		学内進学者選抜	一般（秋）	一般（春）	特別	大学院科目特別履修資格試験※1
文学研究科	英米文学専攻＊1	○	○	○		○
	フランス文学・語学専攻＊1		○	○		○
	日本文学・日本語専攻＊1		○	○		○
	史学専攻＊1		○	○		○
	比較芸術学専攻＊1		○	○		○
教育人間科学研究科	教育学専攻＊1		○	○		
	心理学専攻＊1 心理学コース 臨床心理学コース	○		○		
経済学研究科	経済学専攻＊1	○	○	○		○
	公共・地域マネジメント専攻＊1	○	○	○		○
法学研究科	私法専攻＊1	○	○	○	○	
	公法専攻＊1					
	ビジネス法務専攻＊2		○（実施時期は要問い合わせ）			
経営学研究科	経営学専攻＊1	○	○	○		○
国際政治経済学研究科	国際政治学専攻＊2	○	○	○		○
	国際経済学専攻＊2					
	国際コミュニケーション専攻＊2					
総合文化政策学研究科	文化創造マネジメント専攻＊2	○	○	○		○
	総合文化政策学専攻＊3	○	○	○		
理工学研究科	理工学専攻＊1 基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	○	○（実施時期は要問い合わせ）			
社会情報学研究科	社会情報学専攻＊1 社会情報学コース ヒューマンイノベーションコース	○	○（実施時期は要問い合わせ）			○

専門職大学院 入試情報一覧（2018年度入試実績）

		自己推薦・指定学部推薦入試			一般入試			大学院科目特別履修資格試験※1
		7月	10月	1月	10月	12月	2月	
国際マネジメント研究科	国際マネジメントサイエンス専攻＊3				○		○	
	国際マネジメント専攻＊4				○	○	○	
会計プロフェッション研究科	会計プロフェッション専攻＊4	○	○	○	○			○

注）会計プロフェッション研究科の1月の入試は、自己推薦入試のみ実施

＊1　博士前期課程
＊2　修士課程
＊3　博士課程（5年一貫制）
＊4　専門職学位課程

※1　「大学院科目特別履修資格試験」に合格した者は、学部4年次で大学院科目を履修できます。
経済学研究科・経営学研究科では「先取り科目履修方式」もあります。
文学研究科では2017年度より「先取り科目履修方式」を導入しています。

教務窓口について

窓口で取り扱う業務：

●履修・成績に関すること　●授業に関すること　●休学・退学などの学籍に関する願出
●教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員)取得に関すること
●証明書に関すること

【窓口・取扱時間】

キャンパス	担当窓口	事務取扱時間	
青山キャンパス	学務部　教務課 (17号館２階 スチューデントセンター)	(月～金) 9：00 ～ 11：30 12：30 ～ 18：30	(土) 9：00 ～ 11：30 12：30 ～ 15：00
	学務部　教職課程課 (17号館２階 スチューデントセンター)	(月・水・木) 9：00 ～ 11：30 12：30 ～ 17：00 (火・金) 9：00 ～ 11：30 12：30 ～ 18：30	(土) 9：00 ～ 11：30
相模原キャンパス	学務課 (Ｂ棟１階 スチューデントセンター)	(月 ~ 金) 9：00 ～ 11：30 12：30 ～ 17：00	(土) 9：00 ～ 11：30

＊上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」でお知らせします。
＊長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」でお知らせします。

＊電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。
＊提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth,The Light of the World

青山学院スクール・モットー

学生番号

氏　　名